



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

HILUX



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万ーの場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	24
安全なドライブのために	26
シートベルト	28
SRS エアバッグ	33
排気ガスに対する注意	42
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	43
チャイルドシート	44
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム	66
オートアラーム	68

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	72
計器類	78
マルチインフォメーションディスプレイ (モノクロタイプ)	83
マルチインフォメーションディスプレイ (カラータイプ)	86

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	96
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	101
テールゲート	108
スマートエントリー& スタートシステム	111
3-3. シートの調整	
フロントシート	118
リヤシート	119
ヘッドレスト	122
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	124
インナーミラー	126
ドアミラー	127
補助確認装置	130
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	132

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	138
荷物を積むときの注意	148

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ（スマート エントリー&スタート システム非装着車）	150
エンジン（イグニッション） スイッチ（スマート エントリー&スタート システム装着車）	153
オートマチック トランスミッション	159
方向指示レバー	166
パーキングブレーキ	167

4-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	168
フォグランプスイッチ	172
ワイパー & ウォッシャー	173

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	176
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

運転を支援する装置	180
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	186
LDA（レーンディパーチャー アラート）	196
クルーズコントロール	204
4WD システム	208
リヤデフロック	215
運転を補助する装置	218
ダウンヒルアシスト コントロールシステム	224
排出ガス浄化装置	227

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	230
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

マニュアルエアコン	236
オートエアコン	242

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	249
・パーソナルランプ/ インテリアランプ メインスイッチ	250
・パーソナルランプ/ インテリアランプ	250
・インテリアランプ	250

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....	252
・グローブボックス.....	253
・コンソールボックス.....	253
・カップホルダー.....	254
・ボトルホルダー.....	255
・小物入れ.....	256
荷台装備.....	259

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....	260
・サンバイザー.....	260
・バニティミラー.....	260
・時計.....	261
・アクセサリソケット.....	262
・買い物フック.....	263
・コートフック.....	264
・アームレスト.....	264
ステアリングスイッチ.....	265

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	268
内装の手入れ.....	271

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	274
AdBlue® (尿素水) の 補充.....	276
ウォッシャー液の補充.....	281
タイヤについて.....	282
タイヤ空気圧について.....	286
エアコンフィルターの 交換.....	288
キーの電池交換.....	291
ヒューズの点検・交換.....	294
電球 (バルブ) の交換.....	298

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	312
非常点滅灯 (ハザードランプ)	313
発炎筒	314
車両を緊急停止するには	316

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	318
警告灯がついたときは	323
警告メッセージが 表示されたときは	327
パンクしたときは	333
エンジンが かからないときは	347
電子キーが正常に 働かないときは (スマートエントリー& スタートシステム 装着車)	349
バッテリーが あがったときは	351
オーバーヒートしたときは	356
スタックしたときは	359

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	362
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	368
--------------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	374
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	378
アルファベット順さくいん	380
五十音順さくいん	382

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

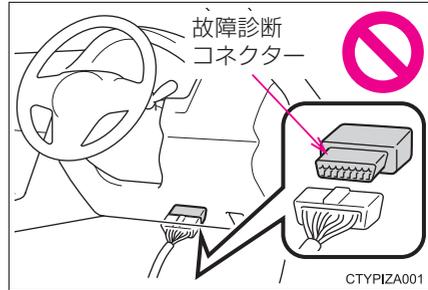
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



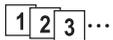
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

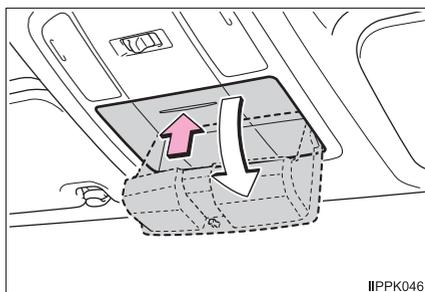
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

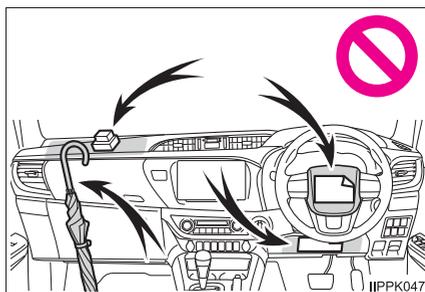
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



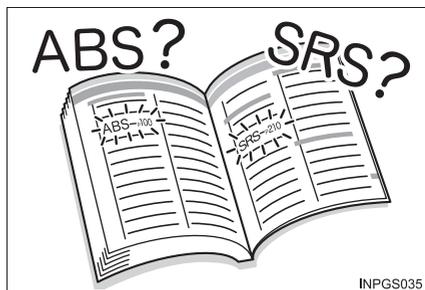
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

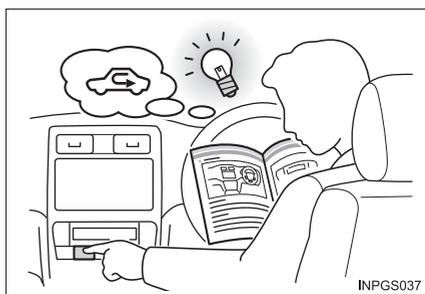
- ・ 五十音順さくいん382
- ・ アルファベット順
さくいん380



INPGS035

■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



INPGS037

■ 症状や音から探す

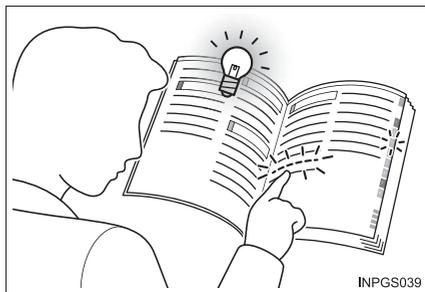
- ・ こんなときは
(症状別さくいん)374
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)378



INPGS038

■ タイトルから探す

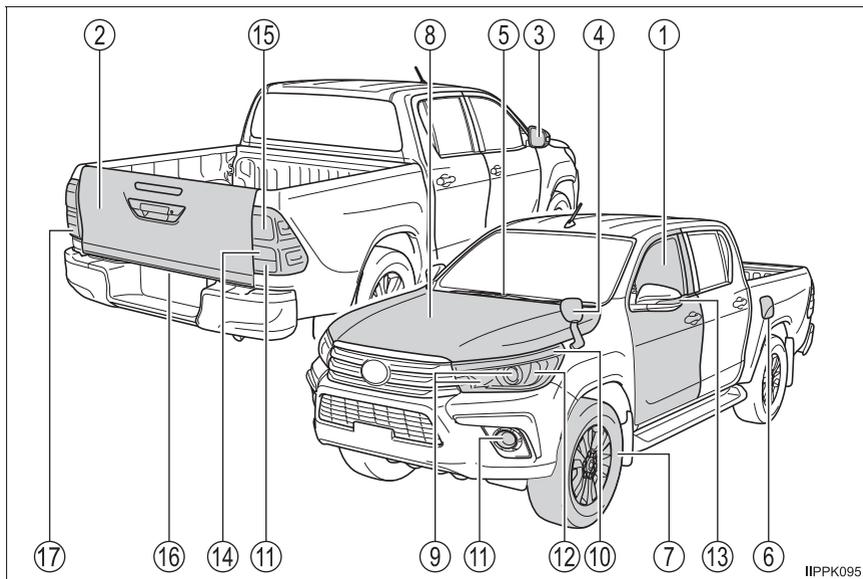
- ・ 目次2



INPGS039

イラスト目次

■ 外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。(→ P. 298)

- | | | |
|-----------------|-------|-------------|
| ① ドア | | P. 101 |
| 施錠／解錠 | | P. 101 |
| ドアガラスの開閉 | | P. 132 |
| メカニカルキー★での施錠／解錠 | | P. 349 |
| 警告メッセージ | | P. 327 |
| ② テールゲート | | P. 108 |
| ③ ドアミラー | | P. 127 |
| 鏡面の角度調整 | | P. 127 |
| ミラーの格納 | | P. 128 |
| 曇りを取る (ミラーヒーター) | | P. 237, 244 |
| ④ 補助確認装置 | | P. 130 |

- ⑤ **ワイパー**P. 173
 - 冬季の注意P. 230
 - 凍結防止（フロントワイパーデアイサー）P. 238
- ⑥ **給油口**P. 176
 - 給油方法P. 176
 - 燃料の種類・燃料タンク容量P. 362
- ⑦ **タイヤ**P. 282
 - サイズ・空気圧P. 366
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーンP. 230
 - 点検・ローテーションP. 282
 - パンク時の対処P. 333
- ⑧ **ボンネット**P. 274
 - 開け方P. 274
 - エンジンオイルP. 363
 - オーバーヒート時の対処P. 356

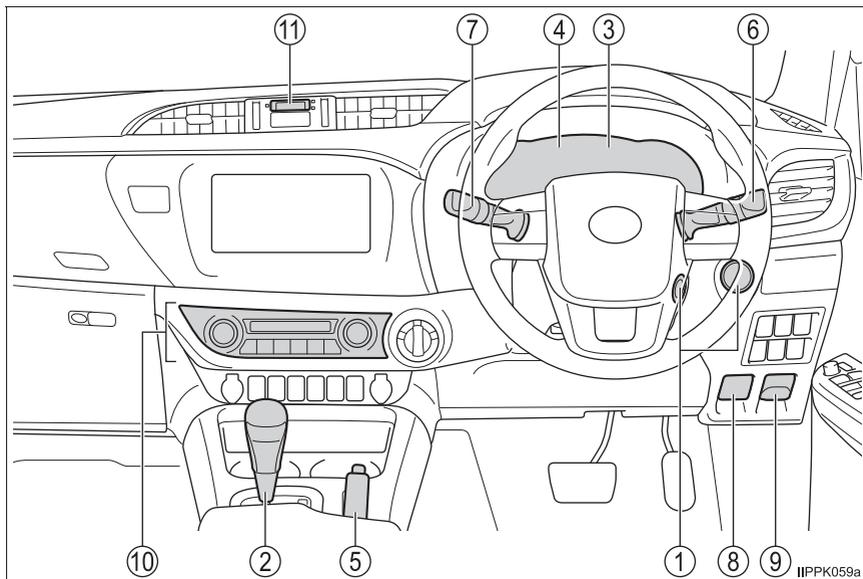
走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P. 298, ワット数：P. 367)

- ⑨ **ヘッドランプ**P. 168
- ⑩ **車幅灯**P. 168
- ⑪ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ**P. 172
- ⑫ **フロント方向指示灯**P. 166
- ⑬ **サイド方向指示灯**P. 166
- ⑭ **リヤ方向指示灯**P. 166
- ⑮ **制動灯／尾灯**P. 168
 - ダウンヒルアシストコントロールシステム★P. 224
- ⑯ **番号灯**P. 168
- ⑰ **後退灯**
 - シフトポジションを R にするP. 159

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

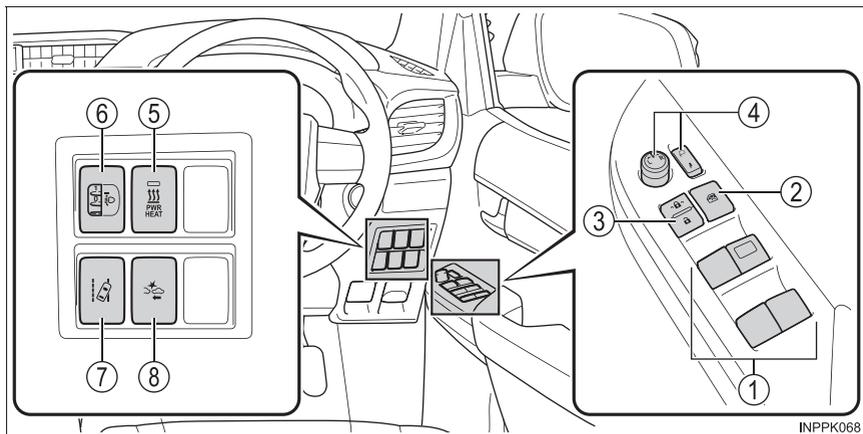
■ インストルメントパネル



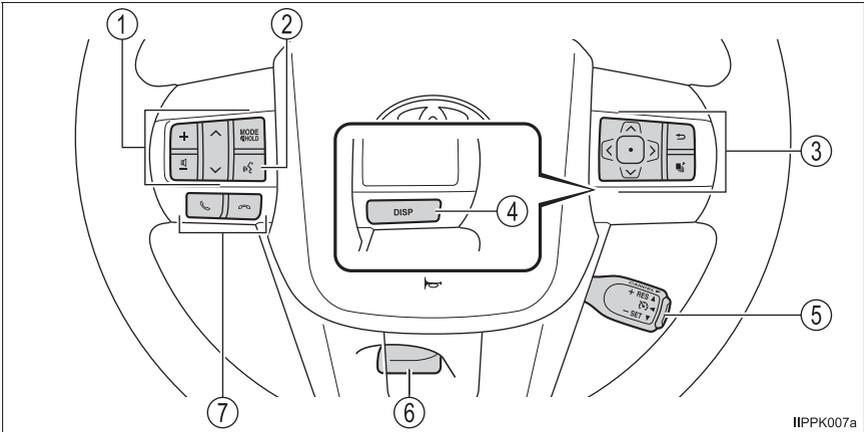
- ① エンジンスイッチ P. 150, 153
 エンジンの始動・
 位置またはモードの切りかえ P. 150, 153
 エンジンの緊急停止 P. 316
 エンジンが始動できないときの対処 P. 347
 警告メッセージ P. 327
- ② シフトレバー P. 159
 シフトポジションの切りかえ P. 159
 けん引時の注意 P. 318
 シフトレバーが動かないときの対処 P. 164

- ③ **メーター** P. 78
 - 見方 P. 78
 - 明るさの調整 P. 78
 - 警告灯／表示灯 P. 72
 - 警告灯点灯時の対処 P. 323
- ④ **マルチインフォメーションディスプレイ** P. 83, 86
 - 警告メッセージ表示時の対処 P. 327
- ⑤ **パーキングブレーキ** P. 167
 - かける・解除する P. 167
 - 冬季の注意 P. 231
 - 警告灯／警告ブザー P. 325
- ⑥ **方向指示レバー** P. 166
 - ランプスイッチ P. 168
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 P. 168
 - フロントフォグランプ・リヤフォグランプ P. 172
- ⑦ **ワイパー&ウォッシャースイッチ** P. 173
 - 使い方 P. 173
 - ウォッシャー液の補充 P. 281
- ⑧ **ボンネット解除レバー** P. 274
- ⑨ **給油扉オープナー** P. 176
- ⑩ **マニュアルエアコン★** P. 236
 - オートエアコン★ P. 242
- ⑪ **時計** P. 261

■スイッチ類

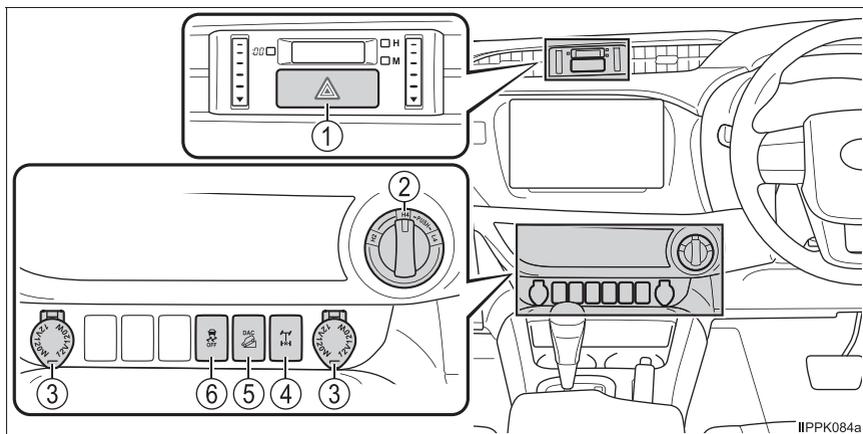


- ① パワーウィンドウスイッチP. 132
- ② ウィンドウロックスイッチP. 133
- ③ ドアロックスイッチP. 103
- ④ ドアミラースイッチP. 127
- ⑤ パワーヒータースイッチP. 238, 245
- ⑥ 手動光軸調整ダイヤル★P. 169
- ⑦ LDA (レーンディパーチャーアラート) スイッチ★P. 196
- ⑧ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) スイッチ★P. 186



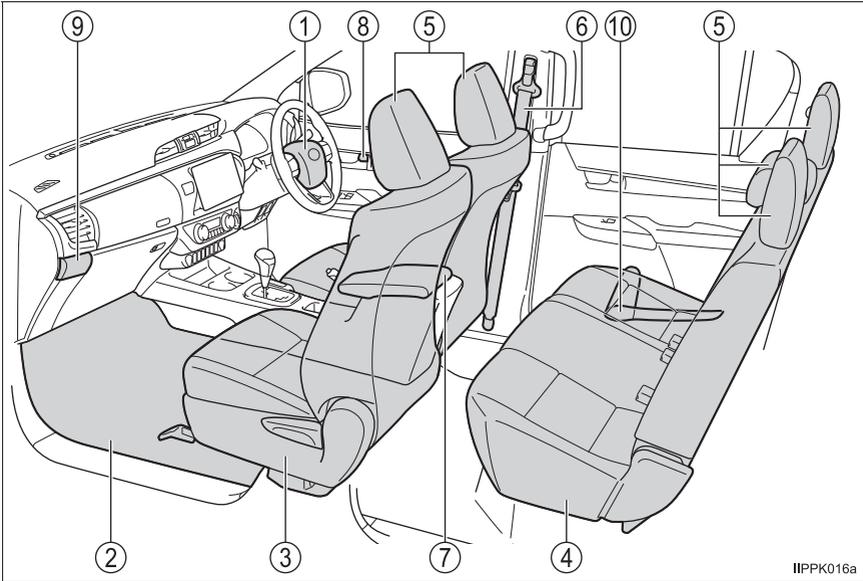
- ① オーディオ操作スイッチP. 265
- ② トークスイッチP. 265
- ③ メーター操作スイッチ★P. 87
- ④ DISP ボタン★P. 83
- ⑤ クルーズコントロールスイッチ★P. 204
- ⑥ ハンドル位置調整レバーP. 124
- ⑦ 電話スイッチP. 265

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- ① 非常点滅灯スイッチP. 313
- ② トランスファースイッチP. 208
- ③ アクセサリーソケット.....P. 262
- ④ リヤデフロックスイッチ★.....P. 215
- ⑤ DAC (ダウンヒルアシストコントロールシステム)
スイッチ★.....P. 224
- ⑥ VSC OFF スイッチP. 219

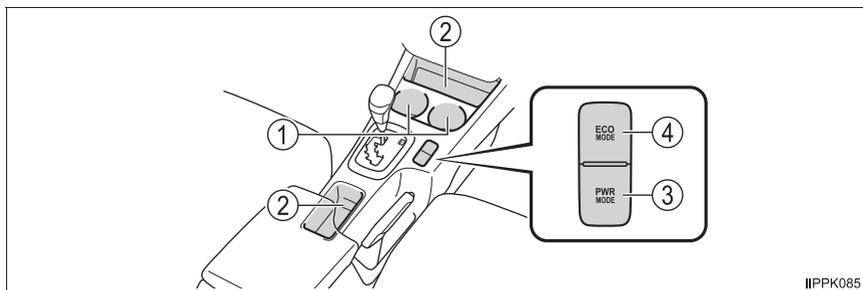
■ 室内



IIPPK016a

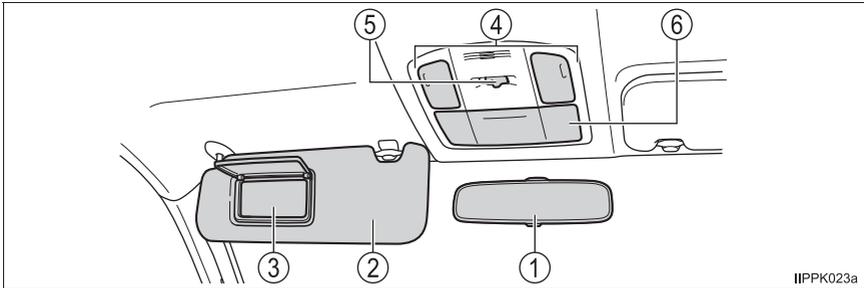
- | | | | |
|---|-----------|-------|--------|
| ① | SRSエアバッグ | | P. 33 |
| ② | フロアマット | | P. 24 |
| ③ | フロントシート | | P. 118 |
| ④ | リヤシート | | P. 119 |
| ⑤ | ヘッドレスト | | P. 122 |
| ⑥ | シートベルト | | P. 28 |
| ⑦ | コンソールボックス | | P. 253 |
| ⑧ | ロックレバー | | P. 103 |
| ⑨ | カップホルダー | | P. 254 |
| | 小物入れ | | P. 256 |
| ⑩ | ボトルホルダー | | P. 255 |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



IIPPK085

- ① カップホルダー.....P. 254
- ② 小物入れ.....P. 256
- ③ パワーモードスイッチ.....P. 161
- ④ エコドライブモードスイッチ.....P. 161



IIPPK023a

- ① インナーミラーP. 126
- ② サンバイザー ※¹P. 260
- ③ バニティミラー★P. 260
- ④ パーソナルランプP. 250
 インテリアランプ ※²P. 250
- ⑤ パーソナルランプ／インテリアランプメインスイッチP. 250
- ⑥ 小物入れP. 256

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 (→ P. 50)



※²：図はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	24
安全なドライブのために	26
シートベルト.....	28
SRS エアバッグ.....	33
排気ガスに対する注意	42
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	43
チャイルドシート	44
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム.....	66
オートアラーム.....	68

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

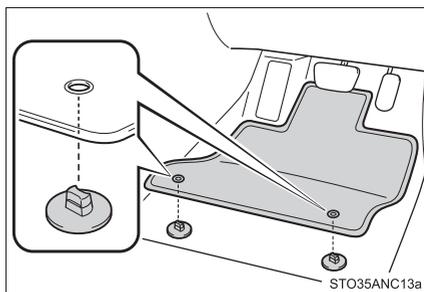
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

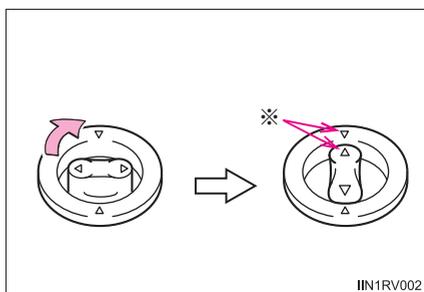
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

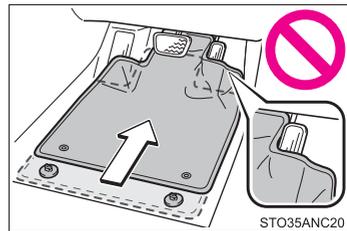
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

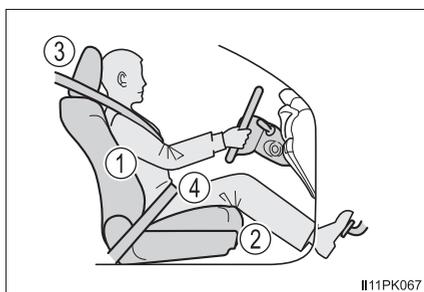


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 118）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 118）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 122）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 126, 127）

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

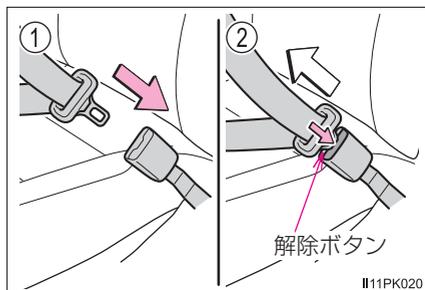
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



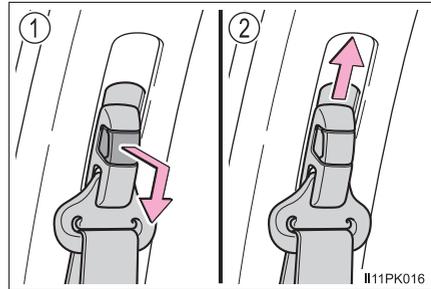
着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに押し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの高さ調節（フロント席）

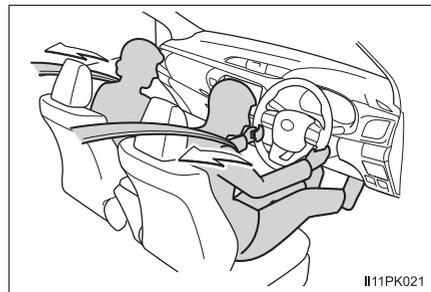
- ① 解除ノブを引きながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確認します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



 知識**■ シートベルトロックの解除方法**

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 44)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 28)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

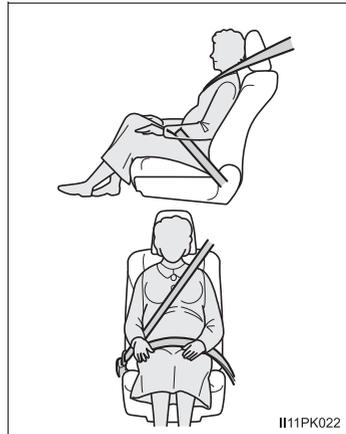
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)

 **警告****■ お子さまを乗せるとき**

→ P. 55

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

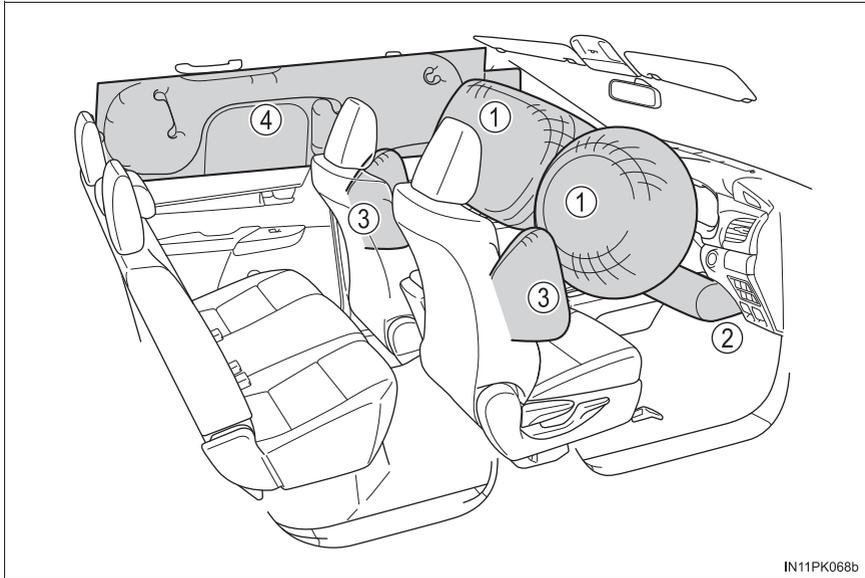
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



IN11PK068b

◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロントシート・リヤシート外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

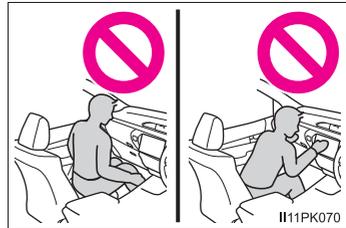
警告

■ SRS エアバッグについて

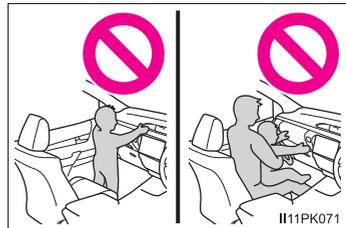
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 44)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない




警告
■ SRS エアバッグについて

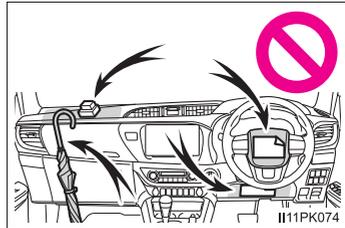
- ドアやフロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



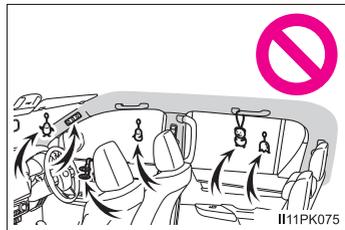
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



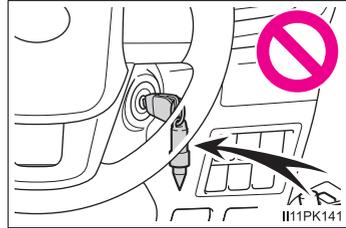
- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



警告

■SRS エアバッグについて

- スマートエントリー&スタートシステム
非装着車：キーに重いもの・とがったもの・硬いものをつけない



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤピラーガーニッシュ部に傷が付いていたたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

 **警告****■ 改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

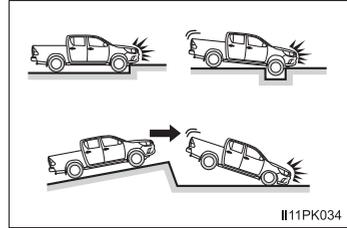
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが開きます。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

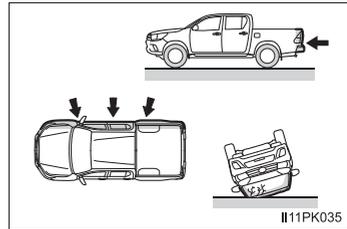
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

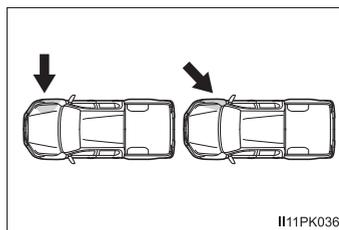
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ)

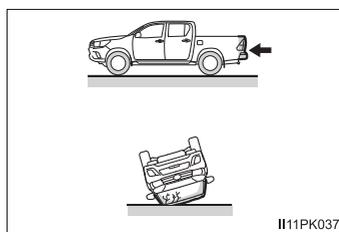
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃、横転、または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

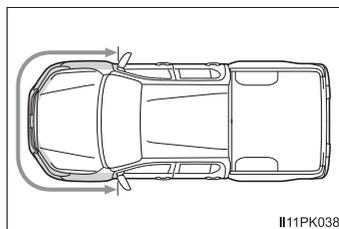
- 後方からの衝突
- 横転



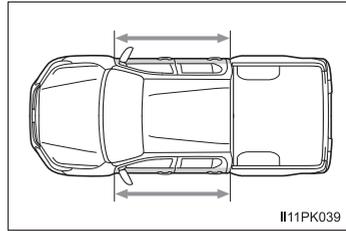
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

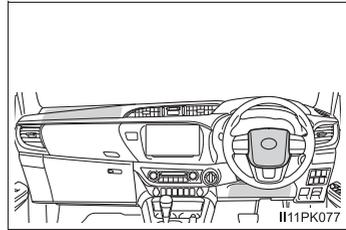
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



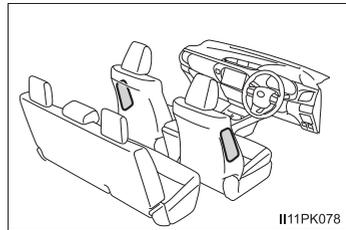
- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



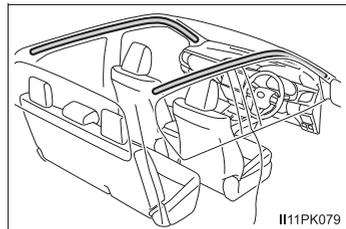
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

（P. 229 の注意も併せて参照してください）

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 44)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 104)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 133)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・テールゲートやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→ P. 44)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法を記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	P. 44
チャイルドシートについて	P. 46
チャイルドシートを使用するときは	P. 49
チャイルドシートの取り付け方法	
・ シートベルトで固定する	P. 52
・ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する	P. 56
・ トップテザーアンカーを使用する	P. 63

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 52, 56)

 **警告****■ お子さまを乗せるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 52, 56）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認の上、車に取り付けてください。

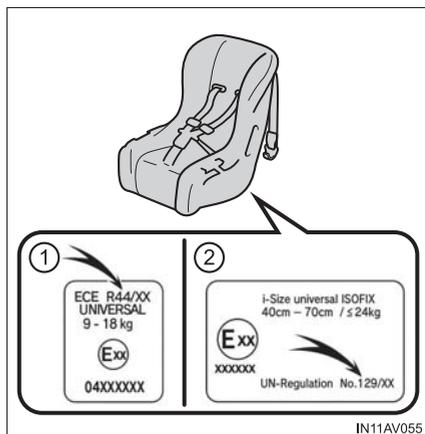
■ チャイルドシートの規格

ECE R44^{※1} または、ECE R129^{※1,2} に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

- ① ECE R44 認可マーク^{※3}
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- ② ECE R129 認可マーク^{※3}
対象となるお子さまの身長
の範囲および使用可能な体重が
記載されています。



※¹ ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² ECE R129 に適合したチャイルドシートを購入できない場合があります。チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

※³ 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて (ECE R44 のみ)

この質量グループは、チャイルドシートの適合性を確認する際に必要となります。チャイルドシートの適合性一覧表と併せてご確認ください。(→ P. 52, 58)

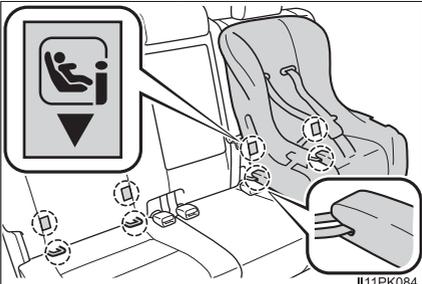
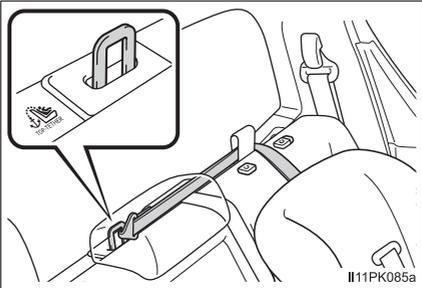
ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢 [※]
グループ0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ0 ⁺	13kg まで	1歳半頃まで
グループI	9～18kg	9ヶ月頃～4歳頃まで
グループII	15～25kg	3歳頃～7歳頃まで
グループIII	22～36kg	6歳頃～12歳頃まで

[※] 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 52
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 56
テザーベルトを固定する		P. 63

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
- シートをいちばんうしろに下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる



警告

■チャイルドシートを使用するとき

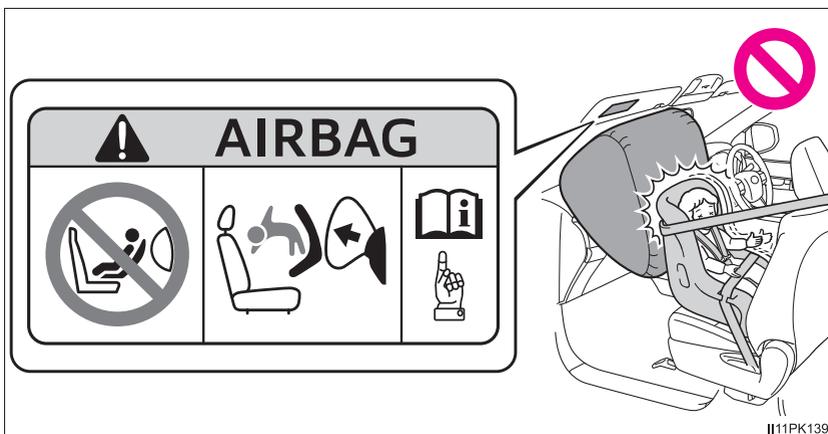
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



II11PK139

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



II11PK103a

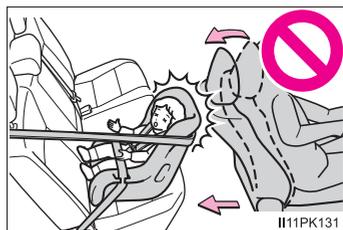
警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リアピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

チャイルドシートの適合性一覧表（→ P. 52）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も併せて確認してください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

- 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→ P. 47）

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。
 （例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

- 2 チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「チャイルドシートをシートベルトで固定する - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する（→ P. 52）

◆ チャイルドシートをシートベルトで固定する - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

チャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーの場合、次の表中の U または UF が示す位置に取り付けることができます。（UF は前向き
 のチャイルドシートのみ取り付けできます。）

チャイルドシートのカテゴリーと質量グループはチャイルドシートに付属の取扱説明書に記載されています。お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中
 がない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

質量グループ	着席位置			推奨チャイルドシート
	フロントシート	リヤシート		
	助手席	左右席	中央席	
0 (10kg まで)	×	U	×	“TOYOTA G 0+, BABYSAFE PLUS”
0+ (13kg まで)	×	U	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
I (9 ~ 18kg)	うしろ向き ×	U※2	×	“TOYOTA DUO+” “トヨタ純正 NEO G-Child baby”
	前向き UF※1,2			
Ⅱ, Ⅲ (15 ~ 36kg)	UF※1,2	U※2	×	“TOYOTA KIDFIX XP SICT” (ISOFIX 固定可能) “トヨタ純正ジュニアシート”

表に記入する記号の説明

- ×： チャイルドシートを取り付けることはできません。
- U： この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのチャイルドシートに適しています。
- UF： この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

※1 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、背もたれを可能な限り起こし、シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調節ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

◆ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 助手席：

助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、背もたれを可能な限り起こし、シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。(→ P. 118)

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

(→ P. 122)

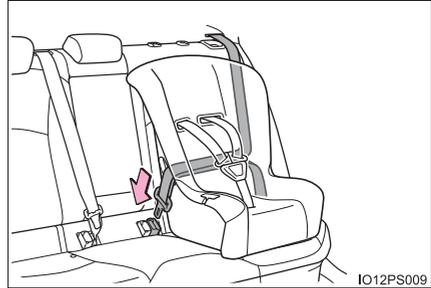
リヤシート：

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

(→ P. 122)

2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

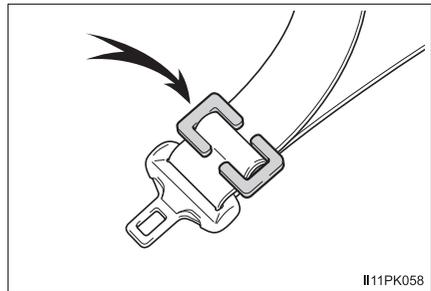
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



IO12PS009

3 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロックングクリップ品番：73119-22010)



II11PK058

4 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→ P. 55)

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がる場合があります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

知識

■ チャイルドシートを取り付けるためにヘッドレストを外したときは

チャイルドシートを取りはずしたあとは、ヘッドレストを取り付けてください。

警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシートの適合性一覧表 (→ P. 58, 61) は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も併せて確認してください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた

- 1** お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する
(→ P. 47)

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

- 2** サイズ等級を確認する

手順**1**で確認した「質量グループ」を「チャイルドシートを ISOFIX で固定する (ECE R44) - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。(→ P. 58) ※

(例 1) : 質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

- ※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「着席位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 59)で指定されている製品を使用してください。

◆ チャイルドシートをISOFIXで固定する(ECE R44) - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「サイズ等級」に分かれています。

次の表に示す「サイズ等級」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。

チャイルドシートの「サイズ等級」と「質量グループ」を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「サイズ等級」がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

サイズ等級	使用の向き・形状・大きさ
A	全高前向きチャイルドシート
B	低型前向きチャイルドシート
B1	低型前向きチャイルドシート
C	大型うしろ向きチャイルドシート
D	小型うしろ向きチャイルドシート
E	うしろ向きチャイルドシート
F	左向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）
G	右向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）

質量グループ	サイズ等級	着席位置			推奨チャイルドシート
		フロントシート	リヤシート		
		助手席	左右席	中央席	
キャリコット	F	×	×	×	-
	G	×	×	×	
0 (10kg まで)	E	×	IL	×	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
0+ (13kg まで)	E	×	IL	×	
	D	×	IL	×	
I (9 ~ 18kg)	C	×	IL	×	-
	D	×	IL	×	
	B	×	IUF* IL*	×	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	×	IUF* IL*	×	“TOYOTA DUO+” “トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	A	×	IUF* IL*	×	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”

表に記入する記号の説明

- ×： ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。
 - IUF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。
 - IL： この質量グループでの使用を許可された「特定車種用」・「一部制限付き」または「準汎用」（セミユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX チャイルドシートに適しています。
- ※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
- 取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ i-Size チャイルドシートを ISOFIX で固定する (ECE R129) - 適合性一覧表

チャイルドシートが「i-Size」カテゴリーの場合、次の表中の i-U が示す位置に取り付けることができます。チャイルドシートのカテゴリーはチャイルドシートに付属の取扱説明書に記載されています。

	着席位置		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
i-Size チャイルドシート	×	i-U*	×

表に記入する記号の説明

×： i-Size 汎用 (ユニバーサル) チャイルドシートを取り付けることはできません。
 i-U： 前向きおよび後ろ向きの i-Size 汎用 (ユニバーサル) チャイルドシートに適しています。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
 取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 122)

- 2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 3 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→ P. 55)

□ 知識

■ チャイルドシートを取り付けるためにヘッドレストを外したときは

チャイルドシートを取りはずしたあとは、ヘッドレストを取り付けてください。

警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

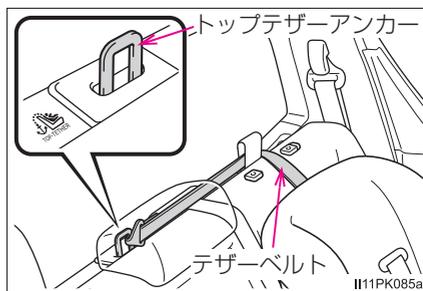
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する**■ トップテザーアンカーについて**

この車はリヤ外側席で使用するためのトップテザーアンカーが、後席中央に装備されています。

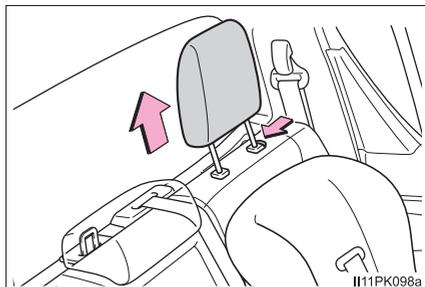
テザーベルトを固定するときに使います。



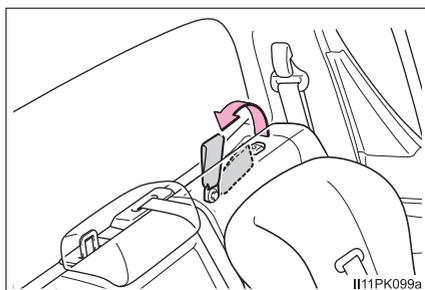
■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

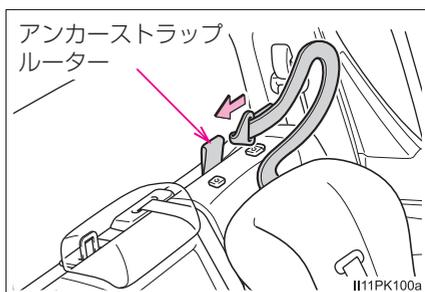
- 1 ヘッドレストを取りはずす



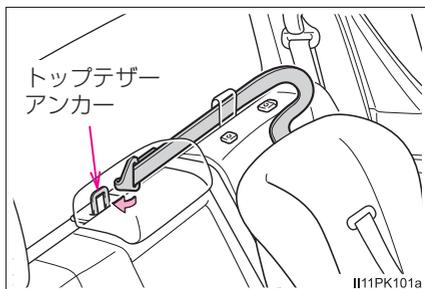
- 2 アンカーストラップルーターを上げる



- 3 テザーベルトをアンカーストラップルーターにとおす



- 4 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める



 知識

- **チャイルドシートを取り付けるためにヘッドレストを外したときは**
チャイルドシートを取りはずしたあとは、ヘッドレストを取り付けてください。

 **警告**

■ **チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されていることを確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

エンジンモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

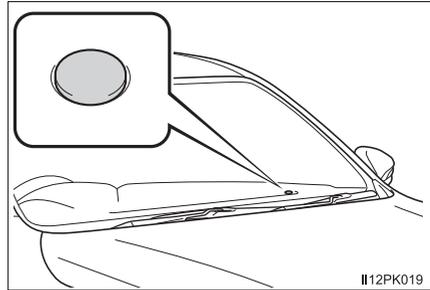
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーをエンジンスイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたマスターキー、またはサブキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

 知識■ **メンテナンスについて**

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

 **注意**■ **エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

 知識■ **メンテナンスについて**

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ **ドアを施錠する前の確認**

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ **オートアラームの作動について**

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき

 **注意**■ **オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

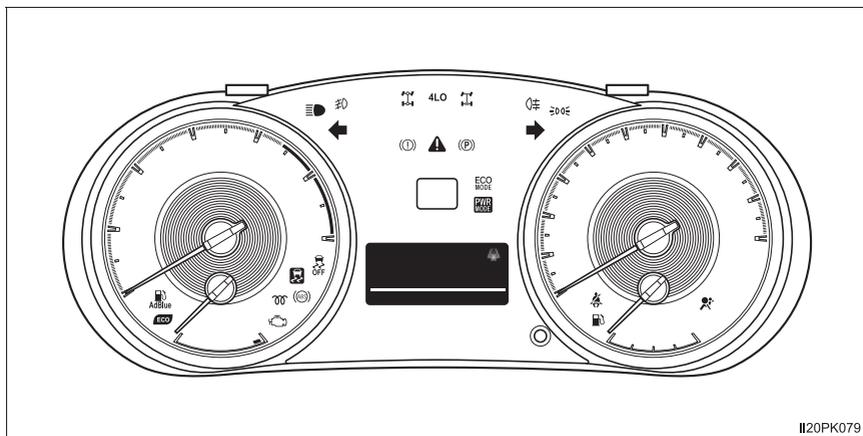
2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	72
計器類.....	78
マルチインフォメーション ディスプレイ (モノクロタイプ).....	83
マルチインフォメーション ディスプレイ (カラータイプ).....	86

警告灯／表示灯

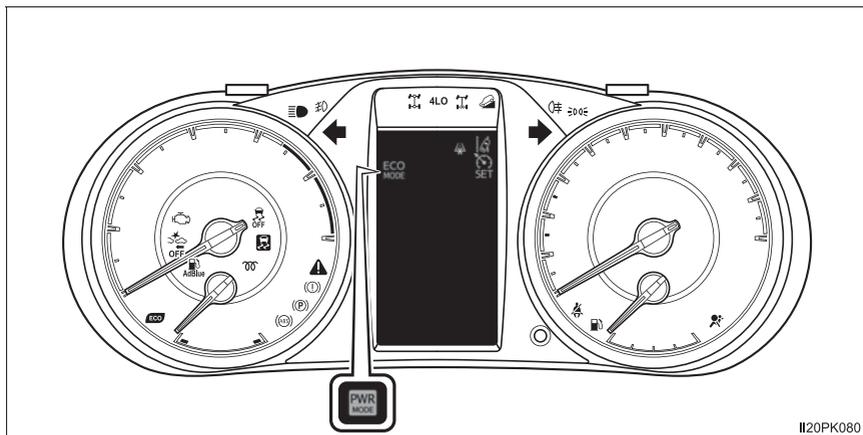
メーター・センターパネル内の警告灯・表示灯でお車の状況をお知らせします。

▶ モノクロタイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車



II20PK079

▶ カラータイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車



II20PK080

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯
(→ P. 323)



(黄色
点灯)

LDA 表示灯★ (→ P. 324)



(点灯
または
点滅)

エンジン警告灯
(→ P. 323)



運転席／助手席シートベル
ト非着用警告灯
(→ P. 325)



SRS エアバッグ/
プリテンショナー警告灯
(→ P. 323)



後席シートベルト非着用警
告灯 (→ P. 325)



ABS 警告灯
(→ P. 323)



燃料残量警告灯
(→ P. 325)



スリップ表示灯
(→ P. 324)



マスターウォーニング
(→ P. 325)



(速い
点滅)

L4 作動表示灯 (→ P. 324)



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 325)



(速い
点滅)

リヤデフロック作動表示灯★
(→ P. 324)



AdBlue® 残量警告灯
(→ P. 325)



PCS 警告灯★ (→ P. 324)

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 センターパネルに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 166)



クルーズコントロール表示
灯★ (→ P. 204)



ハイビーム表示灯
(→ P. 168)



クルーズコントロールセッ
ト表示灯★ (→ P. 204)



尾灯表示灯 (→ P. 168)



エコドライブモード表示灯
(→ P. 161)



フロントフォグランプ表示
灯 (→ P. 172)



パワーモード表示灯
(→ P. 161)



リヤフォグランプ表示灯
(→ P. 172)



※1
ダウンヒルアシストコント
ロールシステム表示灯★
(→ P. 224)



※1
エコドライブインジケー
ターランプ (→ P. 76)



※1
スリップ表示灯
(→ P. 219)
(点滅)



予熱表示灯
(→ P. 150, 153)



※1
VSC OFF 表示灯
(→ P. 219)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



4WD 表示灯 (→ P. 208)



LDA 表示灯★ (→ P. 199)

L4 作動表示灯
(→ P. 208)

低温表示灯 (→ P. 79)

リヤデフロック作動表示灯★
(→ P. 215)パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 167)

PCS 警告灯★ (→ P. 189)

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 車線逸脱警報中は黄色点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■エコドライブインジケーター

① エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。

必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

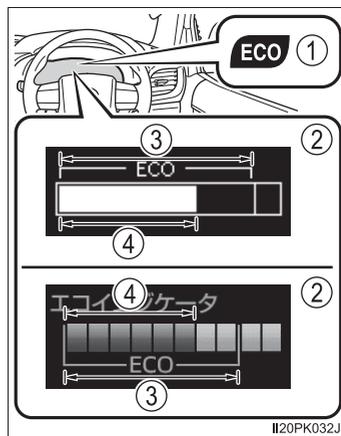
② エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ エコ運転の範囲

④ 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点滅（モノクロタイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車）または点灯（カラータイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車）します。



次の場合、エコドライブインジケーターランプとエコドライブインジケーターゾーン表示は作動しません。

- シフトレバーがD以外のとき
- 走行モードがパワーモードのとき（→ P. 161）
- ダウンヒルアシストコントロールシステム★が作動しているとき（→ P. 224）
- トランスファースイッチがL4にあるとき（→ P. 208）
- 車速が約100km/h以上のとき

エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。（→ P. 369）

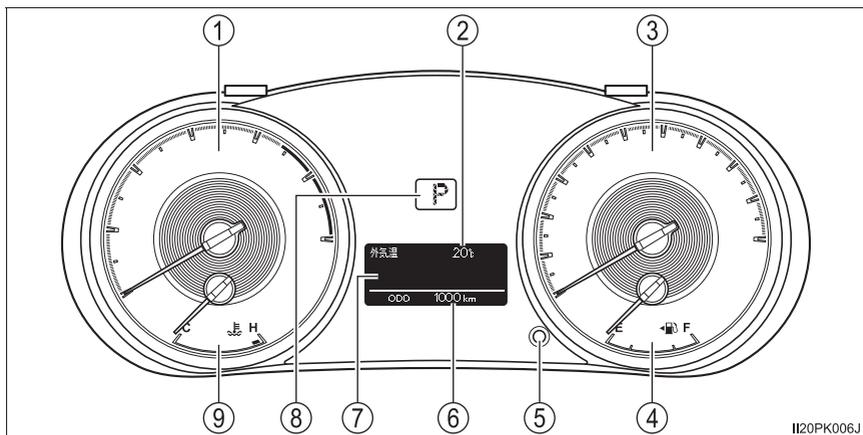
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■安全装置の警告灯が点灯しないとき**

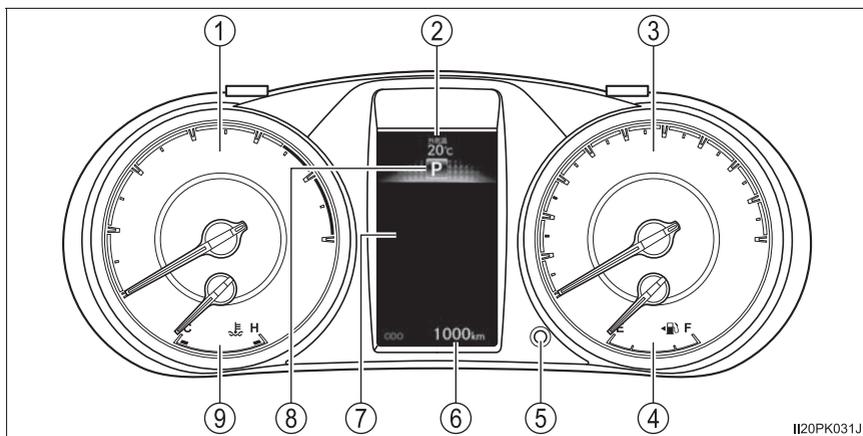
ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類

▶ モノクロタイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車



▶ カラータイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車



- ① タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
- ② 外気温
外気温を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。外気温が約 3°C 以下になると低温表示灯が点灯し、約 5°C 以上になると消灯します。(→ P. 75)
- ③ スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ④ 燃料計
燃料残量を示します。
- ⑤ オドメーター／トリップメーターボタン
→ P. 80
- ⑥ オドメーター／トリップメーター
オドメーター：走行した総距離を表示します。
トリップメーター：リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。
- ⑦ マルチインフォメーションディスプレイ
走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 83, 86)
- ⑧ シフトポジション・シフトレンジ表示
選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→ P. 159)
- ⑨ 水温計
エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ

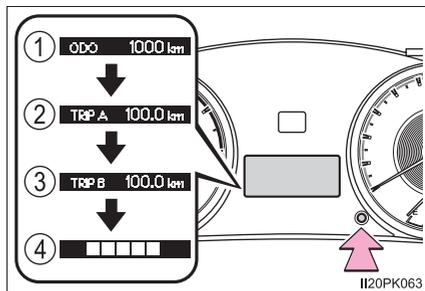
▶ モノクロタイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

- ① オドメーター
- ② トリップメーター A^{※1}
- ③ トリップメーター B^{※1}
- ④ メーター照度調整^{※2}

^{※1} 押し続けると 0 にもどります。

^{※2} 押し続けると照度を調整できます。



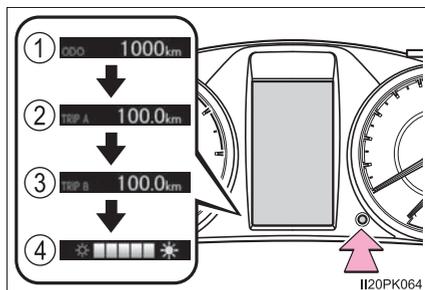
▶ カラータイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

- ① オドメーター
- ② トリップメーター A^{※1}
- ③ トリップメーター B^{※1}
- ④ インstrumentパネル／メーター照度調整^{※2}

^{※1} 押し続けると 0 にもどります。

^{※2} 押し続けると照度を調整できます。



 知識■ **メーターの作動条件**

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON” のとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **インストルメントパネル照度調整★/メーター照度調整について**

車幅灯消灯時と点灯時で、それぞれ明るさのレベルを調整することができます。

照度を最大に設定している場合を除き、車幅灯を点灯すると照度は減光されま
す。

■ **バッテリー端子の脱着をしたとき**

トリップメーターがリセットされます。

■ **外気温度表示について**

● 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くな
ったりすることがありますが、故障ではありません。

・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下） のとき

・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “-” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で
点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 低温時の画面表示について（カラータイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車）**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 356）

■ 低温時の画面表示について（モノクロタイプマルチインフォメーションディスプレイ装着車）

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

マルチインフォメーションディスプレイ (モノクロタイプ) ★

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● トリップインフォメーション (→ P. 84)

航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

● 設定 (→ P. 369)

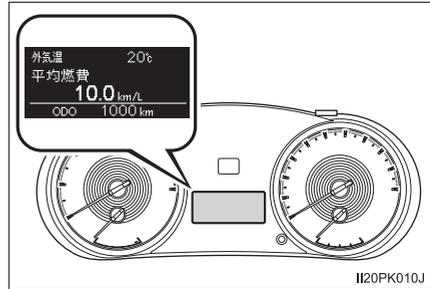
次の項目を設定することができます。

- ・ 言語 ※
- ・ 単位
燃費表示の単位を選択します。
- ・ エコドライブインジケータランプ
エコドライブインジケータランプの作動/非作動を選択します。

● 警告メッセージ (→ P. 327)

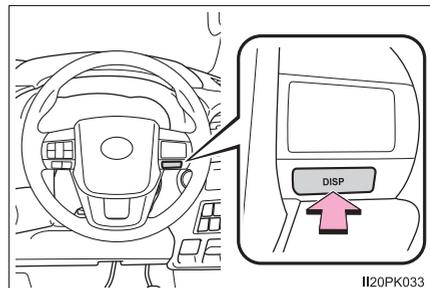
車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。

※ 設定項目として表示されますが、本車両では日本語以外の言語に変更できません。



表示切りかえ

表示を切りかえるには、DISP ボタンを押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーションの機能

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

エンジン始動後の平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費の表示中に DISP ボタンを押し続けます。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はエンジンスイッチを“LOCK”にしてください。万一、エンジンスイッチを“LOCK”にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ 平均車速

エンジンを始動してからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速の表示中に DISP ボタンを押し続けます。

■ 走行時間

エンジンを始動してからの走行時間を表示します。

- ・ エンジンを始動すると、00：00 から計測を開始します。経過時間が 99：59 をこえると、00：00 にもどります。
- ・ リセットするには、走行時間の表示中に DISP ボタンを押し続けます。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。(→ P. 76)

■ ブランク表示

情報が表示されません。

 知識

■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、トリップインフォメーションや設定がリセットされます。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、そのまま使用しても問題ありません。

■ カスタマイズ機能

エコドライブインジケータランプの作動／非作動などの変更ができます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 368)

 警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

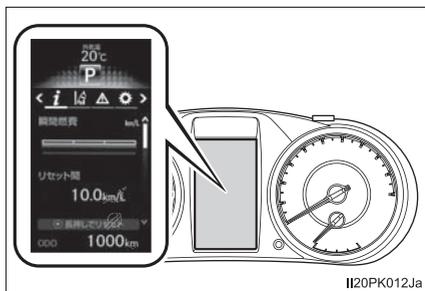
マルチインフォメーションディスプレイ (カラータイプ) ★

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 87)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 88)



走行支援機能情報

LDA (レーンディパーチャーアラート) に関する情報を表示します。



警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→ P. 327)



設定

メーターの表示設定を切りかえることができます。(→ P. 90)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作方法

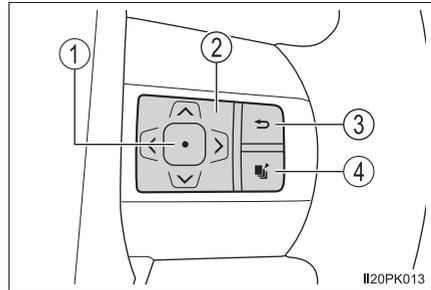
メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① 決定・設定
- ② メニューの選択・ページの切りかえ
- ③ ひとつ前の画面にもどる
- ④ 短押し：
スイッチに登録した画面を表示する

未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

長押し：
表示中の画面をスイッチに登録する

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。



II20PK013

ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して **i** を選択し、“^”または“v”を押して項目を選択します。

- 瞬間燃費（バー表示・数値表示）※^{1,2}

現在の瞬間燃費を表示します。

- 平均燃費（リセット間 ※³・始動後・給油後）※^{1,2}

リセット後、エンジン始動後、給油後の平均燃費を表示します。

- 平均車速（リセット間 ※³・始動後）※¹

リセット後、エンジン始動後の平均車速を表示します。

- 走行時間（リセット間 ※³・始動後）※¹

リセット後、エンジン始動後の経過時間を表示します。

- 距離（航続可能距離・始動後走行距離）※¹

燃料残量による走行可能な距離・エンジン始動後の走行距離を表示します。

表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

- エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。(→ P. 76)

- エコジャッジ

お客様のエコ運転技術の向上を目的として、エコ運転の総合点を表示します。(→ P. 91)

- エコウォレット

比較燃費・リセット後の平均燃費・燃料の消費金額を表示します。(→ P. 92)

- ふらつき度合表示

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合いをバーの長さで表示します。

バーが長いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は、LDA (レーンディパーチャーアラート) の機能のひとつです。LDA のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。(→ P. 196)

- ブランク表示

情報が表示されません。

※¹ 「設定」のドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2 で選択した項目が表示されます。(→ P. 90)

※² 表示される燃費は参考として利用してください。

※³ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの  を長押しします。

リセットが可能な項目が複数表示されている場合は、リセットする項目を選択する画面が表示されます。

設定

各装備の機能の On/Off や設定変更などができます。(→ P. 368)

● 言語 ※

● 単位

マルチインフォメーションディスプレイ内の燃費表示の単位を選択することができます。

● エコドライブインジケータランプ

エコドライブインジケータランプの作動/非作動を選択することができます。(→ P. 76)

●  スイッチ設定

スイッチにお好みの画面を登録する方法を表示します。

お好みの画面を登録しておく、スイッチを押したときに登録した画面を表示させることができます。

● ドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目を 1・2 それぞれに 2 つまで選択することができます。

● アクセントカラー★

マルチインフォメーションディスプレイ内のカーソル色を選択することができます。

● エコウォレット

比較燃費、燃料価格の設定を変更することができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

※ 設定項目として表示されますが、本車両では日本語以外の言語に変更できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■エコジャッジ

発進・走行・減速という3つの要素から、走行状況をそれぞれ5段階で評価し、停車するたびに採点結果を表示します。(採点結果は発進するたびにリセットされ、累積の結果は算出されません)

① エコジャッジ

エコ発進・安定走行・エコ減速の採点を総合した結果が表示されます。

② エコ発進

発進時の加速状況から算出されたエコレベルを表示します。

③ 安定走行

走行中の加速状況から算出されたエコレベルを表示します。

④ エコ減速

アクセルペダルを離れたあと、停車までに費やした時間から算出されたエコレベルを表示します。

クルーズコントロール使用時など、アクセルペダルを踏まずに走行した距離は、エコジャッジの結果に反映されません。

エコジャッジの評価は、運転状況や走行環境に依存し、実際の燃費とは異なる場合があります。

次の場合、エコジャッジは作動しません。

- 車速が約 100km/h 以上のとき
- シフトレバーが D 以外のとき
- トランスファースイッチが L4 にあるとき
- ダウンヒルアシストコントロールシステム★が作動しているとき
- 走行モードがパワーモードのとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エコウォレット

比較燃費・リセット後の平均燃費・燃料の消費金額を表示します。

① 比較燃費

設定した燃費と実際の燃費との比較結果を表示します。

② 平均燃費

リセット後の平均燃費を表示します。

- 平均燃費の表示中にメーター操作スイッチの \odot を1秒以上押し続けると、表示がリセットされます。

- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

③ お得金額／消費金額

比較燃費が設定されているときは、節約することができた燃料費（お得金額）が表示されます。

比較燃費が設定されていないときは、実際の燃料費（消費金額）が表示されません。

消費金額・お得金額は、目安としてご利用ください。給油方法・運転状況・走行環境などにより、表示された金額と実際の燃料消費金額とが異なる場合があります。また、状況によっては、エコジャッジの採点結果に連係しません。



■エコウォレット設定

「設定」画面で燃料価格と比較燃費を設定することができます。

停車中にメーター操作スイッチで ⚙ を選択して \odot を押し、「エコウォレット」を選択して \odot を押し、それぞれの項目を設定します。

■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時的に中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションと設定がリセットされます。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。



警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ エコジャッジについて

エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

各部の操作**3**

3-1. キー	
キー	96
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	101
テールゲート	108
スマートエントリー& スタートシステム	111
3-3. シートの調整	
フロントシート	118
リヤシート	119
ヘッドレスト	122
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	124
インナーミラー	126
ドアミラー	127
補助確認装置	130
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	132

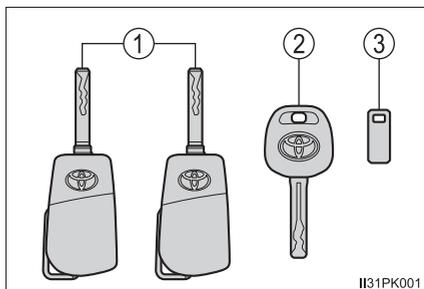
キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① マスターキー
ワイヤレス機能の作動 (→ P. 97)
- ② サブキー
- ③ キーナンバープレート



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

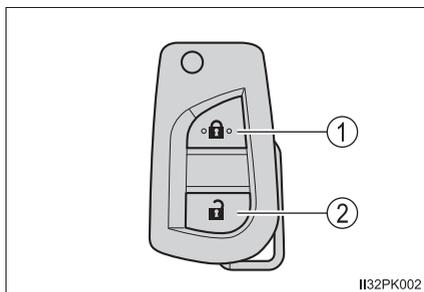
- ① 電子キー
・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 111)
・ ワイヤレス機能の作動 (→ P. 97)
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート
- ④ メカニカルキー (補助キー)



ワイヤレスリモコン

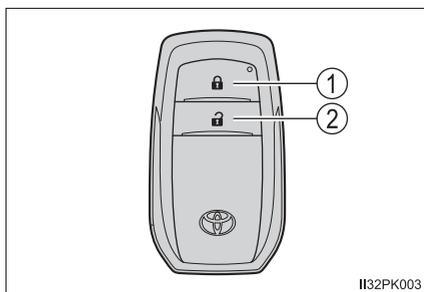
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① ドアの施錠 (→ P. 101)
- ② ドアの解錠 (→ P. 101)



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

- ① ドアの施錠 (→ P. 101)
- ② ドアの解錠 (→ P. 101)



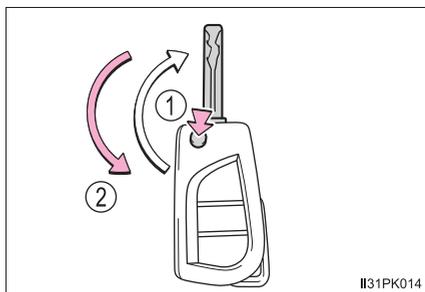
マスターキーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

① 展開する

ボタンを押すと、キーが展開します。

② 格納する

ボタンを押してロックを解除し、ケースに格納します。



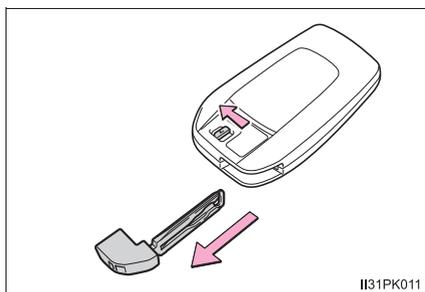
II31PK014

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドしてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キーの溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 349）



II31PK011

知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、グローブボックスを施錠します。（→ P. 253）

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

マスターキーを携帯し、サブキーのみを渡してください。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。補助キーを持っている場合は、メカニカルキーと同様に携帯してください。

■キー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）を紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと、同タイプのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にワイヤレス機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 291）

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 116

■電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。

■電池の交換方法

→P. 291

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

 **注意****■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キー取り扱いの注意

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

・技適マークと認可番号は電池蓋を取り外した際、確認が可能です。

■ 電子キーを携帯するとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

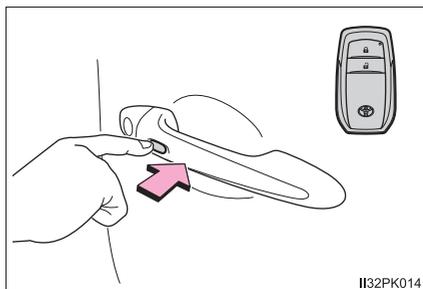
ドア

車外からの施錠・解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーを携帯し、ロック／アンロックスイッチを押して施錠・解錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



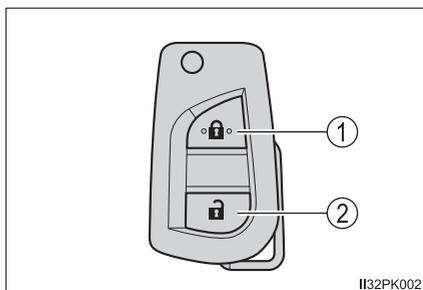
◆ ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

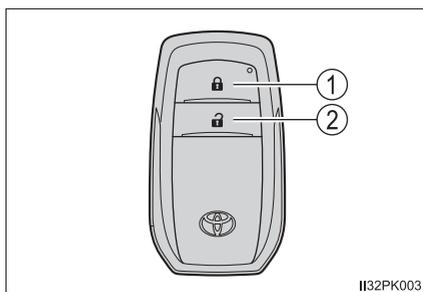


▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

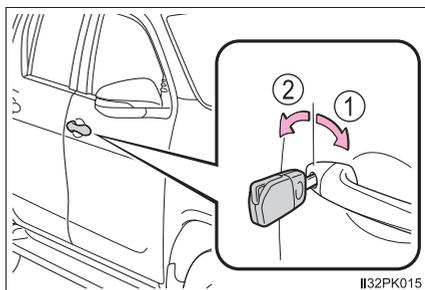


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ キー

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 349)

□ 知識

■ 作動の合図

スマートエントリー&スタートシステム★またはワイヤレスリモコンでのドアの施錠・解錠を、ブザー※と非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

※ スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ

■ 解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー&スタートシステム★またはワイヤレスリモコンでの解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でスマートエントリー&スタートシステム★またはワイヤレスリモコンでドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ スマートエントリー&スタートシステム★やワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
キーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 102)
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：
メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 349)
- 電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 291)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 68)

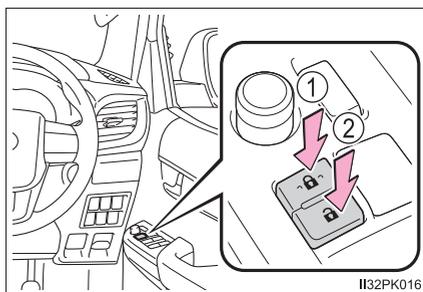
■ マルチインフォメーションディスプレイに半ドア警告を示すシンボルが表示されたとき

ドアが確実に閉まっていません。マルチインフォメーションディスプレイに開いているドアが表示されます。ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。開いているドアを閉めてください。

車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ

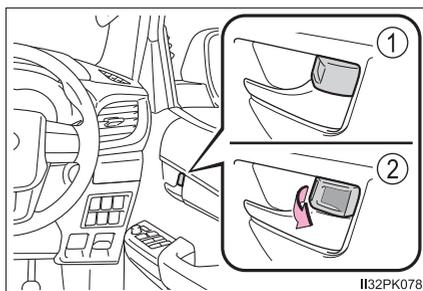
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

- ① ロックレバーを施錠側にする
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める
 - ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジンスイッチに挿し込まれているとき、運転席ドアは施錠されません。

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

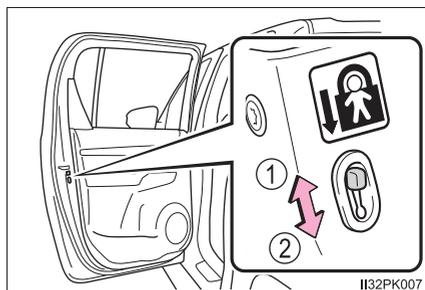
エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能★

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
車速感応オートロック	車速が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	エンジンスイッチをOFFにしてから45秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

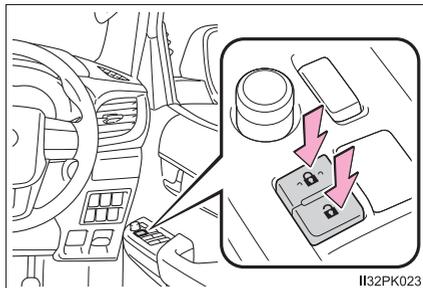
■ 設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

- 1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に手順 **2** の操作を行う）
- 2 シフトレバーをP以外に入れ、ドアロックスイッチの  側または  側を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



II32PK023

機能	ドアロックスイッチの位置
車速感応オートロック	
運転席ドア連動オートアンロック	

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム★

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを開けて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ スマートエントリー&スタートシステム★やワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

→ P. 114

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するとき

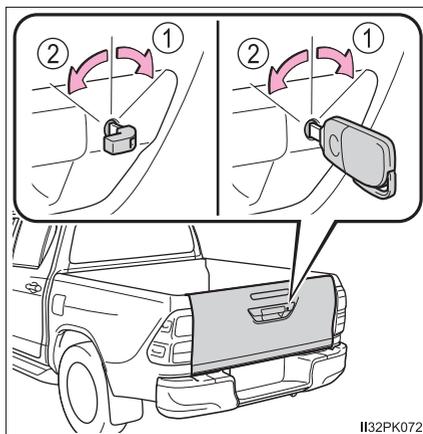
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

テールゲート

テールゲートは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

テールゲートの施錠・解錠

- ① マスターキー★またはメカニカルキー★で施錠する
- ② マスターキー★またはメカニカルキー★で解錠する



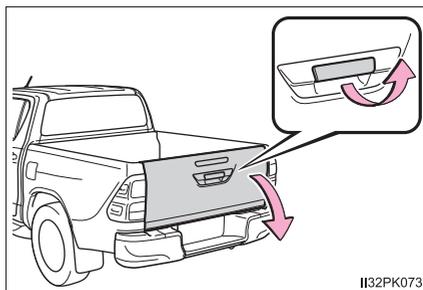
II32PK072

テールゲートを開けるには

ハンドルを引き、テールゲートをゆっくり開ける

サポートステーがテールゲートを水平に保持します。

テールゲートを閉じたあとは、手前に引いてしっかりとロックされていることを確認します。

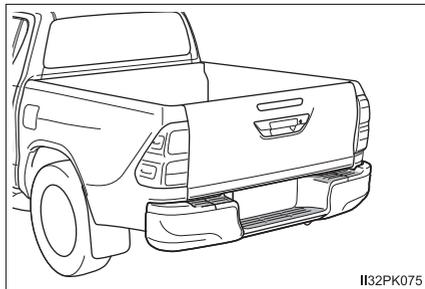


II32PK073

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤステップバンパー

リヤステップバンパーは、車両後部を保護し、荷物を積むときの踏み台として使用できます。



I132PK075

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

- テールゲートを開けたまま走行しない
- 荷台やリヤステップバンパーなどに人を乗せて走行しない

■ テールゲートを開閉するときは

- 周囲の安全を確かめ、テールゲートで指などを挟まないよう十分注意してください。
- お子さまにはテールゲートの操作をさせないでください。手、頭、腕、首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 傾斜地では平坦な場所よりもテールゲートの開閉がしにくくなる場合があります。また、急にテールゲートが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。
- ステーを取りはずすときは、しっかり握り確実に操作してください。手を挟んでけがをしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 強風時の開閉には十分注意してください。テールゲートが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です。
- テールゲートを閉めたときは、確実に固定されたことを確認してください。

 **注意****■ リヤステップバンパーの損傷を防ぐために**

リヤステップバンパーの上には、一度に複数人で乗らないようにしてください。

■ テールゲート取り扱いの注意

ステーを取りはずすと、テールゲートがリヤバンパーと接触し、損傷するおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム★

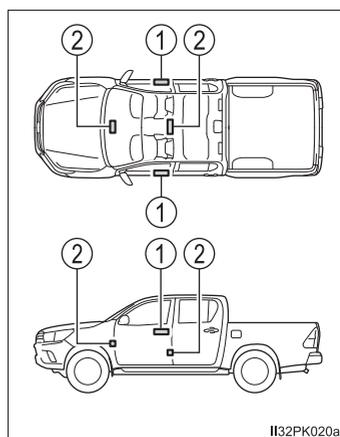
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→ P. 101)
- エンジンを始動する (→ P. 153)

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車内アンテナ

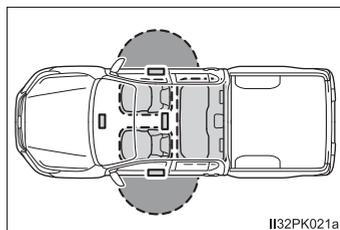


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

●： ドアの施錠・解錠時

各ドアのロック／アンロックスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのロック／アンロックスイッチのみ作動します）



II32PK021a

●： エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。（フロア上、ダッシュボード上などは作動範囲の対象外です）

■ 節電機能

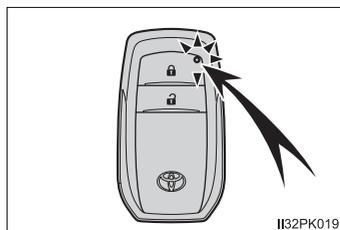
長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



II32PK019

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたりすることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー” と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ピー、ピー” と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 349)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 施錠・解錠時に電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にあるときは正しく作動しないことがあります。
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内であれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドアハンドル以外は解錠しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- ドアハンドル上のロック／アンロックスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度ロック／アンロックスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができません。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→P. 113）

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→P. 349
- エンジンの始動：→P. 349

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーのLEDが点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・TV
 - ・パソコン
 - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・電気スタンド
 - ・電磁調理器

■マルチインフォメーションディスプレイに「車室内にキーがあります」が表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、次のいずれかの操作を行いました。

- ・スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした
- ・フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした

車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 368)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 101, 349)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P. 349
- エンジンの停止：→P. 154

 **警告****■電波がおよぼす影響について**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 111）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

 **注意****■電子キー取り扱いの注意**

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用ください。
- ・技適マークと認可番号は電池蓋を取り外した際、確認が可能です。

フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整★
(運転席のみ)



警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■リクライニング調整について

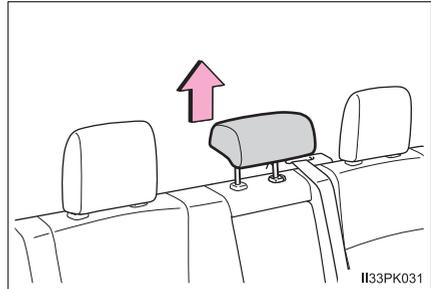
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシート

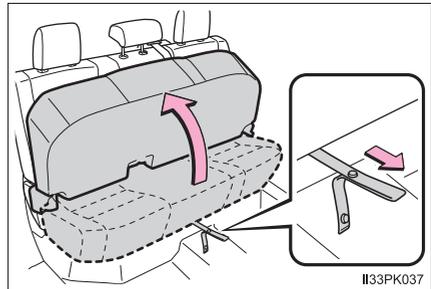
シートクッションを持ち上げるには（一体式シート）

- 1 ヘッドレストを上げる



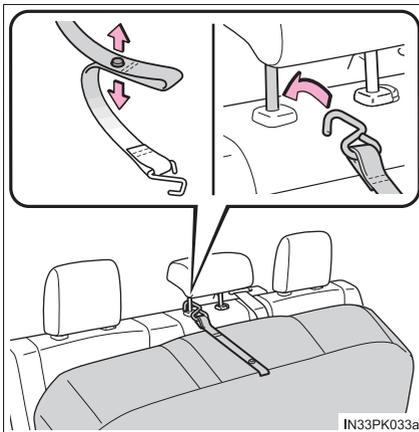
- 2 ストラップを引いて、シートクッションを持ち上げる

ストラップを引くとシートクッションのロックが解除され、シートクッションの持ち上げが可能になります。

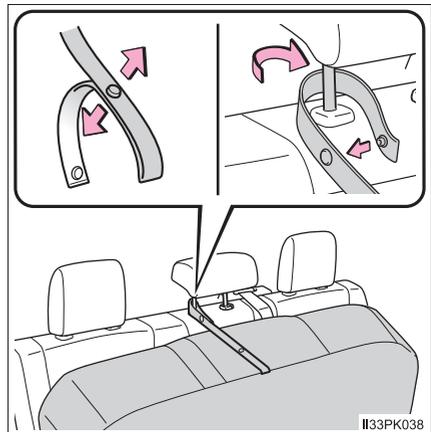


- 3 ホックをはずしてストラップをのばし、ヘッドレストのステーに固定する

▶ A タイプ

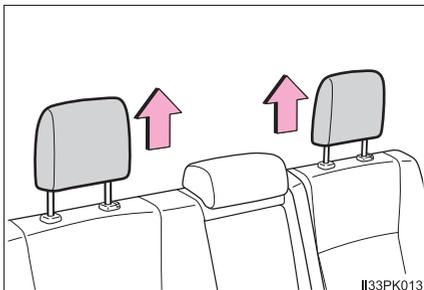


▶ B タイプ



シートクッションを持ち上げるには（分割式シート）

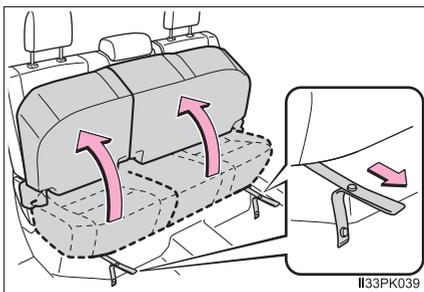
1 ヘッドレストを上げる



II33PK013

2 ストラップを引いて、シートクッションを持ち上げる

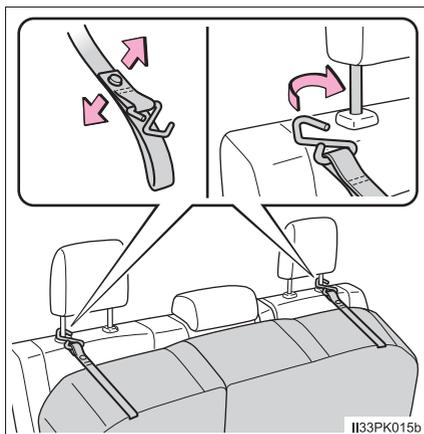
ストラップを引くとシートクッションのロックが解除され、シートクッションの持ち上げが可能になります。



II33PK039

3 ホックをはずしてストラップをのばし、ヘッドレストのステーに固定する

▶ A タイプ



II33PK015b

▶ B タイプ



II33PK040

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートクッションを持ち上げるとき

- 走行中に操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

■シートクッションをもとにもどすとき

- シートのあいだに手や足などを挟まないよう注意する
- シートの下にもものがないことを確認する
- シートクッションを上下に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれていたり、シートクッションに挟み込まれていないか確認する

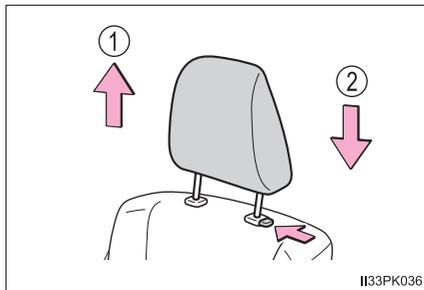
ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

フロントシート

- ① 上げる
- ② 下げる

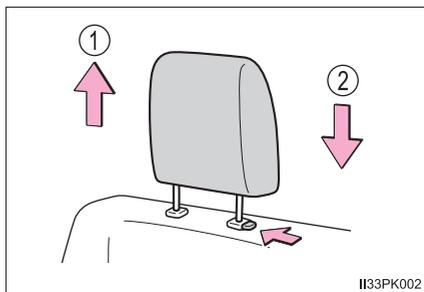
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



リヤシート

- ① 上げる
- ② 下げる

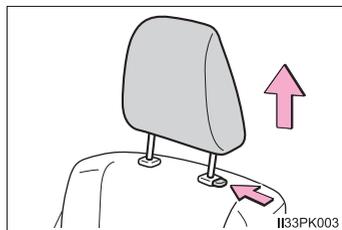
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

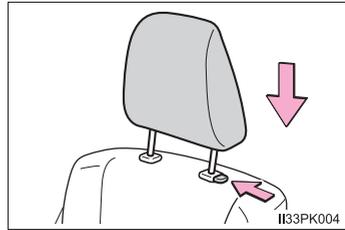
解除ボタンを押しながら取りはずします。



■ヘッドレストを取り付けるとき

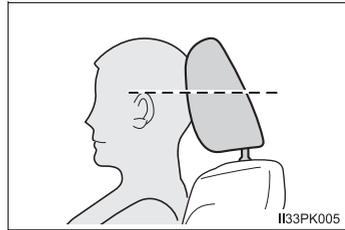
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ中央席のヘッドレストの使用について

使用するときには、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

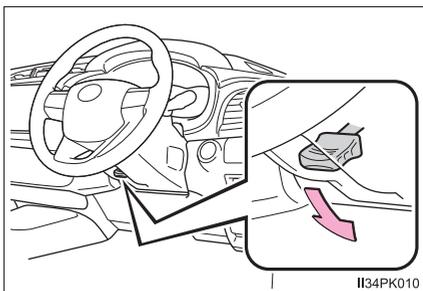
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

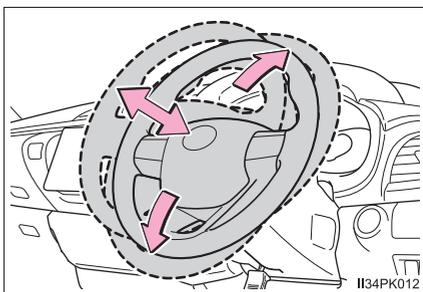
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



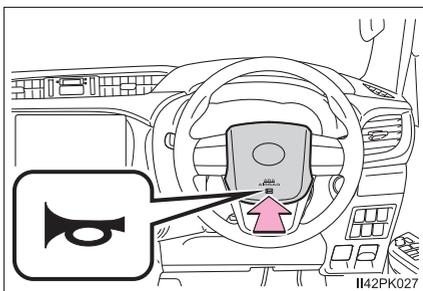
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。

 **警告****■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

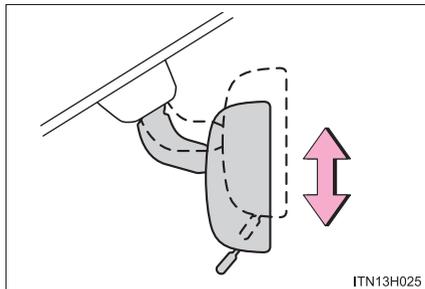
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

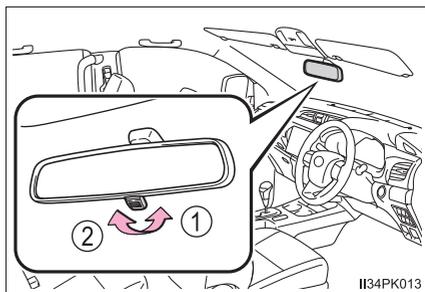
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



警告

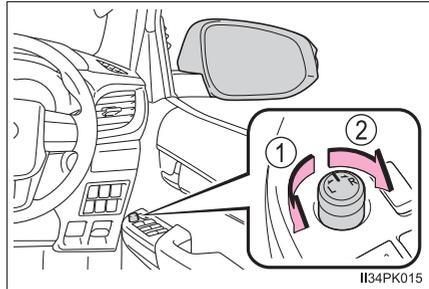
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

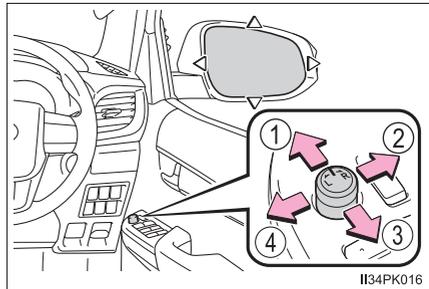
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを操作する

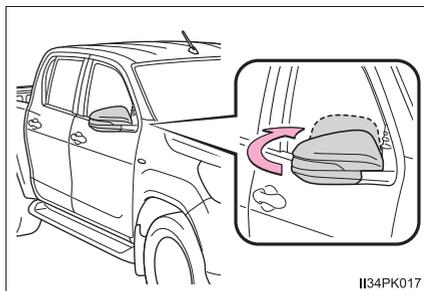
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

▶ 手動タイプ

手で後方に押しつけて格納する

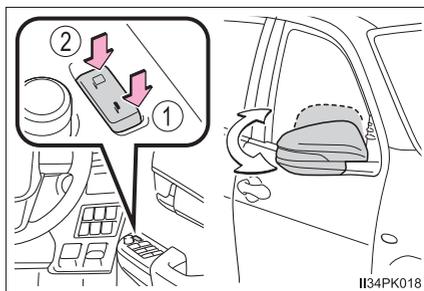


II34PK017

▶ 電動タイプ

ボタンを押して格納する

- ① ミラーを格納する
- ② ミラーをもとの位置にもどす



II34PK018

知識

■ 作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモードのとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→ P. 237, 244)

 **警告****■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

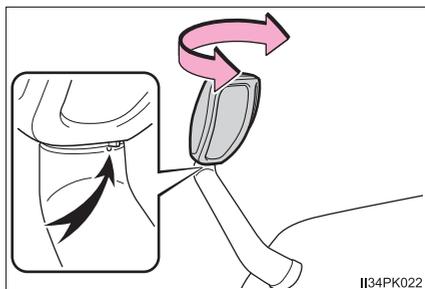
■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置

発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

ミラーが動いてしまったときは、突起とマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。

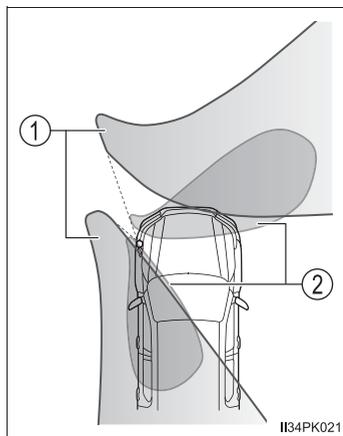


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

- ① 地面が視認できる範囲
- ② 地上約 1m の高さまで視認できる範囲



 **警告****■ 補助確認装置について**

車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

 **注意****■ 補助確認装置について**

補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。

パワーウィンドウ

調整のしかた

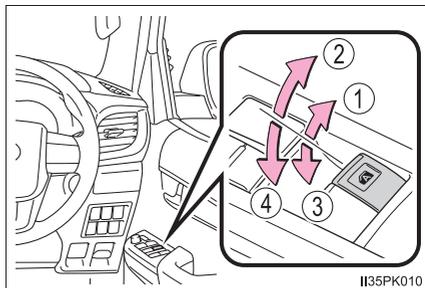
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

▶ Aタイプ

- ① 閉める
- ② 自動全閉（運転席のみ）※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開（運転席のみ）※

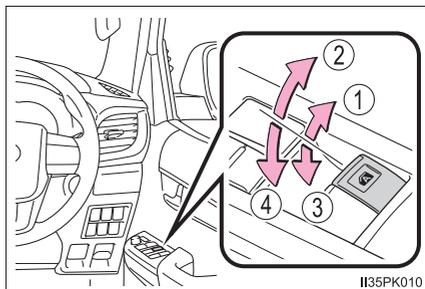
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



▶ Bタイプ

- ① 閉める
- ② 自動全閉（全席）※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開（全席）※

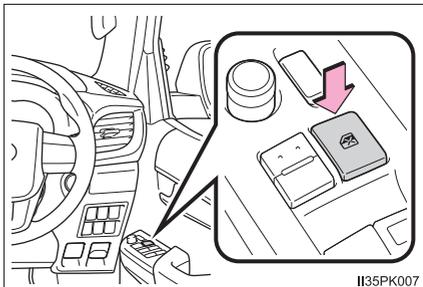
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON” のとき
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン OFF 後の作動

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチを“ACC” または“LOCK” にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能（ドアガラス自動開閉機能装着席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能（ドアガラス自動開閉機能装着席のみ）

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ パワーウィンドウを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチが“ON”^{※1}またはイグニッション ON モード^{※2}の状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチを“ON”^{※1}またはイグニッション ON モード^{※2}にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

※1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車

※2 スマートエントリー&スタートシステム装着車

警告

次のことを必ずお守りください。

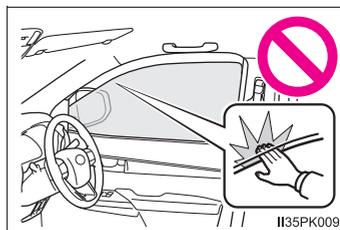
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 133)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（ドアガラス自動開閉機能装着席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能（ドアガラス自動開閉機能装着席のみ）

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

 **注意****■ 挟み込み防止機能・巻き込み防止機能について**

ドアガラスを開閉しているときに、ドアを強く閉めると挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動し、ドアガラスが反転・停止することがあります。

運転

4

- 4-1. 運転にあたって
 - 運転にあたって 138
 - 荷物を積むときの注意 148
- 4-2. 運転のしかた
 - エンジン（イグニッション）
スイッチ（スマート
エントリー&スタート
システム非装着車） 150
 - エンジン（イグニッション）
スイッチ（スマート
エントリー&スタート
システム装着車） 153
 - オートマチック
トランスミッション 159
 - 方向指示レバー 166
 - パーキングブレーキ 167
- 4-3. ランプのつけ方・
ワイパーの使い方
 - ランプスイッチ 168
 - フォグランプスイッチ 172
 - ワイパー & ウォッシャー 173
- 4-4. 給油のしかた
 - 給油口の開け方 176
- 4-5. 運転支援装置について
 - 運転を支援する装置 180
 - PCS（プリクラッシュ
セーフティシステム） 186
 - LDA（レーンディパーチャー
アラート） 196
 - クルーズコントロール 204
 - 4WD システム 208
 - リヤデフロック 215
 - 運転を補助する装置 218
 - ダウンヒルアシスト
コントロールシステム 224
 - 排出ガス浄化装置 227
- 4-6. 運転のアドバイス
 - 寒冷時の運転 230

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 150, 153

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 159)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 167)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 159)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 167)、シフトレバーを P にする (→ P. 159)
- 3 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを “ LOCK ” にしてエンジンを停止する
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。

^{*} 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→P. 218)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ 運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ エンジン停止前のアイドル運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行 (高速道路の法定または制限速度)	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行および サーキットなどの連続走行	約 1 分

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 329)

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロールシステム）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。
- ドライブスタートコントロールシステムが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、次の操作を行うことにより、ドライブスタートコントロールシステムが停止し、脱出しやすくなります。
 - ・ TRC / A-TRC の作動を停止する (→ P. 219)
 - ・ 4WD システムの作動状態を L4 にする (→ P. 211)

■ 路面状態の悪い泥水路を走行したあとは

尿素水インジェクターの冷却フィンに詰まった異物（泥や木の葉）を取り除いてください。

必要に応じてトヨタ販売店にご相談ください。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 316を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 160)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした4WD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにないと火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。(P. 227 も併せて参照してください)

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また、制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまうです。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。(→ P. 140)
- 排気管・エアクリーナなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。(→ P. 363)

 **注意****■ 走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 333 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物は荷台に積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席・リヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- 寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- 荷台に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

エンジンのかけ方

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 4 エンジンスイッチをまわす

“ON”の位置までまわし、（予熱表示灯）が点灯後消灯したら“START”の位置にまわします。

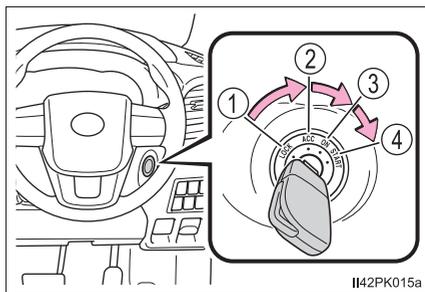
エンジンスイッチの位置の切りかえ

- ① “LOCK”（OFF）
 - ・ステアリングロックがかかります。
 - ・シフトレバーの位置がPのとき、キーを抜き挿しすることができます。
- ② “ACC”

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
- ③ “ON”

すべての電装品が使用できます。
- ④ “START”

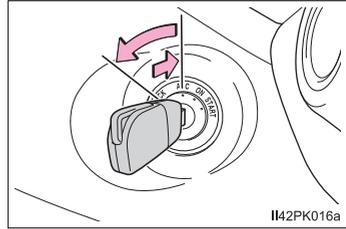
エンジンが始動できます。



 知識

■ キーを “ACC” から “LOCK” にまわすには

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら “LOCK” までまわす


■ エンジンが始動しないときは

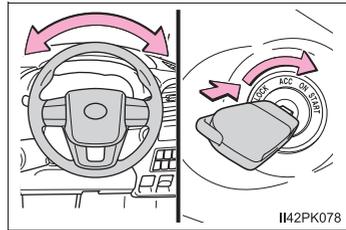
エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。

(→ P. 66)

トヨタ販売店へご連絡ください。

■ ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。


■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが “ACC” または “LOCK” のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■ 極寒時のエンジン始動について

極寒時は約 30 秒を限度に、エンジンが始動するまでエンジンスイッチをまわし続けてください。約 30 秒スターターをまわしても始動しないときは、エンジンスイッチを “ACC” にもどし、約 20 秒以上待ってから再始動してください。

 **警告****■ エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には“ACC”にしてください。
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
(→ P. 316)

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

- 一度に30秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 予熱表示灯について

- 予熱表示灯が消灯してからエンジンを始動してください。消灯する前に始動操作を行うと、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。
- 予熱表示灯の点灯時間は、エンジンが冷えていると長くなります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されないと、エンジンは始動しません。

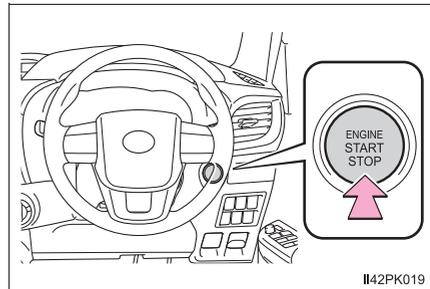


- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



（予熱表示灯）が点灯後消灯したらエンジンが始動します。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

エンジン停止のしかた

- ① 車両を完全に停止させる
- ② パーキングブレーキをかけて (→ P. 167)、シフトレバーを P の位置にする
- ③ エンジンスイッチを押す
- ④ ブレーキペダルから足を離した状態にしてメーターの表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF*

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

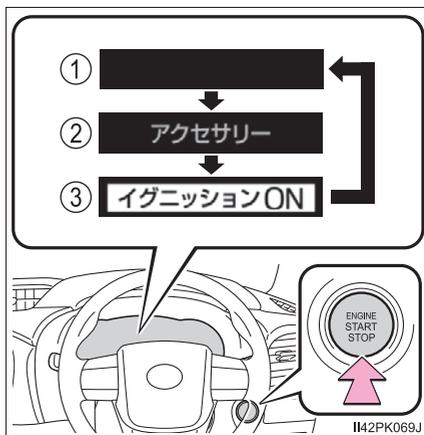
アクセサリースocketなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。



* シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードはOFFになりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーをPの位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源をOffしてください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを1回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源をOffしてください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■ 電子キーの検知に関する注意事項

電子キーはポケットなどに携帯してください。

電子キーがフロア上、ダッシュボード上、ドアポケット内、カップホルダー内、小物入れ内などにあるときは、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しません。

■ 自動電源OFF機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上アクセサリモードか1時間以上イグニッションONモード（エンジンがかかっている状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっているときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンスイッチの操作について

スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 116

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 114

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 115

■ エンジンが始動しないとき

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。

(→ P. 66)

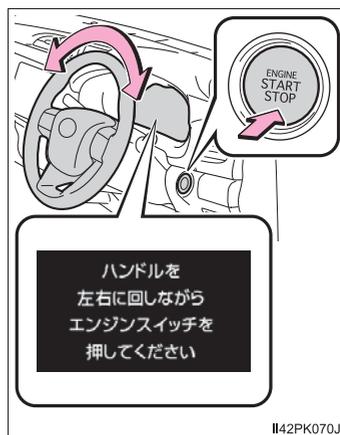
トヨタ販売店へご連絡ください。

■ ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 電子キーの電池が切れたときは

→ P. 291

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 349

 **警告****■ エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→ P. 316)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンスイッチの操作を行った場合、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジンスイッチを押し続けるとエンジン非常停止」が表示され、警告音が吹鳴します。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチを押してください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリ」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■ エンジンを始動するとき

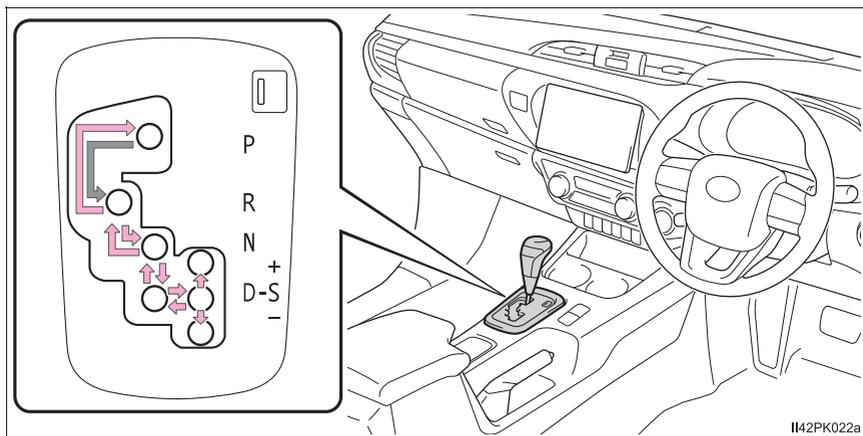
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

- ← エンジンスイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：

- ← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ^{※1}
S	Sモード走行 ^{※2} (→ P. 162)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

走行モードの選択

走行・使用条件に合わせて以下のモードを選択できます。

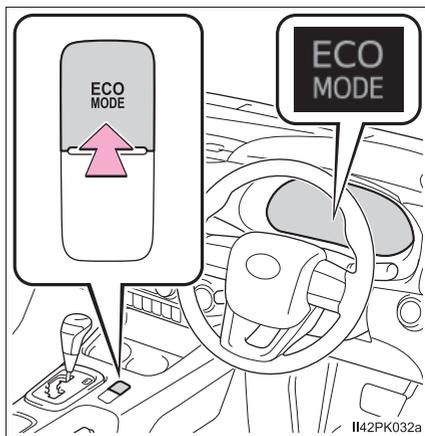
■ エコドライブモード

アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモードを選択するにはエコドライブモードスイッチを押す

エコドライブモードの選択中はエコドライブモード表示灯が点灯します。

エコドライブモードを解除するには再度スイッチを押します。



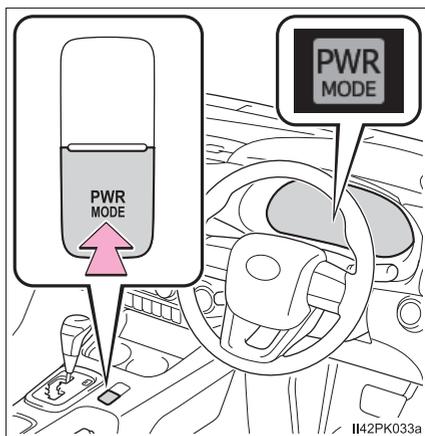
■ パワーモード

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

パワーモードを選択するにはパワーモードスイッチを押す

パワーモードの選択中はパワーモード表示灯が点灯します。

パワーモードを解除するには再度スイッチを押します。



Sモードでのシフトレンジ切りかえ

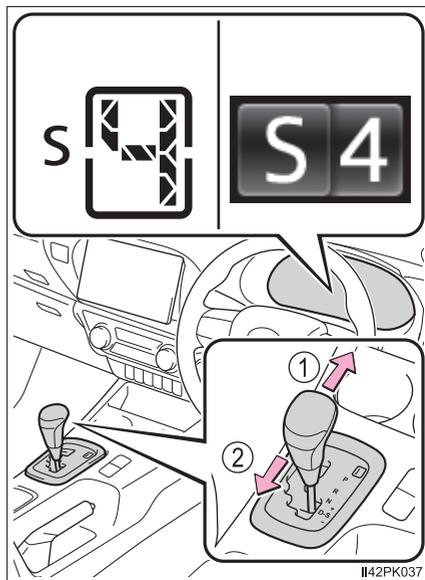
シフトレバーがSの位置にあるとき、シフトレバーを次のように操作できます。

- ① シフトアップ
- ② シフトダウン

1～6レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて5または4レンジに設定されます。

ただし、DポジションにてAI-SHIFT制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが3レンジになる場合があります。(→ P. 165)



■ シフトレンジ機能

- 車速と走行状況によって、1～6速を自動的に選択します。しかし、選択したシフトレンジによってギヤは制限されます。
- エンジンブレーキ力は、6段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

 知識**■ S モードについて**

4 レンジ以下のとき、シフトレバーを “ + ” 側へ保持すると 6 レンジに設定されます。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

■ エコドライブモード時のエアコン作動について (オートエアコン装着車)

エコドライブモードは、暖房/冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。(→ P. 247) 空調の効きをよりよくしたいときは、エコドライブモードを解除してください。

■ 走行モードの解除について

- パワーモードは、エンジンスイッチを OFF にすると自動的に解除されます。
- エコドライブモードは、スイッチを押して解除するまで、エンジンスイッチを OFF にしても自動では解除されません。

■ クルーズコントロール★を使って走行しているとき

エンジnbrakeを目的に次の操作を行っても、クルーズコントロールが解除されないためエンジnbrakeは効きません。

- S モードで走行中に 5 または 4 にシフトダウンしたとき (→ P. 162)
- D ポジションで走行中に走行モードをパワーモードにしたとき (→ P. 161)

■ 急発進の抑制について (ドライブスタートコントロール)

→ P. 140

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤動作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが “ ON ” (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) または、イグニッション ON モード (スマートエントリー&スタートシステム装着車) でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし、一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

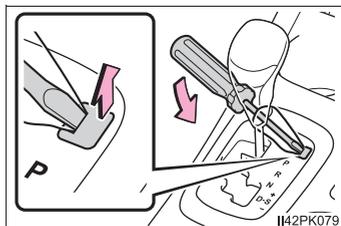
シフトロック解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを “LOCK” にする
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチを OFF にする

- 3 ブレーキペダルを踏む

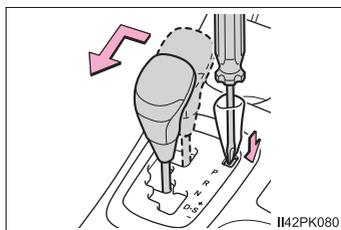
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 マイナスドライバーの先などでシフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■ シフトレバーを S にしても “S” が表示されないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■オートマチックトランスミッション保護機能

ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。

このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤが一時的に固定される場合があります。

トランスミッションの温度が下がるとギヤの固定は解除され、通常作動に戻ります。

■走行中に警告メッセージが表示されたとき

走行中に警告メッセージが表示された場合、シフトレバーを D にして、アクセルペダルをゆるめて減速してください。ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にして、エンジンをかけたまま表示が消えるまでお待ちください。

しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。

表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。



■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤに切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに、自動的に作動します。(シフトレバーを S ポジションにすると、機能が解除されます。)

⚠ 警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

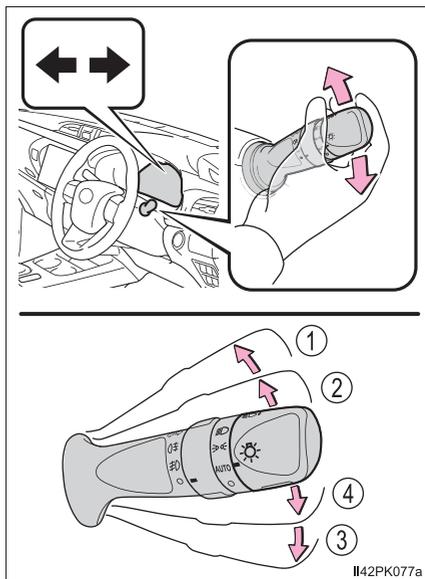
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右折
- ④ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。



知識

■ 作動条件

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON”のとき
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

① パーキングブレーキをかける

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引いてください。

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

② パーキングブレーキを解除する

レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。

パーキングブレーキ表示灯が消灯します。



知識

■ 駐車するとき

→ P. 138

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 325

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 230

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

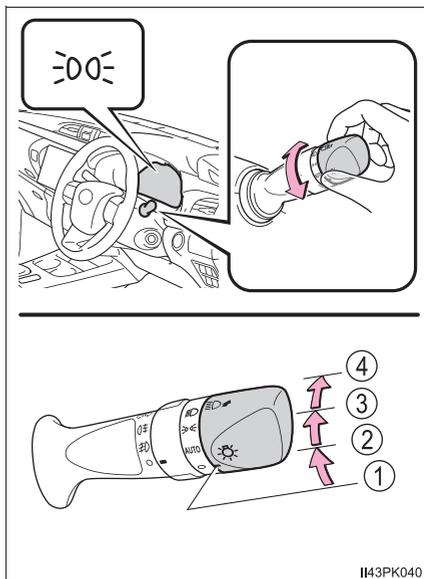
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動★または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

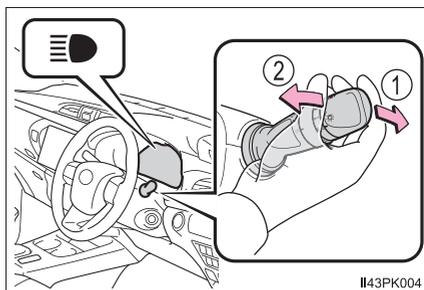
- ① ○ 消灯
- ② AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯
(ランプ自動点灯・消灯システム※装着車)
※ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに使用できます。
- ③ ≡ 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ④ ≡ ヘッドランプとヘッドランプを点灯



II43PK040

ハイビームにする

- ① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



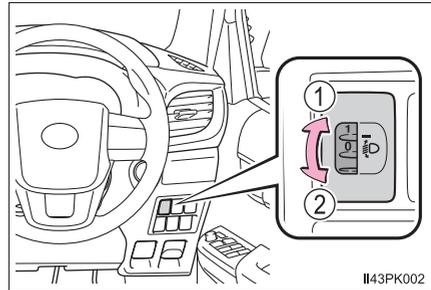
II43PK004

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



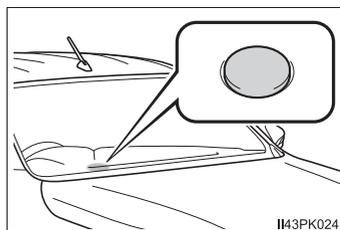
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者	最大積載時	2.5

知識

■ ライトセンサー（ランプ自動点灯・消灯システム装着車）

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能★

ランプ点灯時、エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチをOFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプと尾灯などが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチをイグニッションONモード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にするか、一度ランプスイッチをAUTOまたは  にもどし、再度  または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー★

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ランプが点灯している状態でエンジンスイッチを“LOCK”にして運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

ランプが点灯している状態でエンジンスイッチをOFFにして運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはエンジンスイッチをOFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態ヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約20分後にすべてのランプが自動消灯します。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約20分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ オートレベリングシステム（LEDヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサー★の感度の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 370）

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

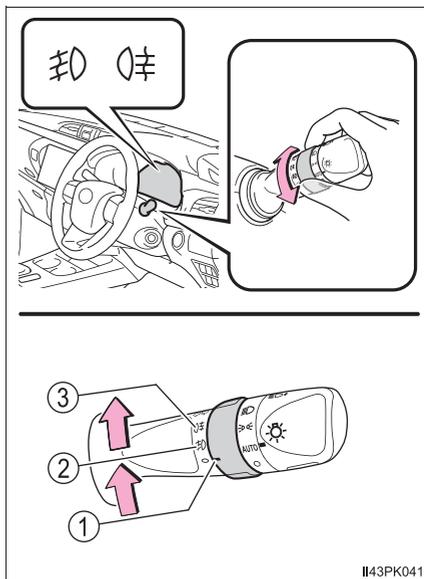
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ フロントフォグランプを点灯する
- ③ ㊧ フロント&リアフォグランプを点灯する

手を離すと ㊦ の位置までもどり
ます。
再度操作すると、リアフォグランプの
み消灯します。



II43PK041

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：車幅灯またはヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

リアフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リアフォグランプについて

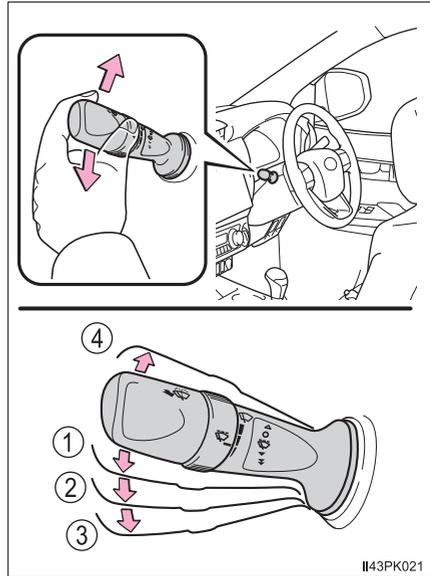
- リアフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

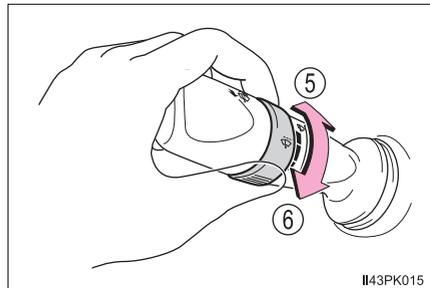
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

- ① 間欠作動
- ② 低速作動
- ③ 高速作動
- ④ 一時作動



間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度 (増)
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度 (減)



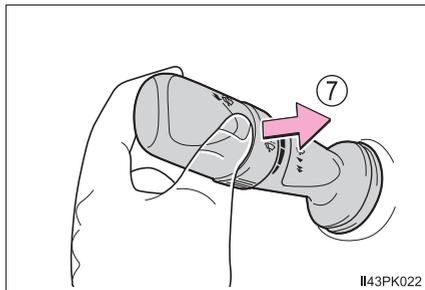
⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが運動して作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：

ヘッドランプが点灯しているときは、ヘッドランプクリーナーが1回作動します。

ヘッドランプクリーナーを再度使用したいときは、5回連続でレバーを手前に引いてください。

**知識****■ 作動条件**

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告**■ ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車
すべてのドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを “ LOCK ” にしてください。
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
すべてのドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

超低硫黄軽油（S10ppm 以下）

 **警告****■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。

- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

- 継ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■ 給油するとき

指定の軽油を使用してください。

指定以外の軽油や、他の燃料（粗悪ガソリン・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

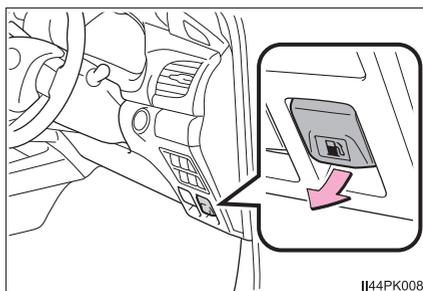
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する
- 排出ガス浄化装置が正常に機能しない

指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

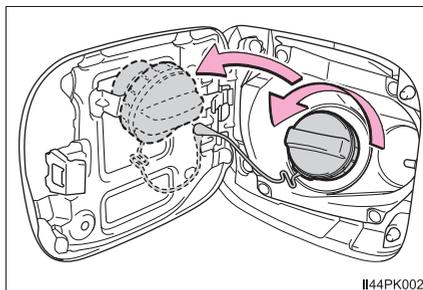
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口の開け方

- 1 オープナーを引いて、給油扉を開ける



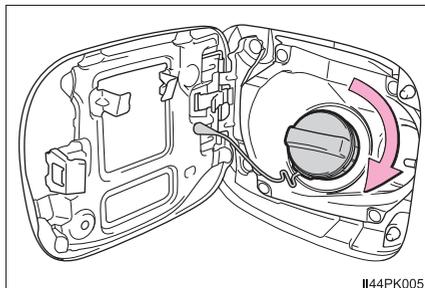
- 2 キャップをゆっくりまわして開ける、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がする
までまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し
もどります。



警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転を支援する装置★

次の運転支援装置は、運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS (プリクラッシュセーフティシステム)

→ P. 186

◆ LDA (レーンディパーチャーアラート)

→ P. 196

◆ クルーズコントロール

→ P. 204

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ・ カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

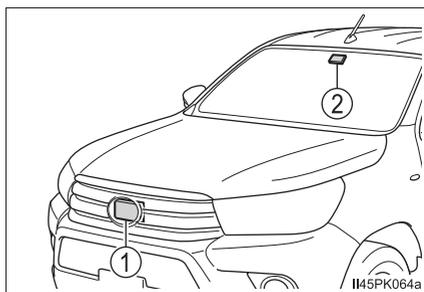
● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、プリクラッシュセーフティシステムとレーンディパーチャーアラートに必要な情報を認識します。

- ① レーダーセンサー
- ② カメラセンサー



警告

■ レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

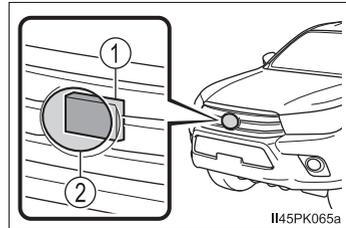
お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく

- ① レーダーセンサー
- ② フロントグリルエンブレム

レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたら、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない
- レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

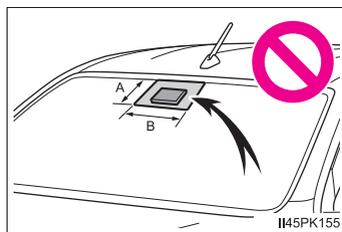
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用している場合、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側のカメラセンサー前部(図に示す範囲内)にステッカー(透明なものを含む)などを貼り付けない

A: フロントウインドウガラス上端からカメラセンサー下端より下約 1cm まで

B: 約 20cm (カメラセンサー中心から左右約 10cm)



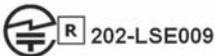
- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く (→ P. 237, 244)
- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーに強い光を照射しない

 **警告**

- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 **知識****■ レーダーセンサーの取り扱い**

本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



This product has been approved for Radio Law homologation in each country. Please do not peel off the seal pasted to product which is the proof of homologation. This device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid).

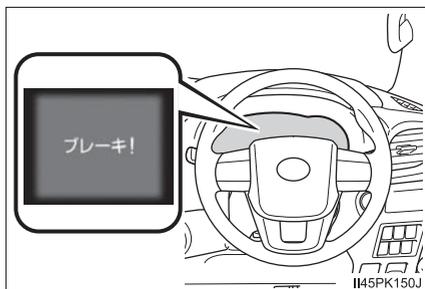
PCS (プリクラッシュセーフティシステム) ★

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。(→ P. 189)

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 191
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 193
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

 **警告****■プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

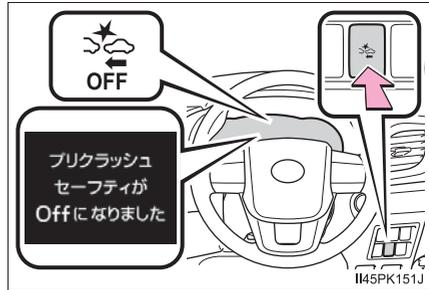
■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする

PCS スイッチを 3 秒以上押す

PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびシステムは ON になります。



■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

PCS スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示され、表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

エンジンスイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

① 遠い

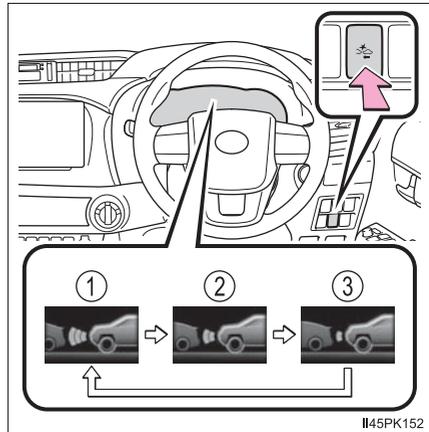
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h (検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h)
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ～ 180km/h (検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h)
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h (検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h)
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

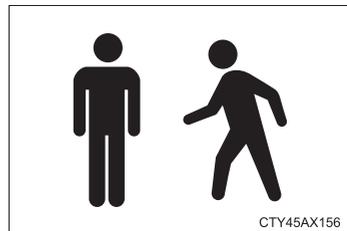
ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC が OFF のとき (衝突警報のみ作動可能状態になります)
- L4 作動表示灯が点灯しているとき (衝突警報のみ作動可能状態になります)

■歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。(→ P. 195)



■プリクラッシュブレーキの作動解除

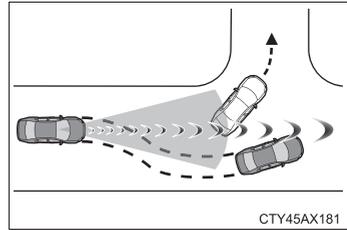
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

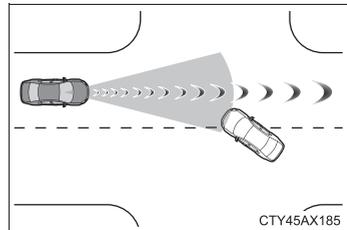
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

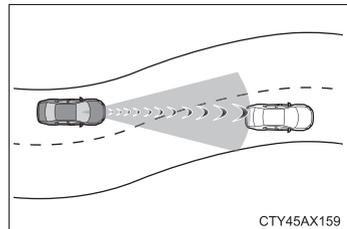
- ・ 車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して先行車を追いこすとき
- ・ 車線変更している先行車を追い抜くとき
- ・ 右左折する先行車を追いこすとき



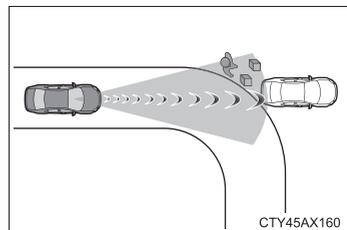
- ・ 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



- ・ 隣の車線の前方向車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

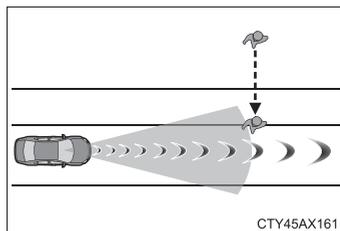


- ・ 前方車両に急接近したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

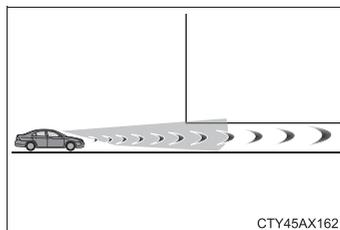


- ・ 道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・ 路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

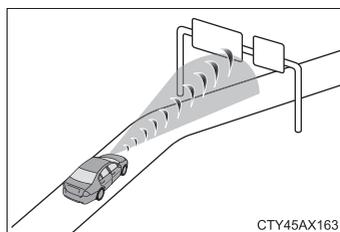
- ・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



- ・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

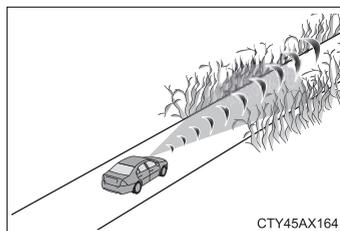


- ・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



- ・ETCゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ・洗車機を使用するとき

- ・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

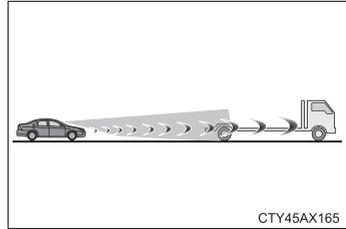


- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・路面または壁面に車両や歩行者との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

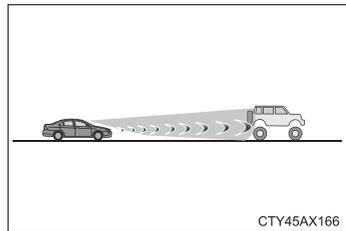
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

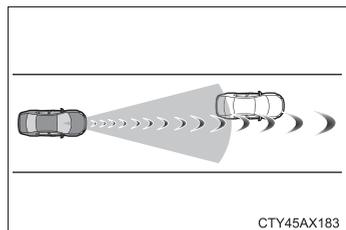
- ・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
- ・前方車両がオートバイ・自転車のとき
- ・車両の側面または前面に近付いたとき
- ・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

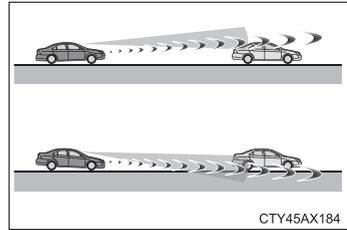


- ・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
- ・前方車両と自車の中心がずれているとき



- ・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）

- ・ 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
- ・ 薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
 - ・ ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
 - ・ ふらつき運転をしているとき
 - ・ 過度な高速走行をしているとき
 - ・ 坂道を走行しているとき
 - ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

- 例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 身長が約 1m 以下、または約 2m 以上の歩行者
 - ・ 合羽・ロングスカートなどを着用して、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・ 大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
 - ・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
 - ・ ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
 - ・ 集団でいる歩行者
 - ・ 白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
 - ・ 夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
 - ・ 服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
 - ・ 壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
 - ・ 路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
 - ・ 歩く速度が速い歩行者
 - ・ 歩く速度を急激に変化させている歩行者
 - ・ 物陰から飛び出してきた歩行者
 - ・ 車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■ PCS 警告灯が点滅または点灯、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
 - ・ 炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
 - ・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
 - ・ 前方センサーの周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
 - ・ カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：
→ P. 244）
 - ・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき
- 状況が改善されても PCS 警告灯が点滅または点灯、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ VSC を停止したとき

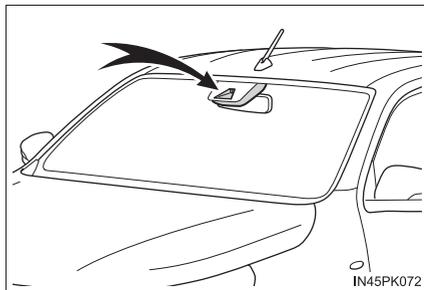
- VSC の作動を停止（→ P. 220）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA (レーンディパーチャーアラート) ※★

機能概要

白(黄)線が整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

LDA は、フロントウィンドウガラス上部のカメラセンサーで、白(黄)線を認識します。



※：車線逸脱警報

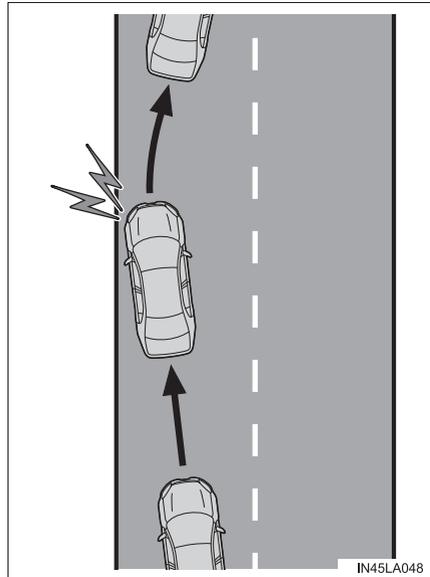
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LDAに含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

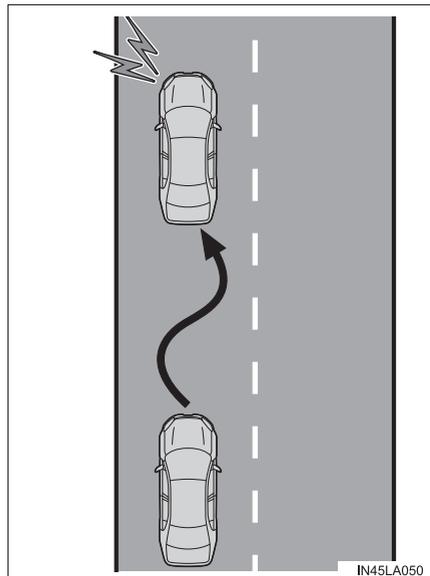
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



◆ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



 **警告****■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。

システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

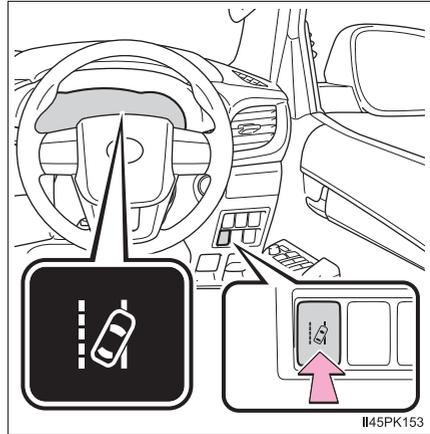
設定のしかた

LDAをONにするにはLDAスイッチを押す

LDA表示灯が点灯します。

OFFにするには、再度スイッチを押します。

いったんLDAをON / OFFすると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



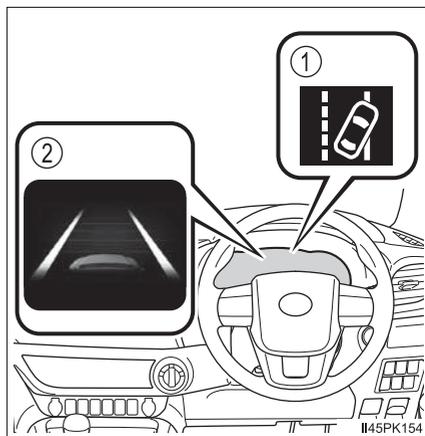
マルチインフォメーションディスプレイ表示

① LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

緑色に点灯：車線逸脱監視中

黄色に点滅：車線逸脱警報中



② 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 203）

● ぶらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 203）

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 201）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■ 白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示された場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LDA 故障 販売店で 点検してください	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある → トヨタ販売店で点検を受けてください。
前方カメラ 一時利用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください	カメラセンサーの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している → いったん LDA を OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度 LDA を ON にしてください。
前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちください	カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされていない → カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされると、LDA は使用可能になります。いったん LDA を OFF にして、しばらく待ってから、再度 LDA を ON にしてください。
LDA 現在使用できません	カメラセンサー以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している → いったん LDA を OFF にして、警告メッセージの内容に対処したあと、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください
LDA 約 50km/h 以下で 使用できません	車速が約 50km/h 以下のため LDA が使用できません → 約 50km/h より速い速度で走行してください。

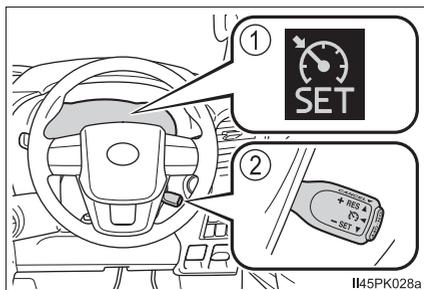
その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

- ① 表示灯
- ② クルーズコントロールスイッチ

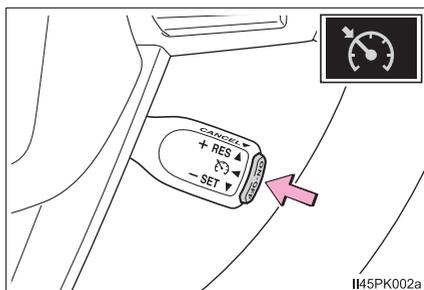


速度を設定する

- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

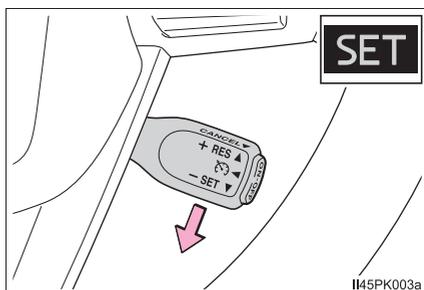
OFF にするには、再度スイッチを押します。



- 2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離れたときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

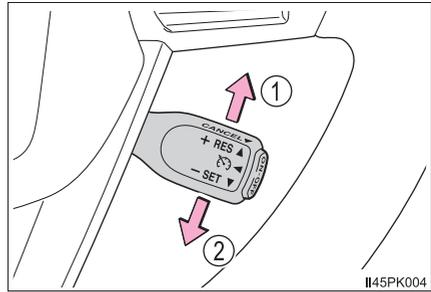
設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

- ① 速度を上げる
- ② 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する



設定速度は、次の通りに増減されます：

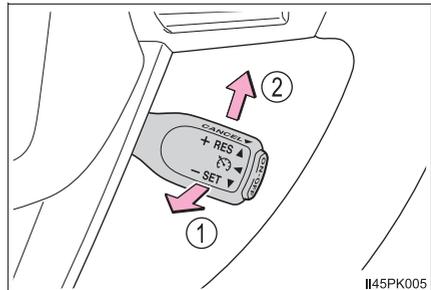
微調整：レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：レバーを保持するあいだ

定速走行を解除する・復帰させる

- ① 解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上るとき設定できます。
- 車速は約 40km/h 以上るとき設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
- 速度が約 40km/h 以下になった
- VSC が作動した
- トランスファースイッチを H2 と H4 のあいだで操作した
- TRC / A-TRC が一定時間作動した
- VSC・TRC / A-TRC を OFF にした

■ 定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイにクルーズコントロールに関する警告メッセージが表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

4WD システム

トランスファースイッチを操作して駆動系の作動状態を切りかえます。

① H2 (ハイレンジ 2WD)

市街地や高速道路などの乾燥した舗装路面を一般走行する場合に使用します。

通常はこの位置で使用します。

② H4 (ハイレンジ 4WD)

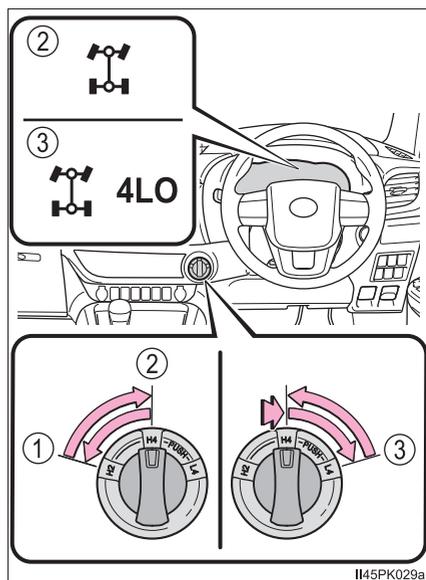
悪路・氷雪路・砂地など、すべりやすい路面を走行する場合に使用します。

4WD 表示灯が点灯します。

③ L4 (ローレンジ 4WD)

悪路・砂地・ぬかるみ・深雪路などで特に大きな駆動力を必要とするときなどや急な降坂路を走行するときに使用します。

4WD 表示灯・L4 作動表示灯が点灯します。



II45PK029a

A.D.D. (オートマチックディスコネクティングディファレンシャル)

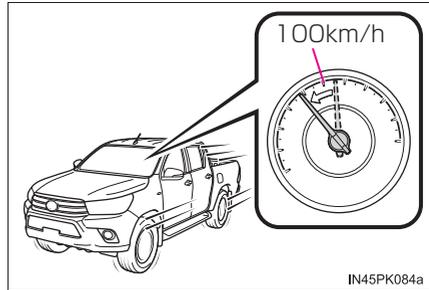
トランスファーレンジの切りかえ操作 (→ P. 209) に従って、自動的に動力の断続を行います。

トランスファーレンジの切りかえ

■ H2 から H4 への切りかえ

- 1** 車速が 100km/h 以下であることを確認する

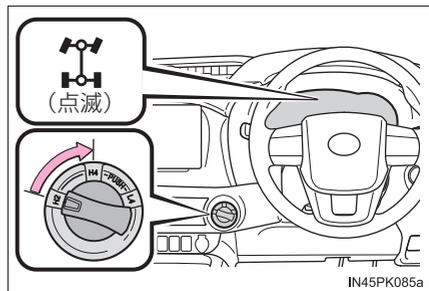
100km/h以上で走行しているときは、トランスファーレンジの切りかえができません。



- 2** トランスファースイッチを右 (H4) へまわす

トランスファーレンジの切りかえ中は、4WD 表示灯が点滅します。

100km/h以上で走行しているときにトランスファースイッチを操作すると、4WD 表示灯が点滅してブザーが鳴ります。100km/h 以下に減速するか、トランスファースイッチを H2 にもどして、手順**1**からやり直してください。



- 3** 4WD表示灯が点灯したことを確認する

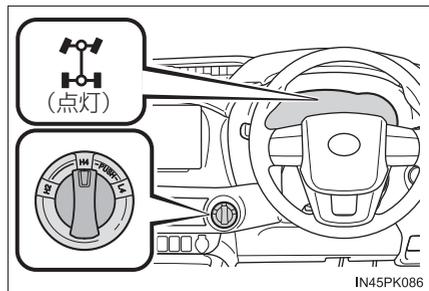
4WD 表示灯が点灯したら、トランスファーレンジの切りかえは完了です。

トランスファースイッチの操作後に 4WD 表示灯が点滅したままのときは、直進走行中に次のいずれかの操作を行ってください。

- ・ 加速する
- ・ 減速する
- ・ 後退する

停車状態でトランスファースイッチの操作をしたとき、4WD 表示灯が点滅したままになる場合があります。次のいずれかの操作を行ってください。

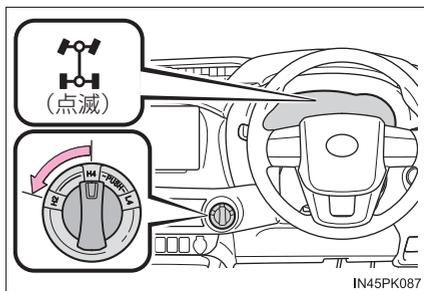
- ・ 前進する
- ・ 後退する



■ H4 から H2 への切りかえ

- 1 トランスファースイッチを左 (H2) へまわす

トランスファーレンジの切りかえ中は、4WD 表示灯が点滅します。



- 2 4WD 表示灯が消灯したことを確認する

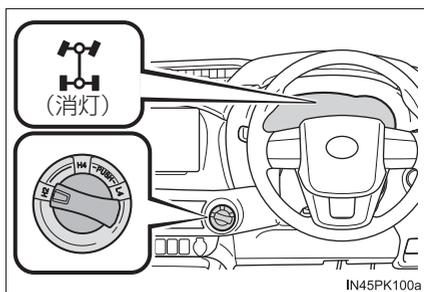
4WD 表示灯が消灯したら、トランスファーレンジの切りかえは完了です。

トランスファースイッチの操作後に 4WD 表示灯が点滅したままのときは、直進走行中に次の操作を行ってください。

- ・ 加速する
- ・ 減速する
- ・ 後退する

操作後も表示灯が点滅したままの場合は、ハンドルを左右にまわしながら上記の操作を行ってください。

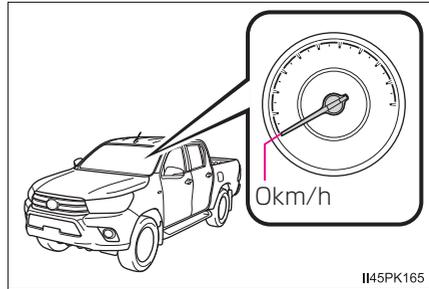
切りかえ時に車体やハンドルに衝撃を感じるがありますが、異常ではありません。



■ H4 から L4 への切りかえ

1 車両を完全に停止させる

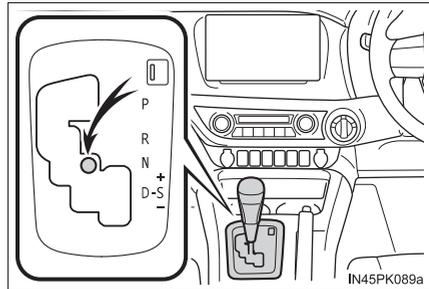
車両が動いているときは、トランスファーレンジを切りかえることができません。



2 シフトレバーをNにする

トランスファーレンジの切りかえが完了する（L4 作動表示灯が点灯する）まで、シフトレバーをNにしておきます。

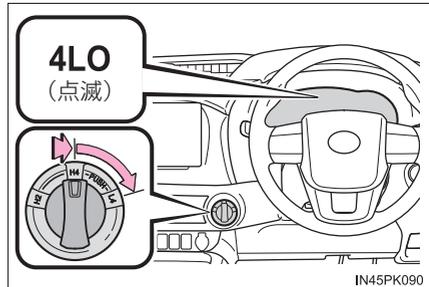
シフトレバーがN以外ときは、トランスファーレンジを切りかえることができません。



3 トランスファースイッチを押しながら右（L4）へまわす

トランスファーレンジの切りかえ中は、L4 作動表示灯が点滅します。

手順①～手順②を実施せずにスイッチをまわすと、L4 作動表示灯が点滅するとともにブザーが鳴ります。トランスファースイッチを H4 にもどして手順①からやり直してください。

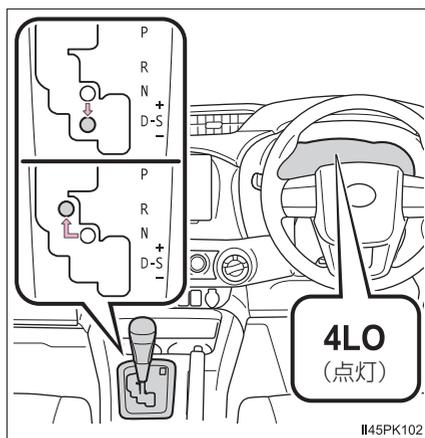


L4 作動表示灯の点滅中にシフトレバーを N 以外に入れると、ギヤ鳴りが発生します。ただちにシフトレバーを N にして、切りかえが完了するまでお待ちください。

4 L4 作動表示灯が点灯したことを確認する

L4 作動表示灯が点灯したら、トランスファーレンジの切りかえは完了です。

ブレーキペダルを踏んでシフトレバーを N から D または R に入れ、走行してください。

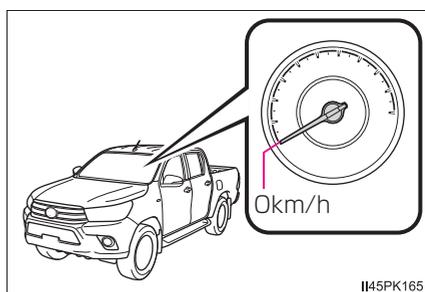


II45PK102

■ L4 から H4 への切りかえ

1 車両を完全に停止させる

車両が動いているときは、トランスファーレンジを切りかえることができません。

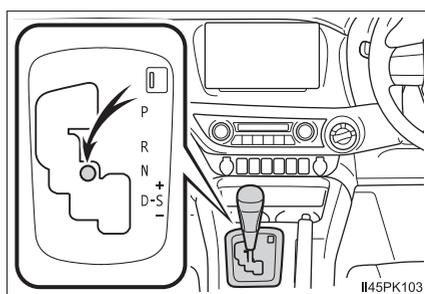


II45PK165

2 シフトレバーを N にする

トランスファーレンジの切りかえが完了する (L4 作動表示灯が消灯する) まで、シフトレバーを N にしておきます。

シフトレバーが N 以外のときは、トランスファーレンジを切りかえることができません。

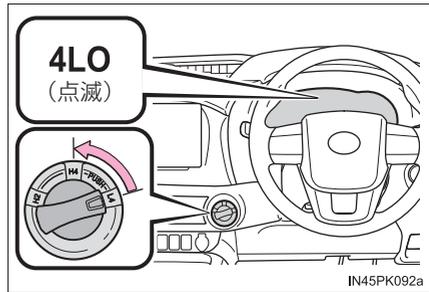


II45PK103

3 トランスファースイッチを左 (H4) へまわす

トランスファーレンジの切りかえ中は、L4 作動表示灯が点滅します。

手順①～手順②を実施せずにスイッチをまわすと、L4 作動表示灯が点滅するとともにブザーが鳴ります。トランスファースイッチを L4 にもどして手順①からやり直してください。

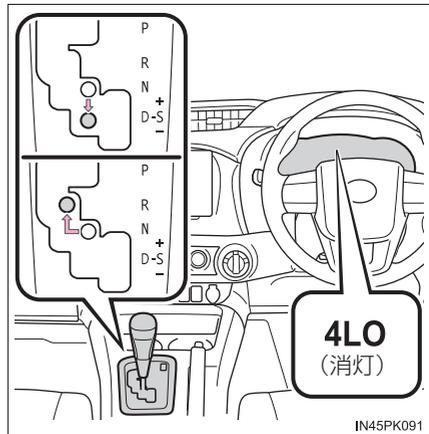


L4 作動表示灯の点滅中にシフトレバーを N 以外に入れると、ギヤ鳴りが発生します。ただちにシフトレバーを N にして、切りかえが完了するまでお待ちください。

4 L4 作動表示灯が消灯したことを確認する

L4 作動表示灯が消灯したら、トランスファーレンジの切りかえは完了です。

ブレーキペダルを踏んでシフトレバーを N から D または R に入れ、走行してください。



⚠ 注意

■ H4-L4 間の切りかえについて

L4 作動表示灯が点滅しているときは、シフトレバーを N 以外に入れたり、アクセルペダルを踏んだりしないでください。ギヤ鳴りが発生し故障の原因になります。

 知識

■ 4WD 走行について

前輪駆動部品のオイルを循環させるため、月に少なくとも 16km 程度は 4WD 走行を行ってください。

■ H2-H4 間の切りかえについて

外気温が低いときは、トランスファーモードの切りかえができないことがあります。その場合は速度をさらに低くするか、車両を停止させてから切りかえてください。

■ L4 へ切りかえると

VSC が自動的に OFF になります。

■ 乾燥した舗装路面および高速道路を走行するとき

H2 で走行してください。H4 または L4 で長時間走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの内容に従ってください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「デフ高油温 H2 へ切替えて冷却してください」が表示されたとき

ディファレンシャルギヤオイルの温度が異常に高くなっています。
トランスファースイッチを H2 にして、メッセージが消えるまでお待ちください。

 警告

■ 走行中の警告

- タイヤがスリップしているときは、絶対にトランスファースイッチを H2 から H4 へ切りかえないでください。タイヤのスリップや空転が止まってから、トランスファースイッチを操作してください。
- 乾燥した舗装路面および高速道路では、必ず H2 で走行してください。H4 または L4 で走行すると駆動系部品に悪影響を与え、駆動系のオイルもれや焼き付きなどにより、思わぬ事故につながる可能性があります。また、タイヤの早期摩耗や燃料消費量の悪化につながる可能性があります。
- H4 または L4 での急旋回は避けてください。急旋回した場合、タイトコーナープレーキング現象（ブレーキをかけた状態と同じような現象）を起こし、運転しにくくなります。これは前・後輪の回転差のため起きる現象で、異常ではありませんが、危険なため避けてください。

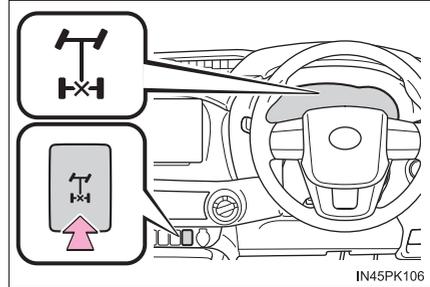
リヤデフロック★

リヤデフロックは、すべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときのみ使用する、緊急脱出用の装置です。特に後輪が空転しているときに効果を発揮します。

ON / OFF を切りかえる

スイッチを押すと、リヤデフロック状態になり、リヤデフロック作動表示灯が点灯します。

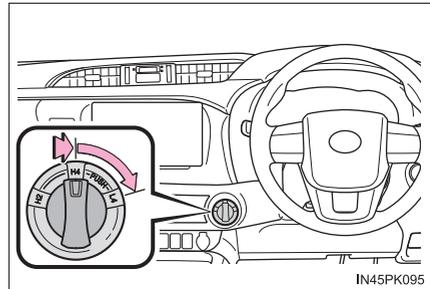
もう一度押すと、リヤデフロック状態が解除され、表示灯が消灯します。



リヤデフロックの使い方

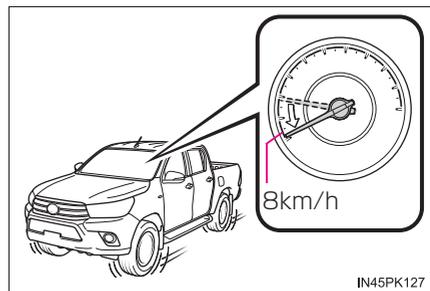
- 1 リヤデフロックを使用する前に、トランスファースイッチをL4に切りかえて脱出を試みる(→ P. 211)

それでも脱出できない場合は、リヤデフロックを使用してください。



- 2 車両を約8km/h以下に減速させる

タイヤが空転していないことを確認する。

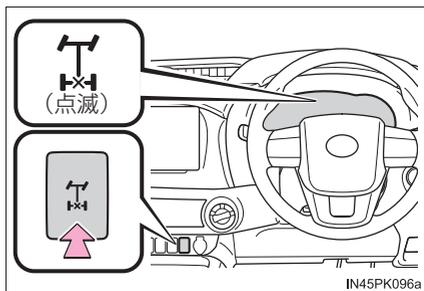


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

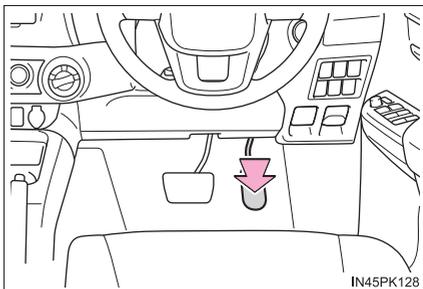
3 リヤデフロックスイッチを押す

リヤデフロックの切りかえ中はリヤデフロック作動表示灯が点滅します。

手順①～手順②を実施せずにスイッチを押すと、リヤデフロック作動表示灯が3回点滅するとともにブザーが3回鳴り、リヤデフロック状態に切りかえることができません。手順①からやり直してください。



4 アクセルペダルをゆっくり踏み込む

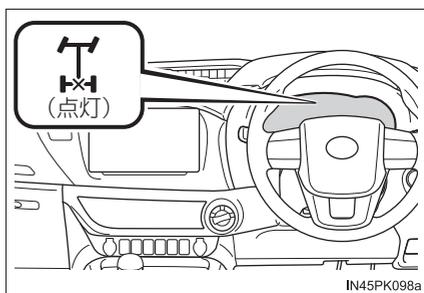


5 リヤデフロック作動表示灯が点灯したことを確認する

リヤデフロック作動表示灯が点灯したら、リヤデフロックの切りかえは完了です。

リヤデフロック作動表示灯が点滅したままのときは、ハンドルを左右にまわしながら次のいずれかの操作を行ってください。

- ・ 加速する
- ・ 減速する



脱出後は、再度リヤデフロックスイッチを押して、すみやかにリヤデフロック状態を解除してください。

 知識**■ リヤデフロック状態のとき**

リヤデフロック状態のときは、次のシステムが使用できません。このとき ABS 警告灯・VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されます。

- ・ ABS (アンチロックブレーキシステム)
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC (ピークルスタビリティコントロール)
- ・ TRC (トラクションコントロール) / A-TRC (アクティブトラクションコントロール)
- ・ ヒルスタートアシストコントロール
- ・ ダウンヒルアシストコントロールシステム

■ リヤデフロックの解除について

リヤデフロックを解除しても作動表示灯が点滅したままの場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを少しまわすと、リヤデフロック状態が解除されます。

■ リヤデフロック状態自動解除機能

次のいずれかの操作をすると、リヤデフロック状態が解除されます。

- トランスファースイッチを H2 または H4 にする
- エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする

■ リヤデフロック使用後は

リヤデフロック作動表示灯が消灯したことを確認してください。

 **警告****■ 事故を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- すべりやすい路面や凹凸のある路面以外ではリヤデフロックを使用しない
ハンドルが重くなり、ハンドル操作が困難になります。

- タイヤの空転が止まるまでリヤデフロックを使用しない

空転が止まる前にリヤデフロックを使用すると、車が思わぬ方向に動くおそれがあり危険です。また、駆動系部品の損傷につながります。

- リヤデフロック状態では、車速約 8km/h 以上で走行しない
- リヤデフロックを ON にしたまま走行し続けない

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）※¹

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ A-TRC（アクティブトラクションコントロール）※²

すべりやすい路面での発進時・加速時に生じる車輪の空転を4輪別々に抑制するとともに、降坂時のエンジンブレーキ抜けによる加速を抑制し、車両の方向安定性と駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→P. 186

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

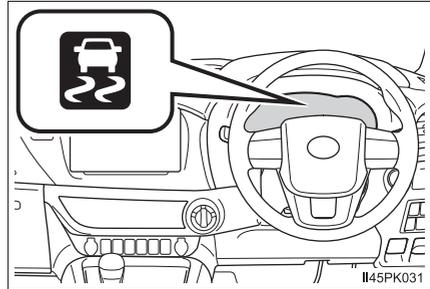
※¹ トランスファースイッチがH2のとき

※² トランスファースイッチがH4またはL4のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC / A-TRC・VSC が作動しているとき

TRC / A-TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC / A-TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC / A-TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、

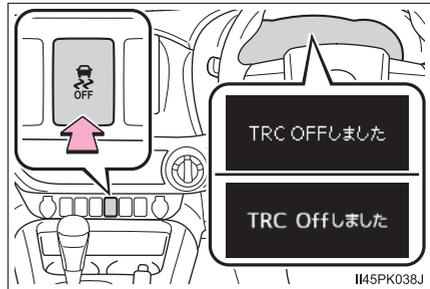
脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC / A-TRC を停止するには

 を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」 / 「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



 知識

■ TRC / A-TRC と VSC を停止するには

TRC / A-TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する。VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」 / 「TRC Off しました」と表示されます。*

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

* PCS (プリクラッシュセーフティシステム) 装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→ P. 220)

■  を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」 / 「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC / A-TRC ・ダウンヒルアシストコントロールシステム★が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されたとき

VSC の作動を停止したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。機能を復帰するには、VSC を ON にします。

■ ABS ・ブレーキアシスト ・ TRC / A-TRC ・ VSC ・ ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ TRC / A-TRC や VSC の自動復帰について

TRC / A-TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを “ LOCK ” (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) または OFF (スマートエントリー&スタートシステム装着車) にしたとき
- (TRC / A-TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC / A-TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外 (前進または後退での上り坂発進時)
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

 **警告****■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC / A-TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC / A-TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告****■ スリップ表示灯が点滅しているとき**

TRC / A-TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC / A-TRC や VSC を OFF にするとき

TRC / A-TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC / A-TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC / A-TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 366）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC / A-TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ダウンヒルアシストコントロールシステム★

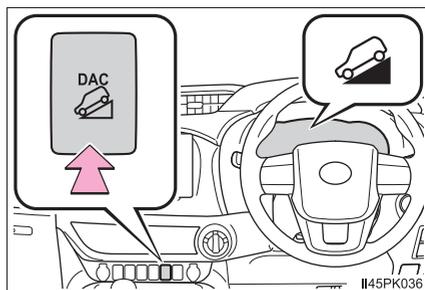
急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。システムはトランスファースイッチが L4 または H4 で、ブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 30km/h 以下のときに使用できます。

ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

DAC スイッチを押す

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば、作動可能状態です。

ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。



ダウンヒルアシストコントロールシステムの解除

DAC スイッチをもう一度押す。

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。システムを作動させたいときは、もう一度スイッチを押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するとき**

ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトレバーがP以外のときに作動しますが、システムの効果を十分に発揮するために、前進時は S モードの 1 または 2 レンジにすることをおすすめします。

■ ダウンヒルアシストコントロールシステムが使用できないとき

- トランスファースイッチが H2 のとき
- リヤデフロックを使用しているとき

■ ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

- 次のときはダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません
 - ・ トランスファースイッチが L4 または H4 以外のとき
 - ・ リヤデフロックを使用しているとき
 - ・ シフトレバーが P にあるとき
 - ・ アクセルペダルまたはブレーキペダルを操作しているとき
 - ・ 車速が約 30km/h をこえたとき
 - ・ ブレーキシステムが異常過熱したとき
- 次のときはダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します
 - ・ シフトレバーが N にあるとき
 - ・ ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているときにDACスイッチを押したときダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

■ 長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が自動的に解除されます。この場合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されます。(通常走行は可能です)

しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯にかわり、「TRC Off しました」が消えれば、システムが使用可能となります。

■ 作動音や振動について

- エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ システムに異常があるときは

次の場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてもダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない
- DAC スイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない
- スリップ表示灯が点灯する

警告

■ ダウンヒルアシストコントロールシステムを使うとき

ダウンヒルアシストコントロールシステムを過信しないでください。車両の限界性能を高めるためのものではないため、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

■ 正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、車両を一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 泥、砂利の道路などのすべりやすい路面
- 凍結路
- 未舗装路

排出ガス浄化装置

排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

◆ 燃焼（再生）処理について

一般走行では数百 km[※] 走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。

※ 気候や走行状況等により異なります。

◆ 排出ガス浄化装置について

排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドリング回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたときは

- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不十分 取扱書を確認してください」が表示されたときは、走行を続けてください。（→ P. 330）
- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不可 販売店で点検してください」が表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。(→ P. 363)

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージについて

走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドリングストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化警告メッセージが表示される場合があります。

警告

■ ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

- 燃えやすいものや乾いた草などの近くに車を停車しない



- 排気管周辺に人がいないことを確認する



- 車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼（再生）処理を行わない
- 燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

 **注意****■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたとき**

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯します。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 排出ガス浄化装置の故障を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- 排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがいないか定期的に点検する
異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - ・ 燃料
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
(タイヤについて：→ P. 282)

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かししたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ~ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ 燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以上にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安 [※]
JIS 2 号軽油	- 5℃
JIS 3 号軽油	- 12℃
JIS 特 3 号軽油	- 19℃

※ 環境や使用状況により異なります。

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA (レーンディパーチャーアラート) ★を使用しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウィンドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。

ウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能**5****5-1. エアコンの使い方**

マニュアルエアコン.....	236
オートエアコン.....	242

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....	249
・パーソナルランプ/ インテリアランプ メインスイッチ.....	250
・パーソナルランプ/ インテリアランプ.....	250
・インテリアランプ.....	250

5-3. 収納装備の使い方

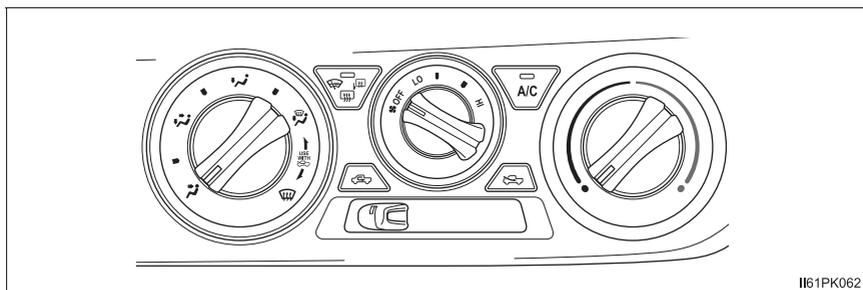
収納装備一覧.....	252
・グローブボックス.....	253
・コンソールボックス.....	253
・カップホルダー.....	254
・ボトルホルダー.....	255
・小物入れ.....	256
荷台装備.....	259

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....	260
・サンバイザー.....	260
・バニティミラー.....	260
・時計.....	261
・アクセサリソケット.....	262
・買い物フック.....	263
・コートフック.....	264
・アームレスト.....	264
ステアリングスイッチ.....	265

マニュアルエアコン★

エアコン操作について



I161PK062

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  を右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときは、ダイヤルを OFF の位置に合わせてください。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  を右に、下げるときは左にまわす

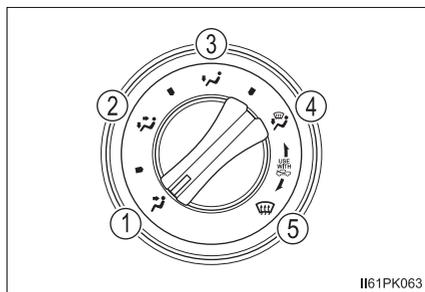
 が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 吹き出し口を切りかえる

 をまわす

ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る
- ⑤ ガラスの曇りを取る



I161PK063

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内気循環／外気導入切りかえレバーを操作する

内気循環にするには、レバーの位置を  にします。

外気導入にするには、レバーの位置を  にします。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

- 1  を  の位置にする

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。

- 2 状況に応じて次の操作を行う

-  で風量を調整する
-  で温度を調整する
- 除湿機能が作動していないときは、 を押して作動させる

風量を強くし、送風温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

■ リヤウィンドウデフォグガー & ミラーヒーター

リヤウィンドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

 を押す

リヤウィンドウデフォグガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

■ フロントワイパーデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。



フロントワイパーデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

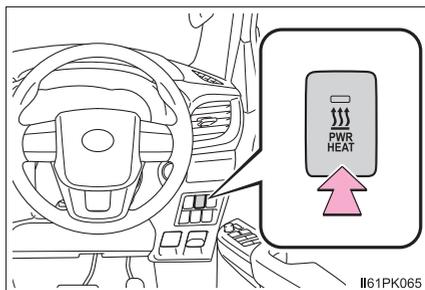
■ パワーヒーター

エンジン冷却水の温度が低いとき、寒冷時に車内を急速に暖めるとき、車内の暖房効果を保持するときに使用してください。

パワーヒーターを使用するには、パワーヒータースイッチを押す

パワーヒーターが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

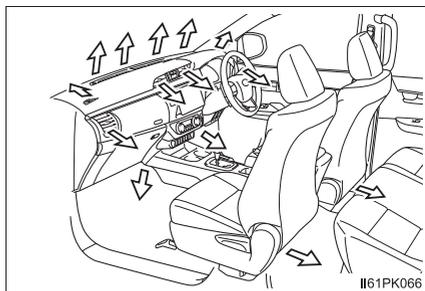
スイッチを押した状態でエンジン停止後にエンジンを再始動すると、アイドル回転数が上がります。



吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

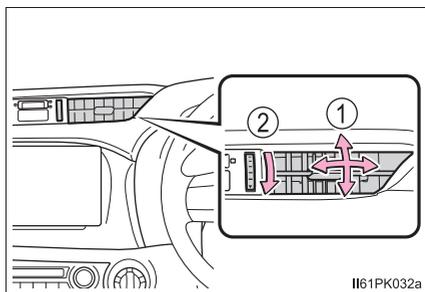
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

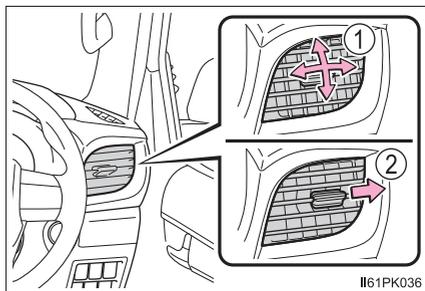
▶ 中央吹き出し口

- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口を閉じる



▶ 左右吹き出し口

- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口を閉じる



 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
-  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

 を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

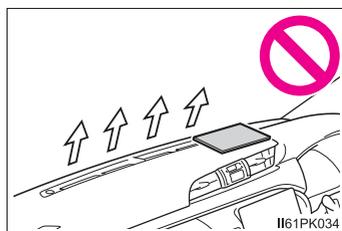
■ エアコンフィルターについて

→ P. 288

警告**■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、をの位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**■リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー作動中の警告**

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

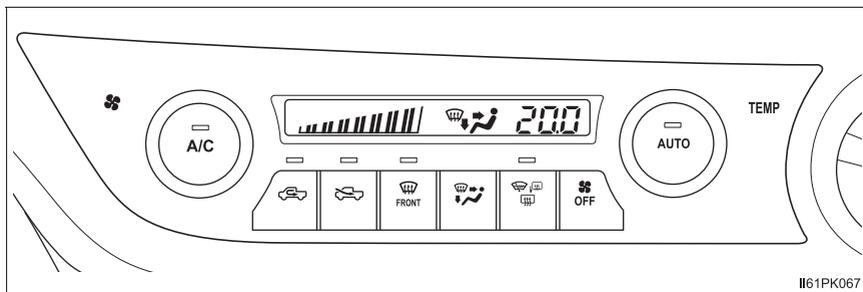
注意**■バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オートエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作について



■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  を右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときは、 を押します。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  を右に、下げるときは左にまわす

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには  を押します。

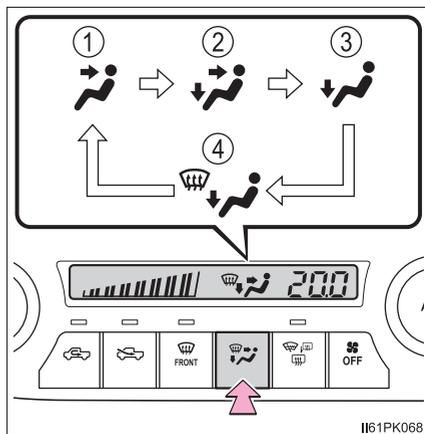
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

1  を押す

2 温度を設定する

ファンをとめたいときは、 を押します。

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、 の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内気循環に切りかえるときは  を、外気導入に切りかえるときは

 を押す

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に切りかわる場合もあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

 を押す

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、約 15 ～ 60 分後に自動的に OFF になります。

■ フロントワイパーデアイサー

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

 を押す

フロントワイパーデアイサーは、約 15 ～ 60 分後に自動的に OFF になります。

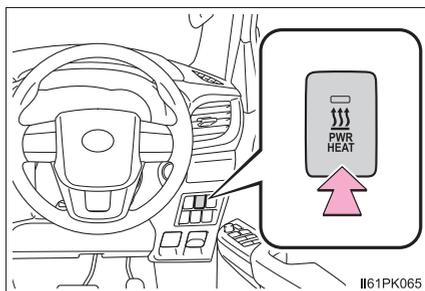
■ パワーヒーター

エンジン冷却水の温度が低いとき、寒冷時に車内を急速に暖めるとき、車内の暖房効果を保持するときに使用してください。

パワーヒーターを使用するには、パワーヒータースイッチを押す

パワーヒーターが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

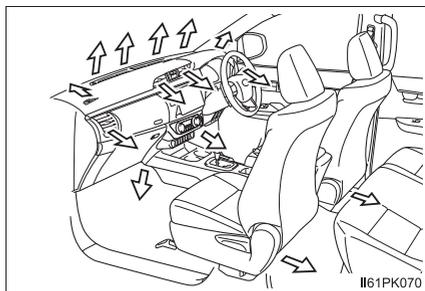
スイッチを押した状態でエンジン停止後にエンジンを再始動すると、アイドル回転数が上がります。



吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

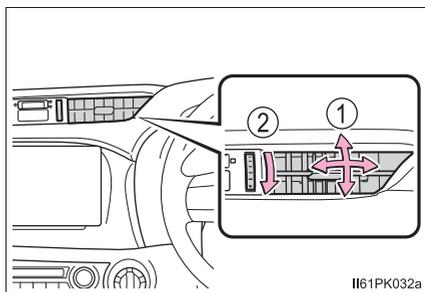
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

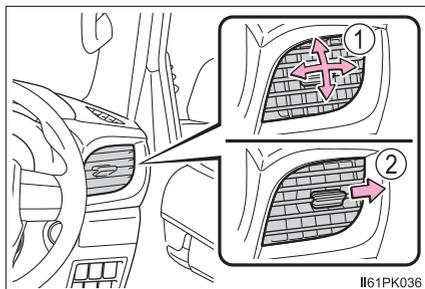
▶ 中央吹き出し口

- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口を閉じる



▶ 左右吹き出し口

- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口を閉じる



 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● をONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。

● 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

● トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

● 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

● エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

- ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
- ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

● 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- ・ 風量を調整する
- ・ エコドライブモードを解除する（→ P. 161）
- ・ 設定温度を調整する

■ 外気温度が0℃近くまで下がったとき

を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

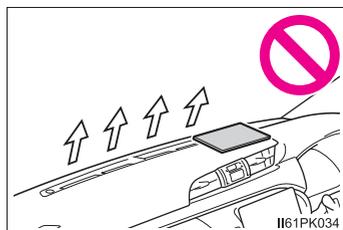
■エアコンフィルターについて

→ P. 288

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー作動中の警告

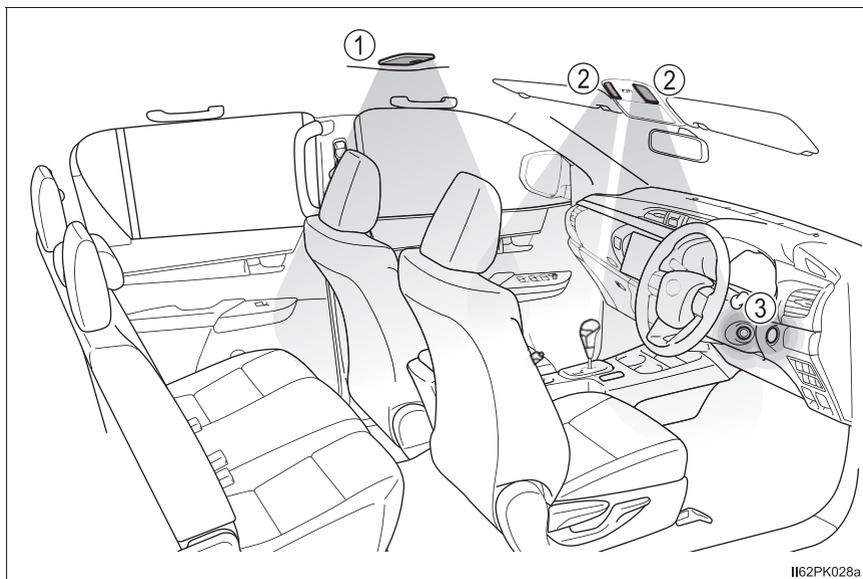
- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

室内灯一覧

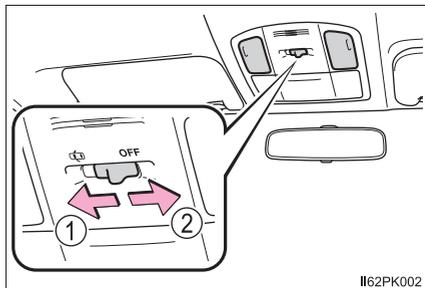


- ① インテリアランプ (→ P. 250)
- ② パーソナルランプ/インテリアランプ (→ P. 250)
- ③ エンジンスイッチ照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パーソナルランプ／インテリアランプメインスイッチ

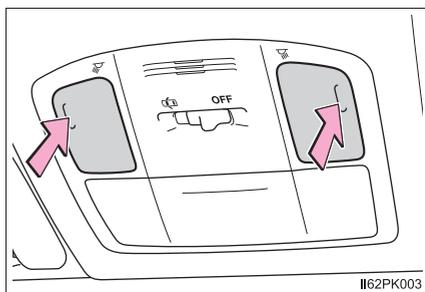
- ① ドアの開閉作動に連動して、ランプ点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）
- ② ランプを消灯する



I62PK002

パーソナルランプ／インテリアランプ

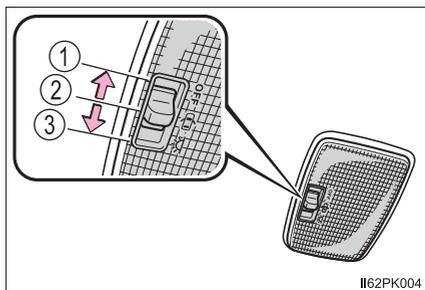
ランプを点灯・消灯する



I62PK003

インテリアランプ

- ① ランプを消灯する
- ② ドアの開閉作動に連動して、ランプ点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）
- ③ ランプを点灯する



I62PK004

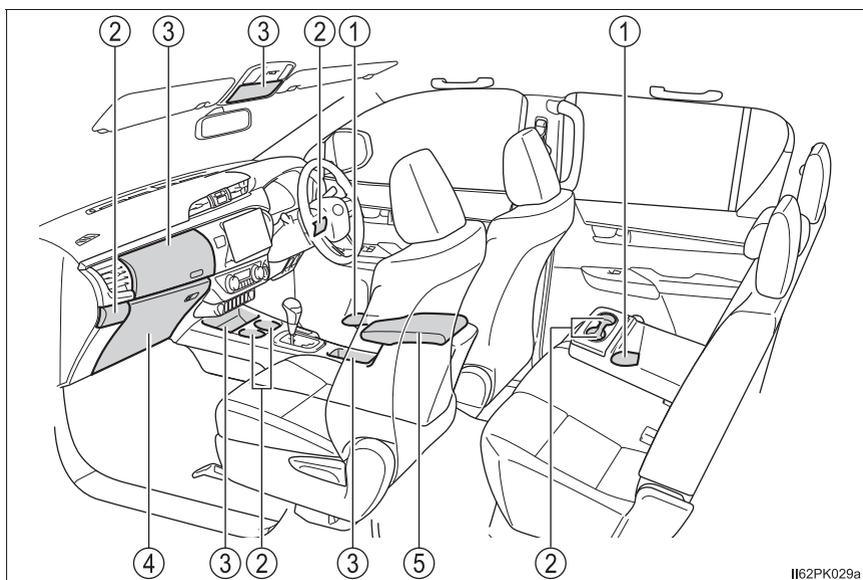
 知識

- イルミネーテッドエントリーシステム：
 - ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。
 - ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。
- エンジンスイッチが “ LOCK ” （スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または OFF （スマートエントリー&スタートシステム装着車）の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



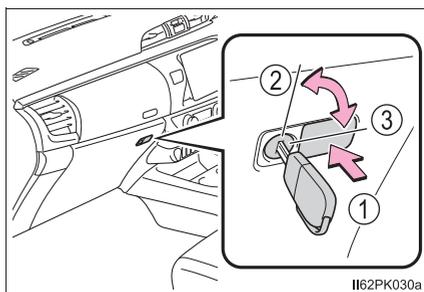
- ① ボトルホルダー (→ P. 255)
- ② カップホルダー (→ P. 254)
- ③ 小物入れ (→ P. 256)
- ④ グローブボックス (→ P. 253)
- ⑤ コンソールボックス (→ P. 253)

警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
 放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
 急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

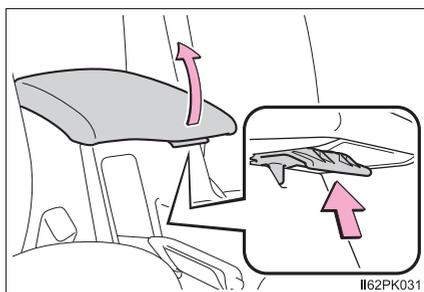
グローブボックス

- ① 開ける（ボタンを押す）
- ② マスターキー★またはメカニカルキー★で解錠
- ③ マスターキー★またはメカニカルキー★で施錠



コンソールボックス

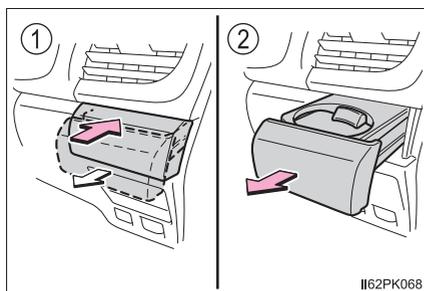
レバーを引きながらフタを持ち上げる



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カップホルダー

▶ インストルメントパネル

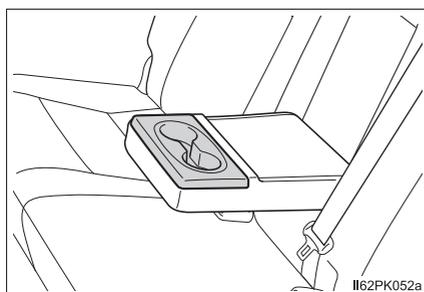


① 軽く押し込む

カップホルダーが少し飛び出します。

② 手前に引き出す

▶ リヤアームレスト★



リヤアームレストを引き出す
(→ P. 264)

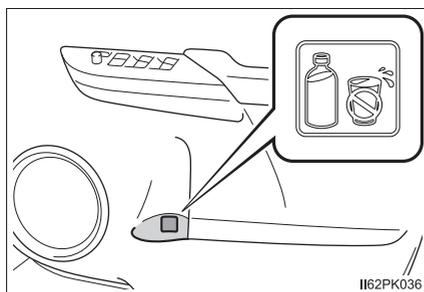
▲ 警告

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

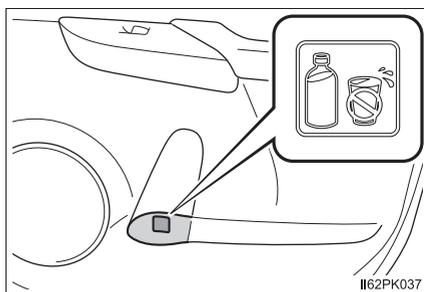
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ

 **知識**

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 **警告**

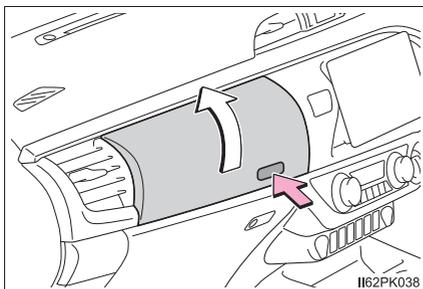
ボトルホルダーにはボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

 **注意**

ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

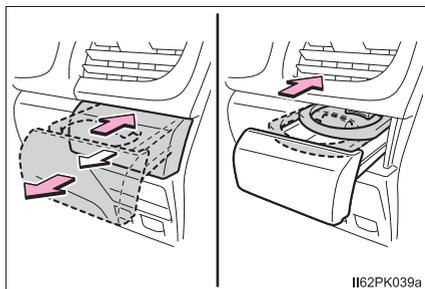
小物入れ

▶ 助手席アッパーボックス



ボタンを押して開ける

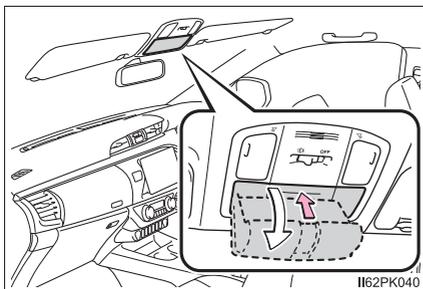
▶ インストルメントパネル



カップホルダー (→ P. 254) の
リングを奥にしまう

カップホルダーを小物入れとして使
用できます。

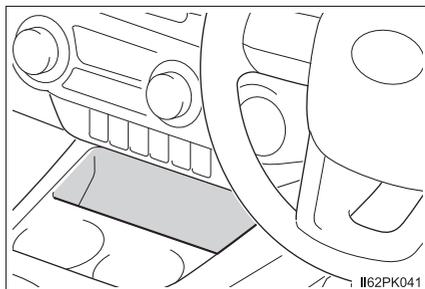
▶ オーバーヘッドコンソールボッ クス



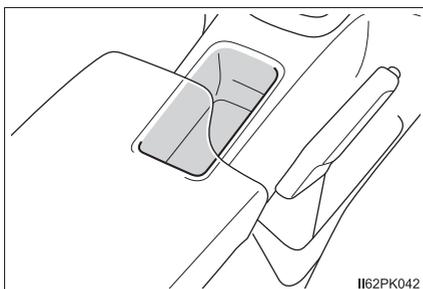
フタを押す

サングラスなどの小物を一時的に収納
するのに便利です。

▶ シフトレバー前



▶ コンソール部



知識

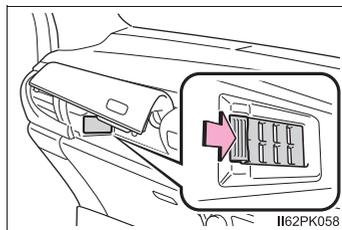
■ エアコン送風機能について★（助手席アッパーボックス）

吹き出し口を開閉することで、エアコンの風を小物入れ内へ送風することができます。ただし、小物入れ内の温度はエアコンから吹き出す風の温度と同じにはならないため、極端な加熱や冷却はできません。湿度が高いときに使用する場合、収納したものが結露することがあります。

● エアコン送風機能を使用する

1 小物入れ内の吹き出し口を開ける

より多くの風を送る場合は、助手席側のエアコン吹き出し口を閉じてください。
（→ P. 239, 246）



2 エアコンをONにし、（マニュアルエアコン装着車）または （オート

エアコン装着車）で、吹き出し口を  または  に切りかえる
（→ P. 236, 243）

3 設定温度を調整する（→ P. 236, 242）

● エアコン送風機能を使用しないとき

小物入れ内の吹き出し口を閉じてください。

● 入れるものとして適さないもの

- ・ フタがされていない容器に入ったもの
- ・ 割れもの・腐るもの・臭いが強いもの
- ・ 取扱書・車検証など（エアコン送風機能使用時）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

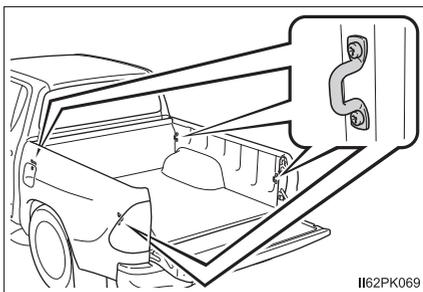
 **警告**

- **インストルメントパネル小物入れ：**
小物入れとして使用する場合は、カップトレイを使用しないでください。
小物入れにカップやアルミ缶、ペットボトルが置かれていると、急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- **オーバーヘッドコンソールボックス：**
200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷台装備

荷物固定用フック

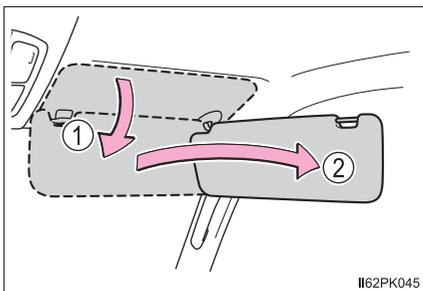
市販のネットやロープなどを使って荷物を固定することができます。



その他の室内装備

サンバイザー

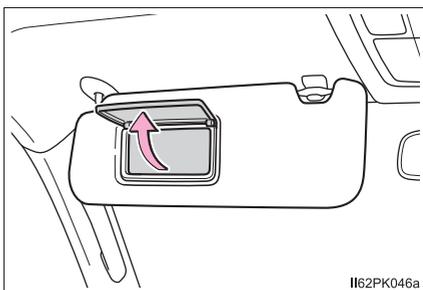
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



I162PK045

バニティミラー★

カバーを開ける



I162PK046a

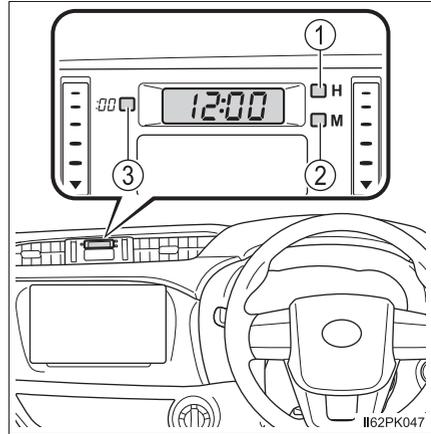
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する
- ② “分” を調整する
- ③ “分” を00にする※

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

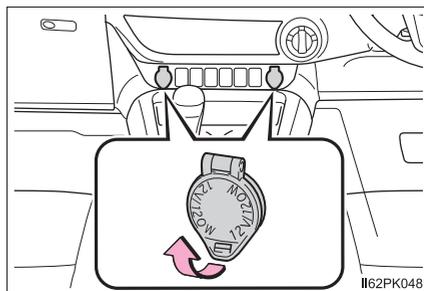
- 次のとき、時刻が表示されます。
 - ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ACC” または “ON” のとき
 - ▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモードのとき
- バッテリー端子を脱着すると、時刻は自動で 1:00 にセットされます。

アクセサリースOCKET★

DC12V / 10A (消費電力 120W) 未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリースOCKETに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

フタを開ける



知識

作動条件：

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが “ACC” または “ON” のとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモードのとき

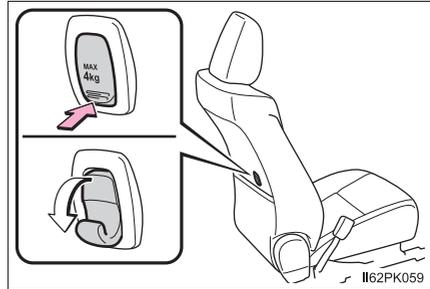
注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。
- ヒューズが切れるのを防ぐために、DC12V で最大電流 10A (最大消費電力 120W) 以上の電気製品を使用しないでください。
- バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

買い物フック★

使用するときには、下側を押してフックを起こす



⚠ 警告

フックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

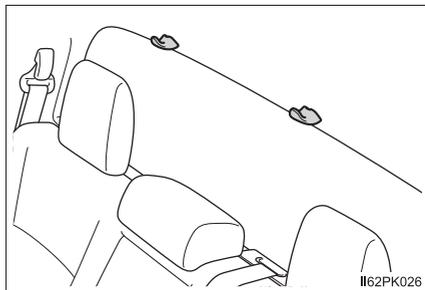
⚠ 注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

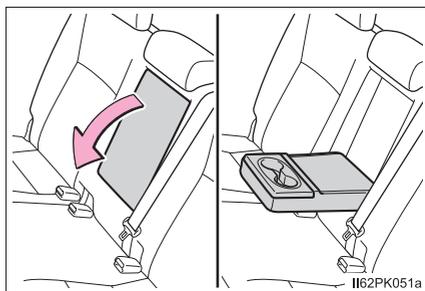
コートフック

コートフックは、リヤウインドウガラスの上に付いています。



アームレスト★

手前に倒して使用します。



注意

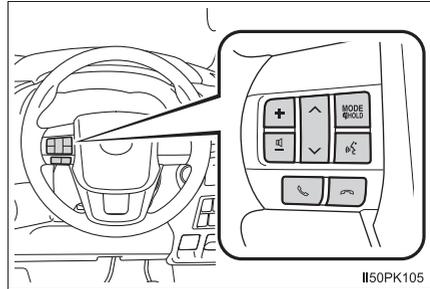
破損を防ぐために、アームレストに過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



⚠ 警告

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	268
内装の手入れ.....	271

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	274
AdBlue [®] （尿素水）の 補充	276
ウォッシャー液の補充	281
タイヤについて	282
タイヤ空気圧について	286
エアコンフィルターの 交換	288
キーの電池交換	291
ヒューズの点検・交換	294
電球（バルブ）の交換	298

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

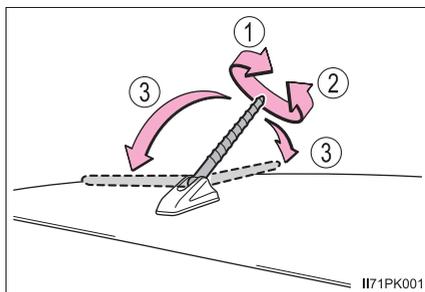
なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、脱着または格納することができます。

- ① 取りはずす
- ② 取り付ける
- ③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ アルミホイール★

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

⚠ 警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使うときは

フロントフェンダー周辺を洗浄するブラシは作動させないでください。補助確認装置（→ P. 130）が破損するおそれがあります。

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- 駆動系部品
- ステアリング部品
- サスペンション部品
- ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 警告

■ 車の故障や車両火災を防ぐために

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 33)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次の注意をお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは(PCS[プリクラッシュセーフティシステム] 装着車)

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。

また、レンズにはふれないでください。(→ P. 182)

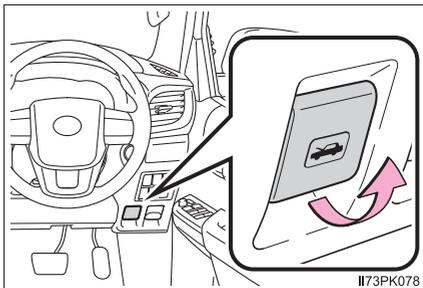
■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

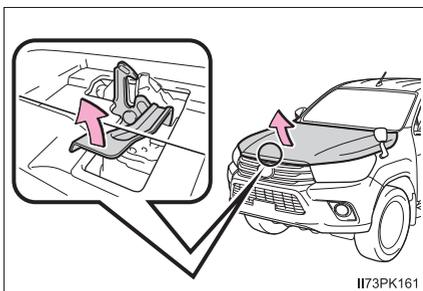
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。

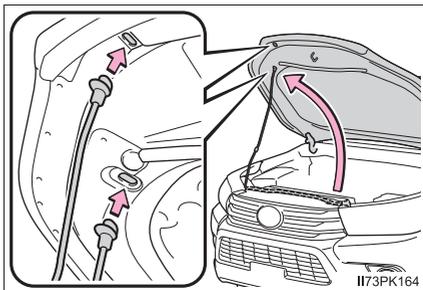


- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

通常は上側の穴を使用し、ボンネットを大きく開けたい場合は、下側の穴に挿し込みます。



警告**■ 走行前の確認**

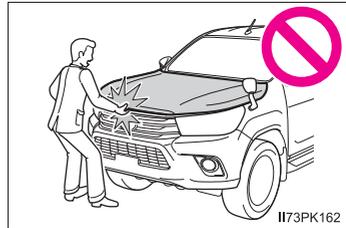
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあります。

**■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

AdBlue[®]（尿素水）の補充

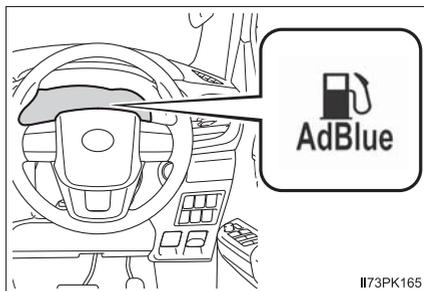
この車は排気ガス中の窒素酸化物を低減するために AdBlue[®] を使用しています。AdBlue[®] は走行に伴い消費されるため、以下のことにご留意ください。

- 1000km 走行すると、1L の AdBlue[®] を消費します。通常は、最大まで補充した状態から約 13000km 走行すると、残量がなくなります。ただし、走行状況によっては、それよりも早くなくなる場合があります。
- 走行可能距離が約 2000km 以下になると、警告灯・警告メッセージが点灯します。
- 残量がなくなるとエンジンを再始動できなくなります。
- 補充の際に誤ってこぼしてしまうと、車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

補充する際は、トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

AdBlue[®] の警告灯・警告メッセージ

AdBlue[®] の残量が少なくなると警告メッセージと警告灯でお知らせします。（→ P. 277）



II73PK165

■ マルチインフォメーションディスプレイに AdBlue[®] に関する警告メッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

警告メッセージ		対処方法
マルチインフォメーションディスプレイ (モノクロタイプ)	マルチインフォメーションディスプレイ (カラータイプ)	
AdBlue を6000km 以内に補充してください	AdBlue を6000km 以内に補充してください	AdBlue [®] を補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
AdBlue 残量少 AdBlue を2000km 以内に補充してください	AdBlue 残量が少なくなっています AdBlue を2000km 以内に補充してください	
AdBlue 残量少 あと800km で再始動不可 AdBlue を補充してください	AdBlue 残量が少なくなっています あと800km で再始動不可 AdBlue を補充してください	表示されている距離をこえて走行すると、エンジンを再始動できなくなります。ただちに AdBlue [®] を補充してください。トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
AdBlue 残量少 エンジン再始動不可 AdBlue を補充してください	AdBlue 残量が少なくなっています エンジン再始動不可 AdBlue を補充してください	ただちに AdBlue [®] を補充してください。エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください

 知識**■ AdBlue[®] の補充について**

AdBlue[®] (ISO 22241-1 に準拠したもの) を使用してください。

AdBlue[®] (アドブルー) はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

■ AdBlue[®] に関する警告メッセージの走行可能距離について

走行可能距離は、目安としてご利用ください。補充方法・運転状況・走行環境などにより、表示された走行可能距離と実際の走行距離とが異なる場合があります。

 注意**■ AdBlue[®] の残量が少なくなったとき**

AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。

残量がなくなる前に AdBlue[®] を補充してください。

トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

緊急時にご自身で AdBlue[®] を補充する場合

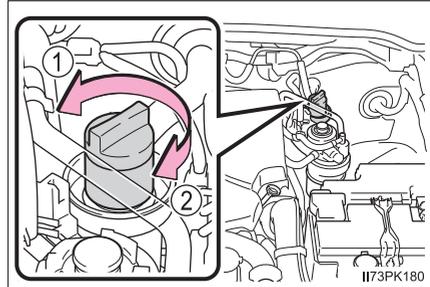
AdBlue[®] の残量がなくなってエンジンが始動できなくなってしまったときは、約 5.0L 以上の AdBlue[®] を補充することで、エンジンを始動することができます。次の手順で AdBlue[®] を補充してください。(AdBlue[®] タンク容量は 13.8 L です)

- 1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチをOFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にし、ボンネットを開ける（→P. 274）

- 2 補給口のキャップを開け、あふれないようゆっくりと AdBlue[®] を補充する

- ① 開ける
- ② 閉める

キャップが「カチッ」と鳴るまで閉めてください。



- 3 エンジンが始動することを確認する

警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

トヨタ販売店で AdBlue[®] をいっぱいまで補充することをおすすめします。

知識

■ AdBlue[®] を補充するとき

AdBlue[®] の補充後は、エンジンが始動するまでの時間が通常よりも数秒、長くなる場合があります。

 **注意****■ AdBlue[®]を補充するとき**

AdBlue[®]を補充するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

- AdBlue[®]以外の尿素水を補充しない
- AdBlue[®]が車両の塗装部分に付着してしまった場合は、すぐに水で洗い流す
- AdBlue[®]をエンジンルームにこぼしてしまった場合は、水を含ませた布ですぐにふき取る

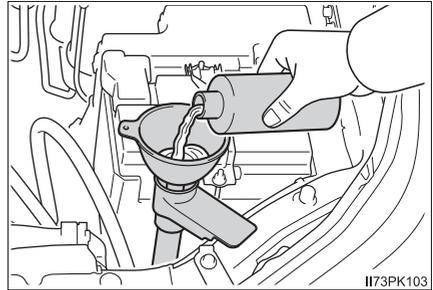
■ AdBlue[®]の保管について

AdBlue[®]を保管するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装の損傷、また、AdBlue[®]の成分が変質し異臭の発生につながるおそれがあります。

- AdBlue[®]を車内に放置しない
- AdBlue[®]の容器を密閉し、直射日光の当たらない、換気の良い冷暗所に保管する

ウォッシャー液の補充

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ラジエーターなどの高温部にかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を10,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの溝の深さ

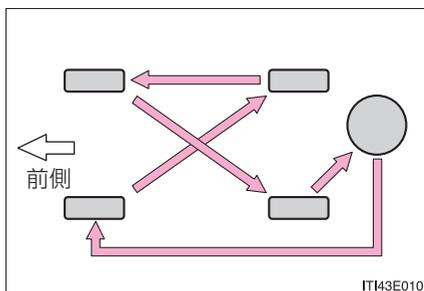
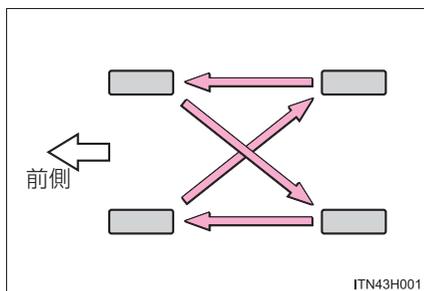
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

▶ フロント・リヤに装着されているタイヤとスペアタイヤとでホイールの種類が異なるとき

▶ フロント・リヤに装着されているタイヤとスペアタイヤとでホイールの種類が同一とき



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

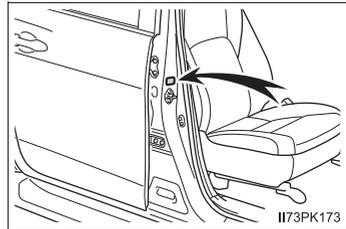
 知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	積載状態	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
265/65R17 112S	空荷	200 (2.0)	200 (2.0)
	積荷	230 (2.3)	250 (2.5)

タイヤの指定空気圧は運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧


■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

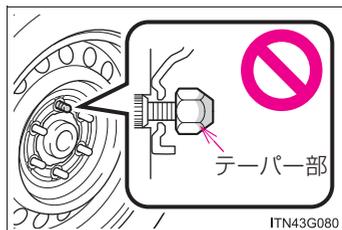
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 366)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

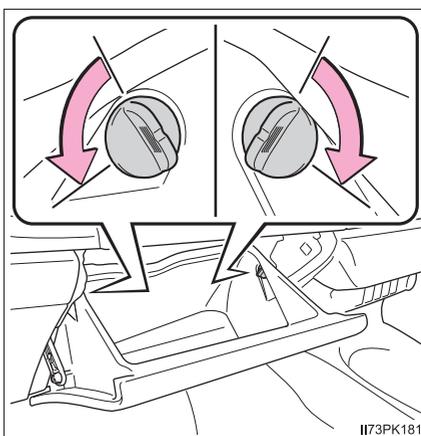
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

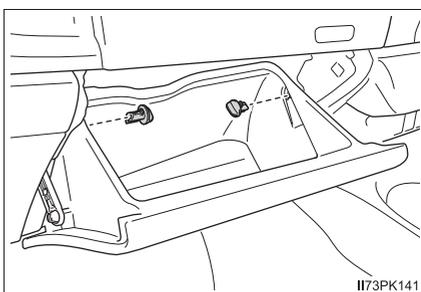
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

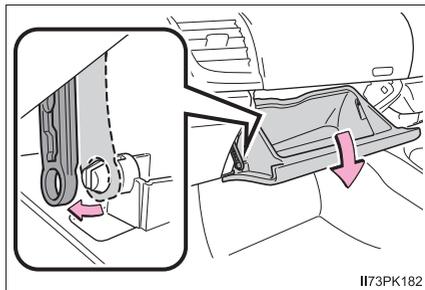
- 1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを“LOCK”にする
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチをOFFにする
- 2 グローブボックスを開き、図の位置にあるクリップをまわす



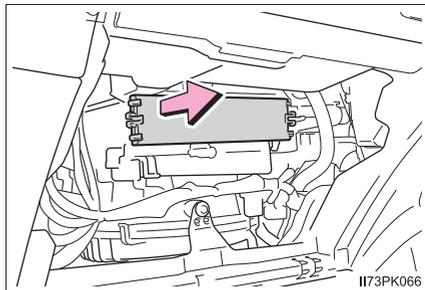
- 3 クリップを取りはずす



- 4 図のようにダンパーステー★をはずし、グローブボックスを取りはずす

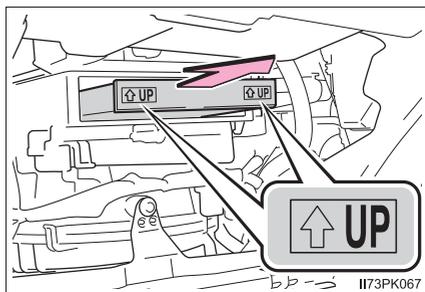


- 5 フィルターカバーを取りはずす



- 6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

▶ 脱臭機能付きエアコンフィルター非装着車

20000km[10000km^{※1}] ごと

▶ 脱臭機能付きエアコンフィルター装着車

15000km[7500km^{※1}] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ^{※2}

^{※1} 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{※2} 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

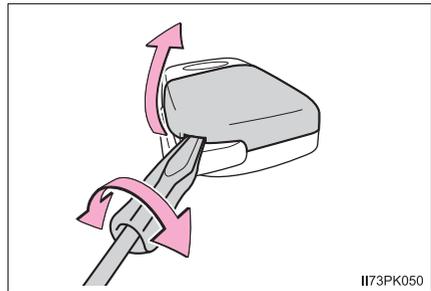
- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
 - ・ スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR1620
 - ・ スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR2032

電池交換のしかた

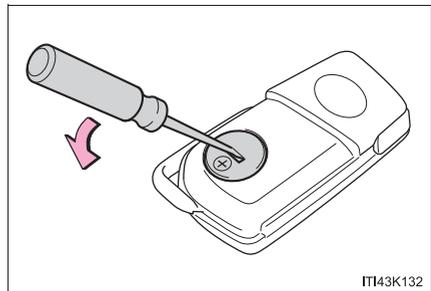
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

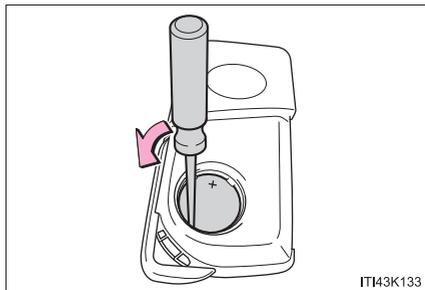


2 電池のフタをはずす



3 消耗した電池を取り出す

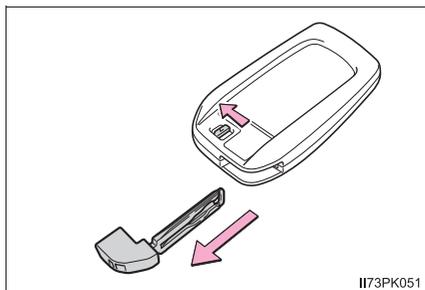
新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

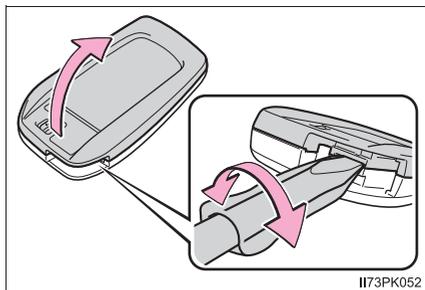
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



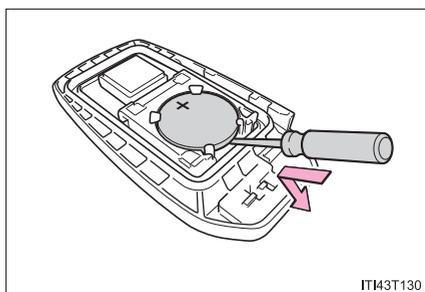
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+ 極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR1620
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR2032

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

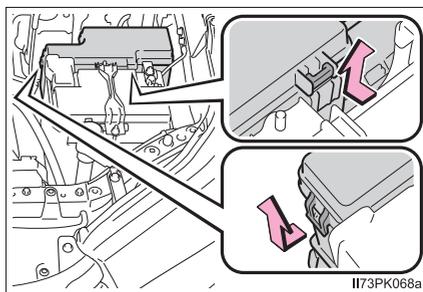
- 1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを“LOCK”にする

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチをOFFにする

- 2 ヒューズボックスを開ける

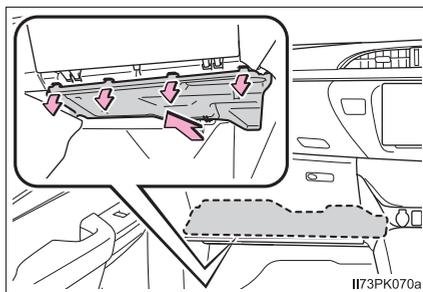
▶ エンジンルーム内

ロック（2箇所）をはずし、カバーを持ち上げる

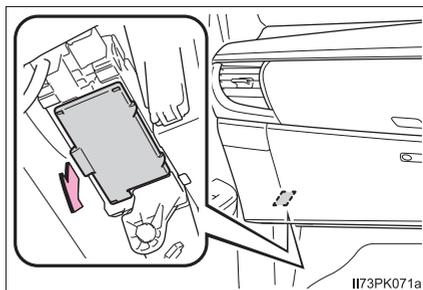


▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずす

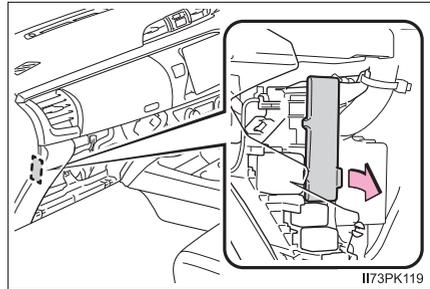


カバーを取りはずす



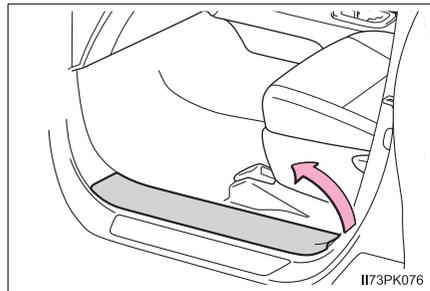
▶ グローブボックス奥

グローブボックス (→ P. 288)
を取り外し、カバーを取りはずす

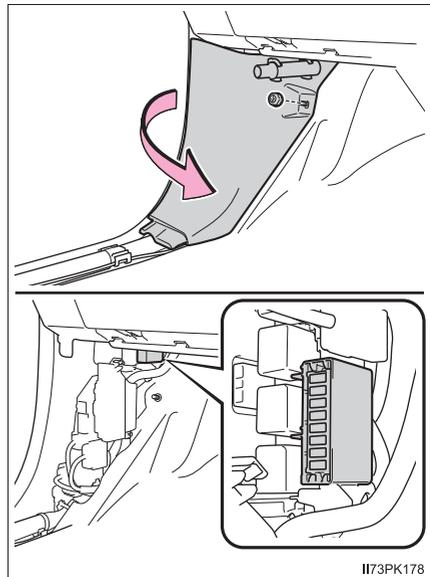


▶ カウルサイドパネル内

スカッフプレートを取りはずす

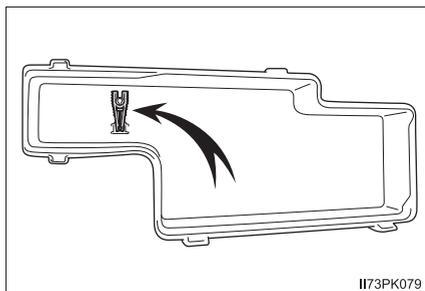


ナットを取りはずし、カウルサイド
パネルを取りはずす



- 3 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

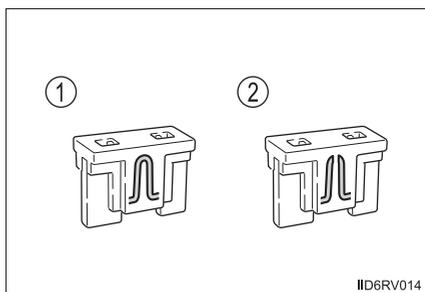
ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスのカバーに付いています。



- 4 ヒューズが切れていないか点検する

- ① 正常
- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 298)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 **警告****■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 **注意****■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

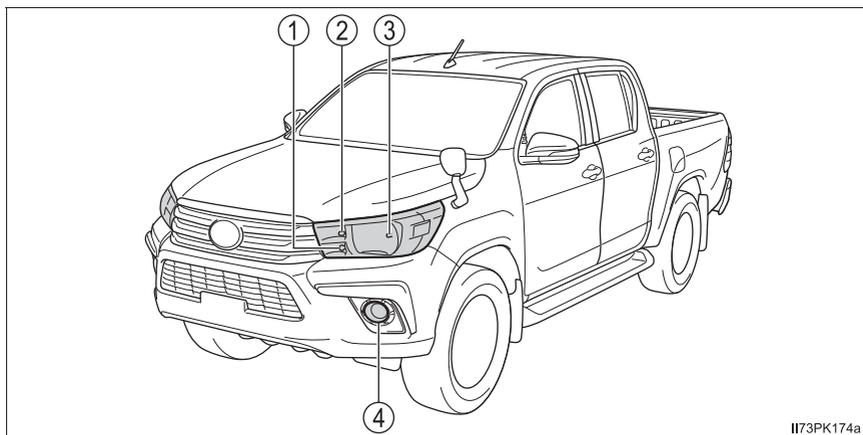
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 367）

バルブ位置

■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



① フロント
方向指示灯／非常点滅灯

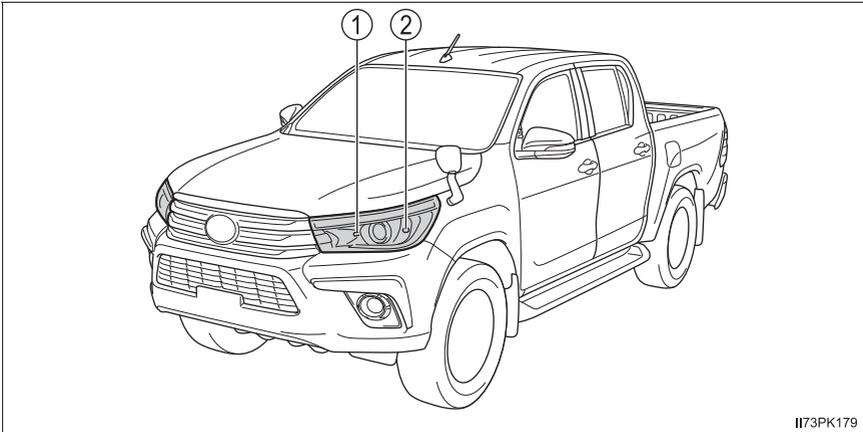
② 車幅灯

③ ヘッドランプ

④ ハロゲンフロントフォグランプ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ LED ヘッドランプ装着車

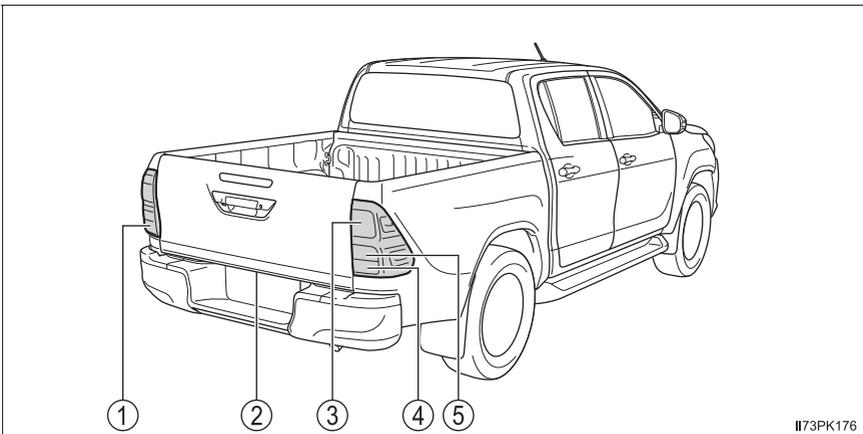


II73PK179

① ヘッドランプ (ハイビーム)

② フロント
方向指示灯 / 非常点滅灯

■ リヤ



II73PK176

① 後退灯

② 番号灯

③ 制動灯 / 尾灯

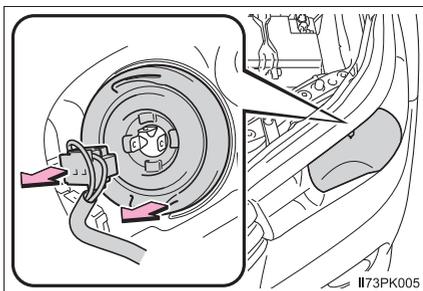
④ リヤフォグランプ

⑤ リヤ方向指示灯 / 非常点滅灯

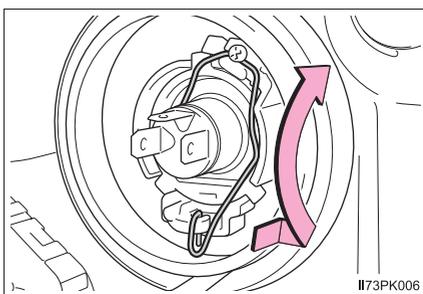
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ (ハロゲンヘッドランプ装着車)

- 1 コネクターとゴムカバーを取りはずす

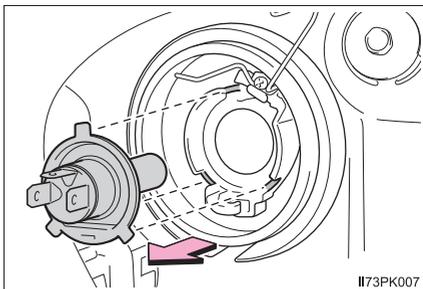


- 2 止め金をはずす



- 3 電球を取りはずす

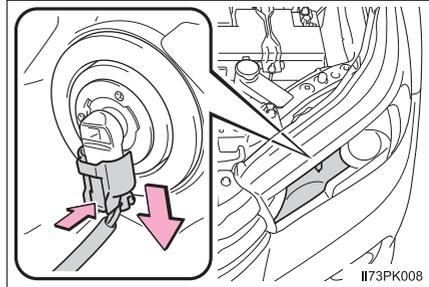
新しい電球を取り付けるときは、電球と取り付け穴の切り欠きを合わせてください。



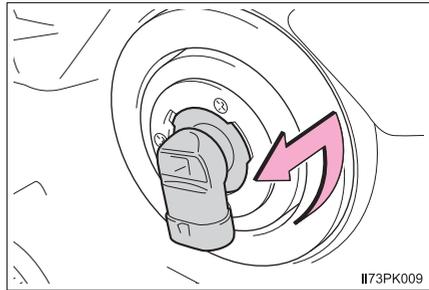
- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ ヘッドランプ ハイビーム (LED ヘッドランプ装着車)

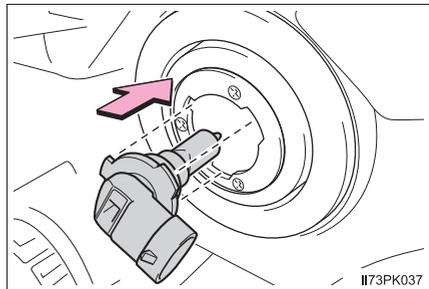
1 コネクターを取りはずす



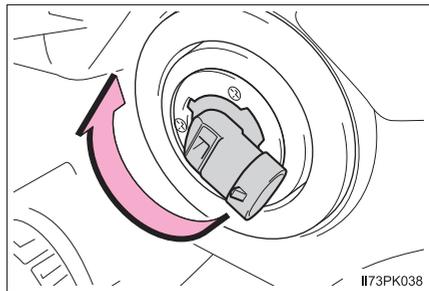
2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付ける
取り付け部と電球のツメ (3ヶ所)
を合わせて挿し込みます。

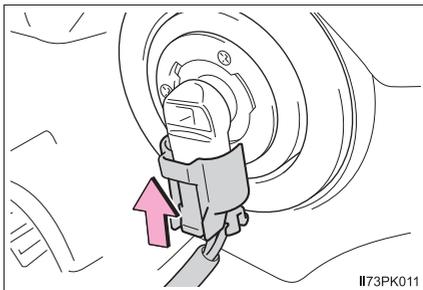


4 電球をまわして固定する



5 コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

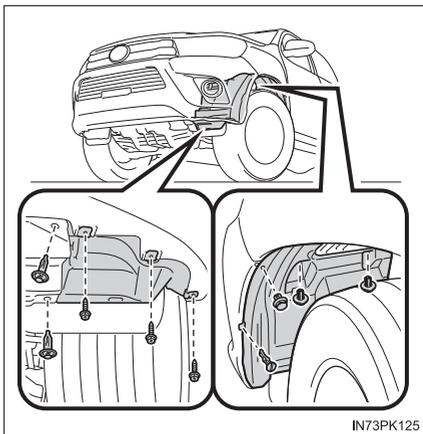


I173PK011

■ ハロゲンフロントフォグランプ (ハロゲンヘッドランプ装着車)

- 1 交換するランプの反対側にハンドルをいっぱいまでまわしてタイヤを動かし、作業スペースを広げて、ネジ (3本) とクリップ (6ヶ所) をはずす

運転席側を交換するときには左に、助手席側を交換するときには右にハンドルをまわします。

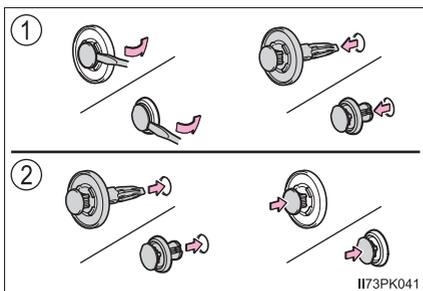


IN73PK125

① クリップの取りはずし方

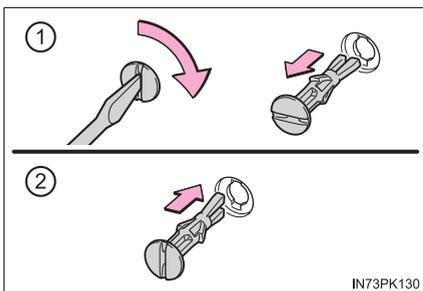
② クリップの取り付け方

▶ A タイプ



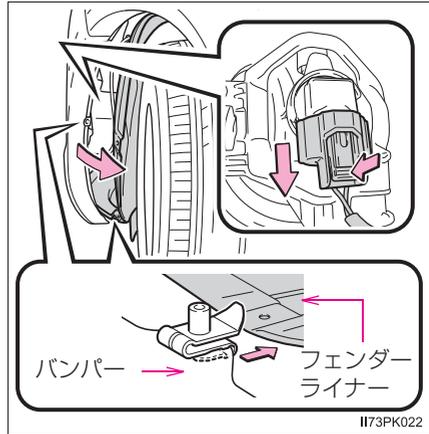
I173PK041

▶ B タイプ

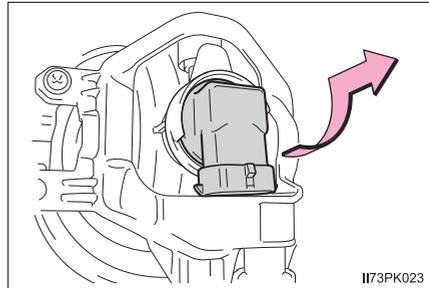


IN73PK130

- 2 フェンダーライナーをめくり、コネクターを取りはずす

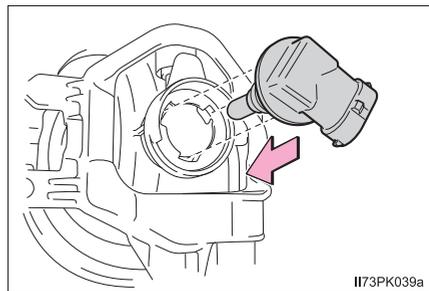


- 3 電球を取りはずす

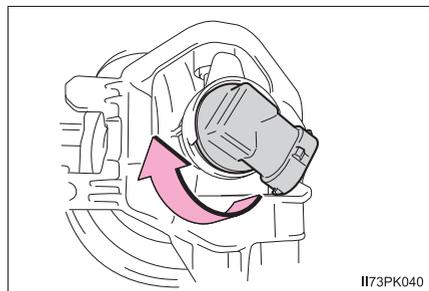


- 4 新しい電球を取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込みます。

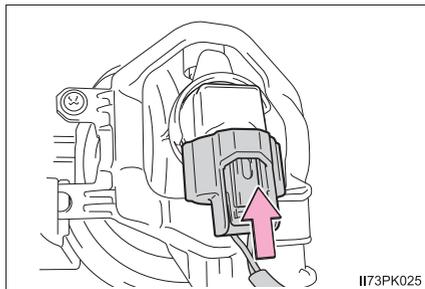


- 5 電球をまわして固定する



6 コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

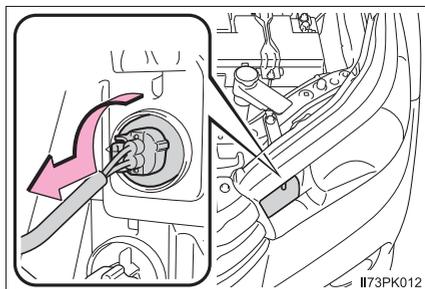


7 フェンダーライナーの端をもとどおりにはめ込む

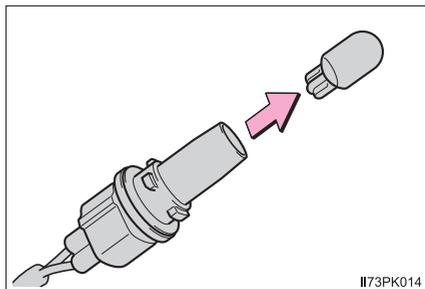
手順①～手順②と逆の要領でフェンダーライナーをもとにもどし、すべてのネジとクリップを取り付けます。

■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ソケットを取りはずす



2 電球を取りはずす

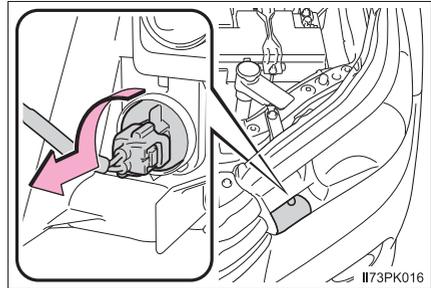


3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

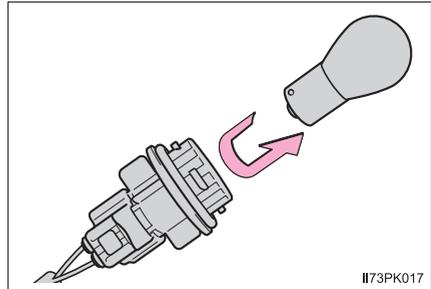
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

- 1 ソケットを取りはずす



- 2 電球を取りはずす

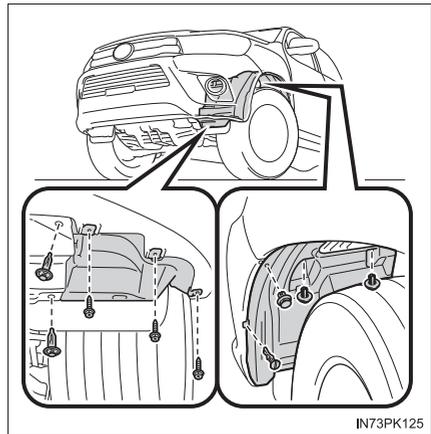


- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶ LED ヘッドランプ装着車

- 1 交換するランプの反対側にハンドルをいっぱいまでまわしてタイヤを動かし、作業スペースを広げて、ネジ（3本）とクリップ（6ヶ所）をはずす

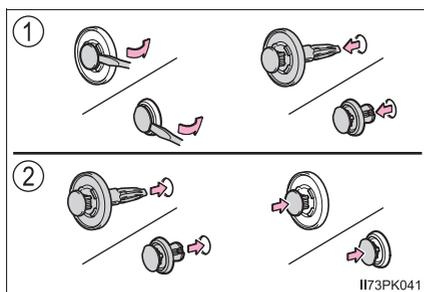
運転席側を交換するときは左に、助手席側を交換するときは右にハンドルをまわします。



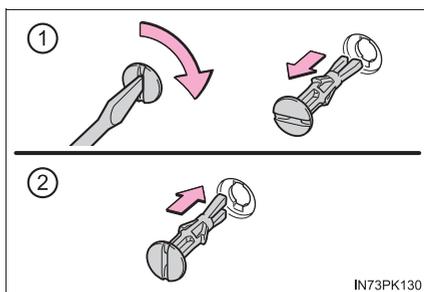
① クリップの取りはずし方

② クリップの取り付け方

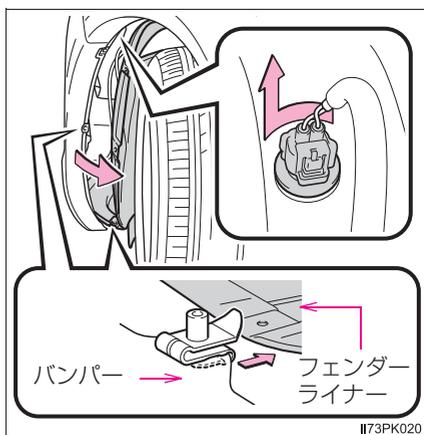
▶ Aタイプ



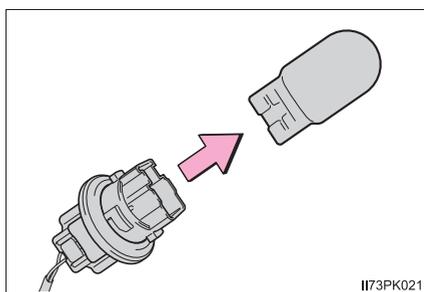
▶ Bタイプ



2 フェンダーライナーをめくり、ソケットを取りはずす



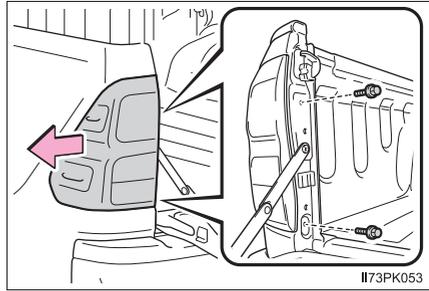
3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

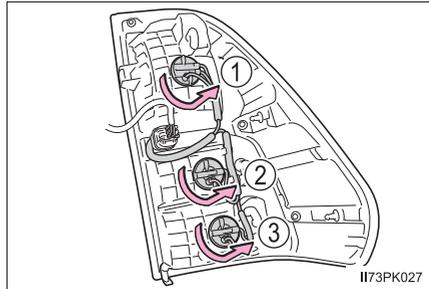
■ 制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプ

- 1 ネジ (2 本) をはずしてから車両側方に向かって引き、ランプ本体を取りはずす



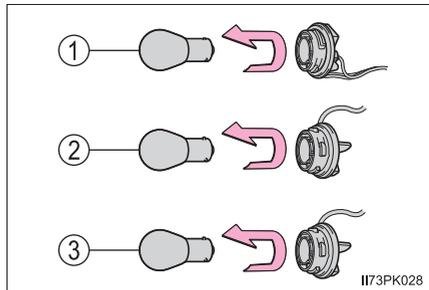
- 2 ソケットを取りはずす

- ① 制動灯／尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ③ 後退灯／リヤフォグランプ



- 3 電球を取りはずす

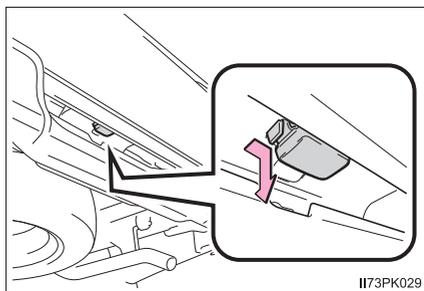
- ① 制動灯／尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ③ 後退灯／リヤフォグランプ



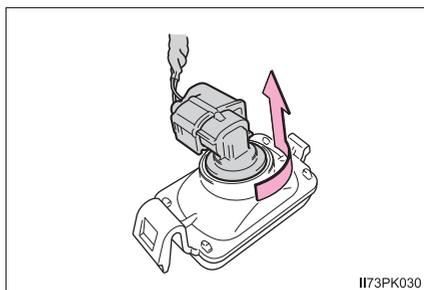
- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

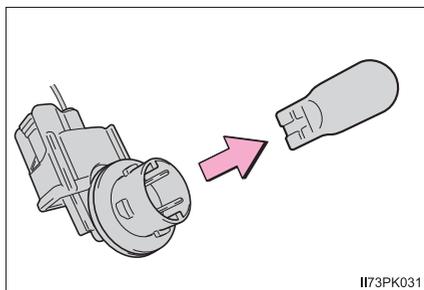
1 ランプ本体を取りはずす



2 ソケットを取りはずす



3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

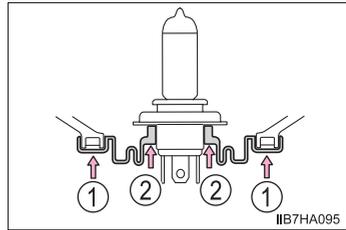
- ヘッドランプ ロービーム (LED ヘッドランプ装着車)
- 車幅灯 (LED ヘッドランプ装着車)
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- LED フロントフォグランプ (LED ヘッドランプ装着車)
- ハイマウントストップランプ

知識

■ハロゲンヘッドランプ★のゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

- ① ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む
- ② ゴムカバー内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む



■LED ランプについて

ヘッドランプロービーム（LED ヘッドランプ装着車）、車幅灯（LED ヘッドランプ装着車）、サイド方向指示灯／非常点滅灯、LED フロントフォグランプ（LED ヘッドランプ装着車）、ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■電球を交換するときは**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万が一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	312
非常点滅灯 (ハザードランプ)	313
発炎筒	314
車両を緊急停止するには	316

7-2. 緊急時の対処法

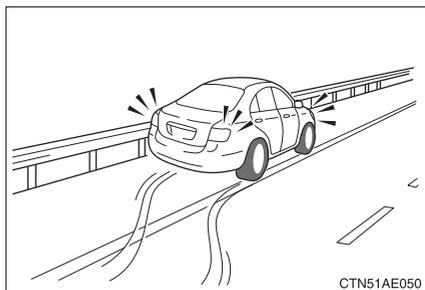
けん引について	318
警告灯がついたときは	323
警告メッセージが 表示されたときは	327
パンクしたときは	333
エンジンが かからないときは	347
電子キーが正常に 働かないときは (スマートエントリー& スタートシステム 装着車)	349
バッテリーが あがったときは	351
オーバーヒートしたときは ...	356
スタックしたときは	359

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

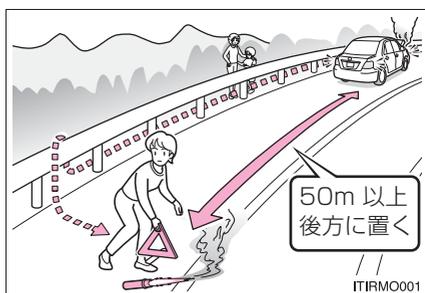
非常点滅灯（→ P. 313）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 314）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

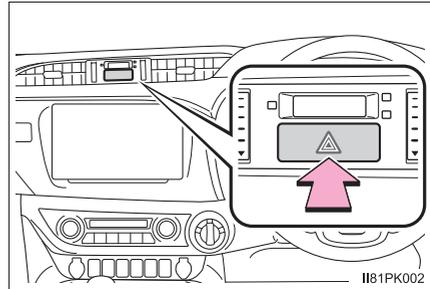


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

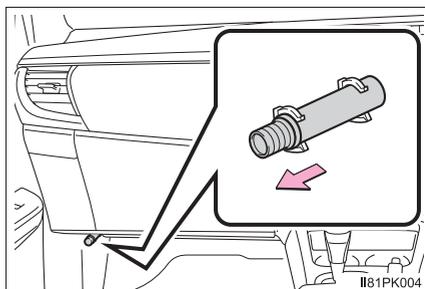
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

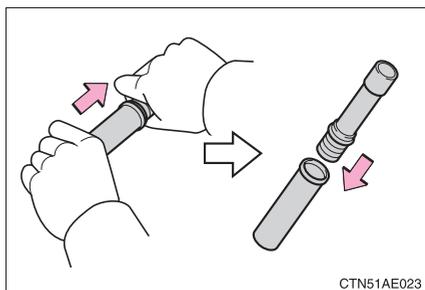
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
 (トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

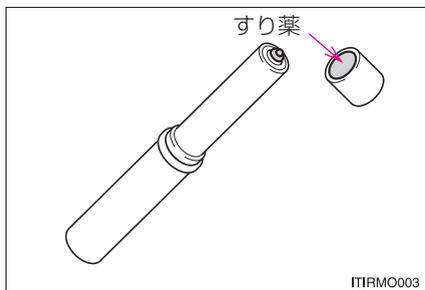
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
 必ず車外で使用してください。
 着火させる際は、筒先を顔や体に向け
 ないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 **警告****■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

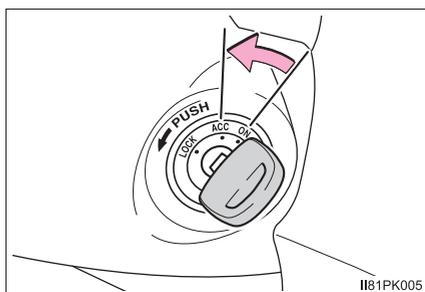
- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



スマートエントリー&スタートシステム装着車：エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 **警告****■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは**

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

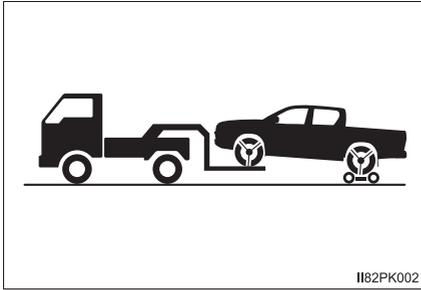
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

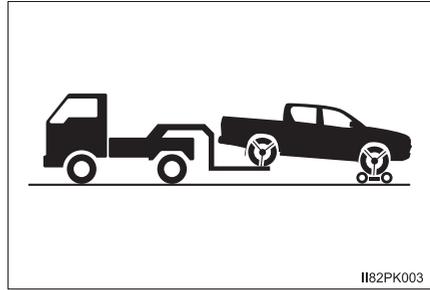
▶ 前向きにけん引するとき



II82PK002

台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するとき

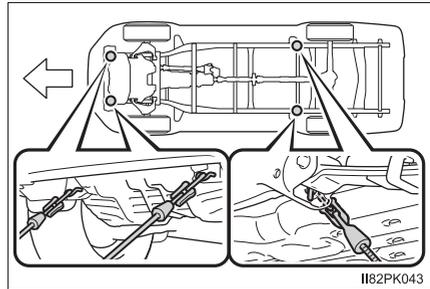


II82PK003

台車を使用して前輪を持ち上げる

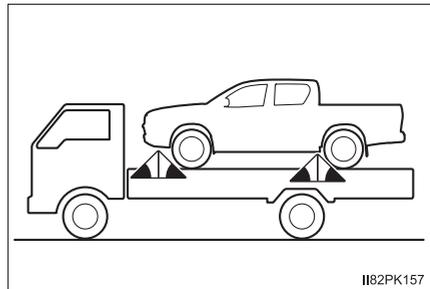
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



II82PK043

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

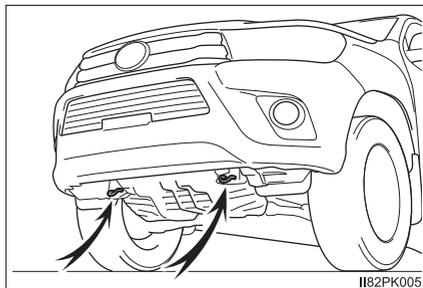


II82PK157

他車にけん引してもらおうとき

- 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

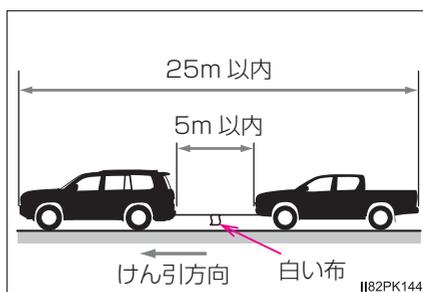
車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



- 2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- 3 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを “ ON ” にしてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

- 4 トランスファースイッチが H2 の位置にあることを確認する (→ P. 208)

- 5 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 164

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

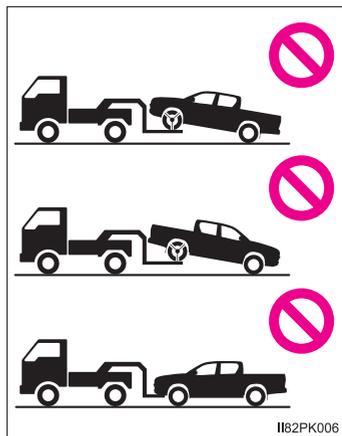
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

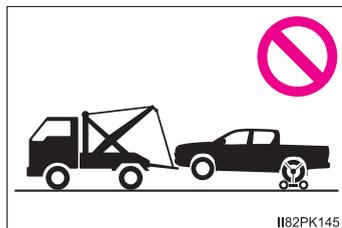


■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または、OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

 **注意****■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー） <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 ・ バキュームタンクの負圧低下 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯（警告ブザー） <ul style="list-style-type: none"> ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 ・ ターボ装置の過給圧異常 ※¹ ・ 排出ガス浄化装置の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ABS 警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>スリップ表示灯 次のいずれかの機能の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VSC ・ TRC / A-TRC ・ ヒルスタートアシストコントロール ・ ダウンヒルアシストコントロールシステム★ <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ヒルスタートアシストコントロールを除く上記のシステムの作動時は点滅します。</p>
	<p>L4 作動表示灯 表示灯が早く点滅した場合： 4WD システムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>リヤデフロック作動表示灯★ 表示灯が早く点滅した場合： リヤデファレンシャルロックシステムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
 <p>(点滅または点灯)</p>	<p>PCS 警告灯★ 炎天下や極寒の環境、またはセンサーが汚れているなどの状況のため一時的に作動しない、またはプリクラッシュセーフティシステムの異常</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージを確認してください。 (→ P. 195, 327) プリクラッシュセーフティシステムがOFF、またはVSC (ビークルスタビリティコントロール) システムが停止しているときも点灯します。</p> <p>→ P. 195</p>
	<p>LDA 表示灯 (警告ブザー) ★ LDA (レーンディパーチャーアラート) システムの異常または、一時的に使用不可時に黄色点灯し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。</p> <p>→ P. 203</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	運転席／助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※2 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
 (センターパネル)	後席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※3 後席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 12.0 L 以下になった → 燃料を補給する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 327
	パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）※4 パーキングブレーキの未解除 → パーキングブレーキを解除する
	AdBlue [®] 残量警告灯 AdBlue [®] の残量不足 → AdBlue [®] を補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

※1 警告灯が消灯するまで走行速度を落としてください。

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※3 後席シートベルト非着用警告ブザー：
後席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も後席シートベルト非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※4 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

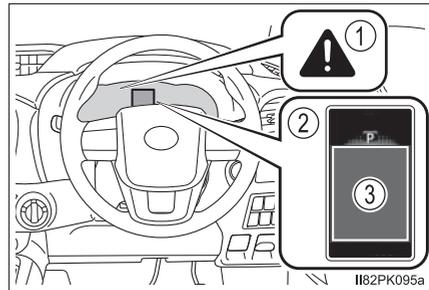
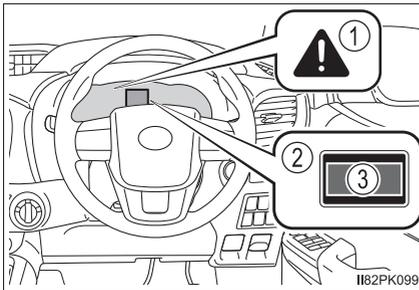
■ ターボ装置の過給圧異常によりエンジン警告灯が点灯したとき

警告灯が消灯した後も、高速走行したり、空ぶかしをしたりしないでください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ (モノクロタイプ)
- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ (カラータイプ)



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点灯	—	あり	
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識■ **警告メッセージについて**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■  **が表示されたとき**

エンジンオイルの圧力が異常に低くなっています。(傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるかご確認ください。)

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ **「アクセルとブレーキが両方踏まれています」が表示されたとき**

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているため、ブレーキオーバーライドシステムが作動しています。(→ P. 140)

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ **「ウォッシャー液を補充してください」が表示されたとき**

ウォッシャー液が残りわずかになっています。

ウォッシャー液を補充してください。(→ P. 281)

■ **「デフ高油温 冷却してください」が表示されたとき**

ディファレンシャルギヤオイルの温度が異常に高くなっています。

警告メッセージが消えるまでお待ちください。

■ **「エンジンオイル量不足 補充するか交換してください」が表示されたとき**

エンジンオイル量が不足しています。(傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるかご確認ください。)

エンジンオイル量を点検し、補充または交換してください。

■ **「バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました」／「バッテリー保護のため自動で電源を Off しました」が表示されたとき**

自動電源 OFF 機能が作動しました。

次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■ **シフト操作に関するメッセージが表示されたとき**

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■「DPF 再生不十分 取扱書を確認してください」または「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要です。

燃焼（再生）処理をするため、次の運転手順を推奨します。※

- 継続運転（例：時速 65km で 20 ～ 30 分間）
- 短い距離の走行を回避、または継続運転（長時間エンジンをかけたまま）

外気温が約 -15℃以下の場合、燃焼（再生）処理の運転を行う前にエンジンが暖まっていることを確認します。エンジンの温度が低いときは、シフトダウンしてエンジン回転数を上げることでエンジンを暖めます。状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでアクセルペダルを踏み込む必要があります。

燃焼（再生）処理が終了すると、警告メッセージの表示が消えます。運転手順が実行できなかつたり、運転後も警告メッセージが消えないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

排出ガス浄化装置についての詳しい説明は、P. 227 を参照してください。

※ 走行時は道路交通法に従い、天候、路面状況、地形、交通状況を考慮し、十分に注意してください。

■「前方カメラ一時使用不可 しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。

(→ P. 324)

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）

■「取扱書を確認」／「取扱書を参照」の警告メッセージが表示されたとき

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・「AT オイル高温」(→ P. 165)
 - ・「AdBlue を 6000km 以内に補充してください」(→ P. 277)
 - ・「AdBlue 残量が少なくなっています AdBlue を 2000km 以内に補充してください」／「AdBlue 残量少 AdBlue を 2000km 以内に補充してください」(→ P. 277)
 - ・「AdBlue 残量が少なくなっています あと 800km で再始動不可 AdBlue を補充してください」／「AdBlue 残量少 あと 800km で再始動不可 AdBlue を補充してください」(→ P. 277)
 - ・「AdBlue 残量が少なくなっています エンジン再始動不可 AdBlue を補充してください」／「AdBlue 残量少 エンジン再始動不可 AdBlue を補充してください」(→ P. 277)
- 「スマートエントリー&スタートシステム故障」のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 「エンジン油圧不足 安全な場所に停車」が表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
- 「燃料フィルタに水がたまっています」のメッセージが表示されたときは、燃料フィルタ内に規定レベル以上の水がたまっています。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■「販売店で点検」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 **警告****■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき**

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ エンジンオイル量に関する警告が表示されたとき**

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

■ 「燃料フィルタに水がたまっています 取扱書を確認してください」が表示されたとき

警告メッセージが表示されたまま走行しないでください。燃料フィルタ内に水がたまった状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプの損傷につながります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 282 を参照してください)

⚠ 警告

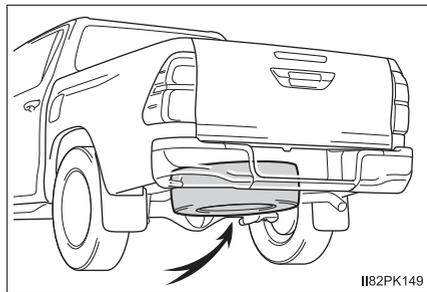
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

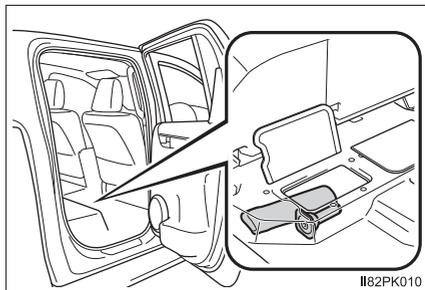
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 313)

スペアタイヤの位置



工具・ジャッキの位置

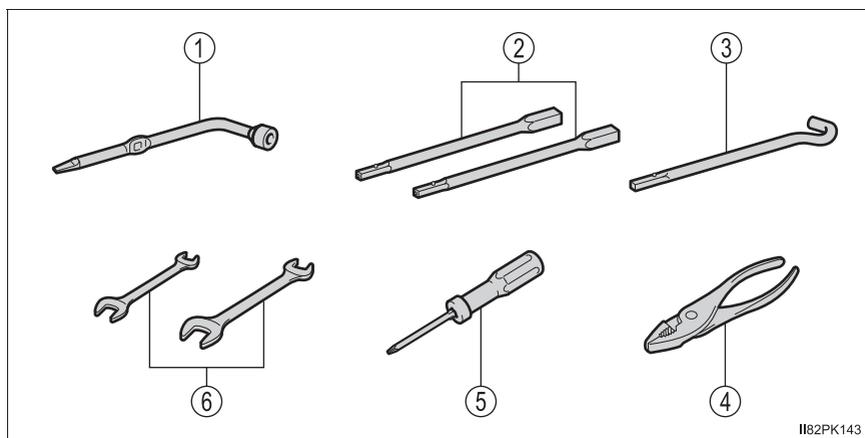
工具袋とジャッキはリヤシートクッションの下に搭載されています



I182PK010

工具

工具袋の中に収納されています。(工具袋の取り出し方：→ P. 336)



I182PK143

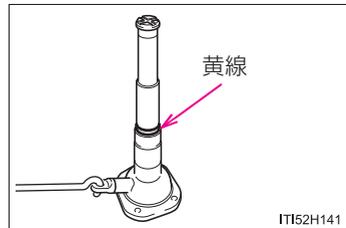
- | | |
|-----------------|---------|
| ① ホイールナットレンチ | ④ プライヤー |
| ② ジャッキハンドル延長用バー | ⑤ ドライバー |
| ③ ジャッキハンドルバー | ⑥ スパナ |

警告**■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキの各部が正常に動くことを確認してください
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 黄色い警告線が見えたら、それ以上にジャッキアップしない



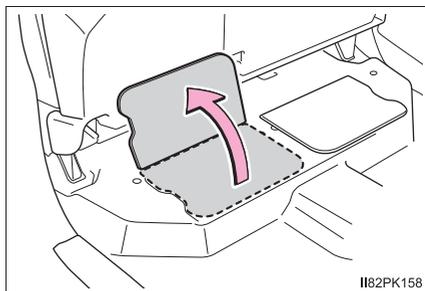
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ ジャッキハンドルを使用するときは

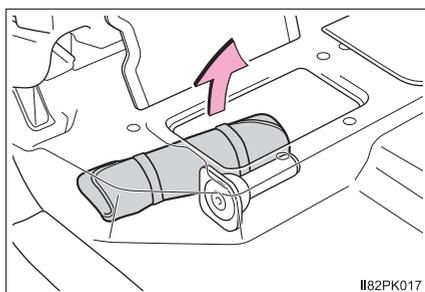
使用中、不意にはずれてしまわないように、“カチッ”という音がするまで、ジャッキハンドルの連結部を確実に組み付けてください。(→ P. 337)

工具袋・ジャッキの取り出し方

- 1 リヤシートクッションを持ち上げる (→ P. 119)
- 2 フタを開ける

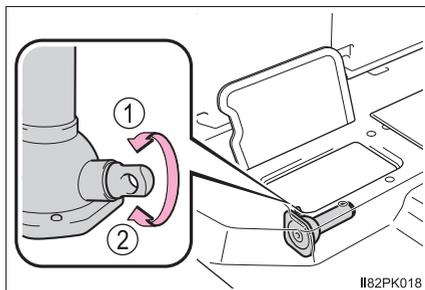


- 3 工具袋を取り出す



- 4 固定をゆるめてジャッキを取り出す

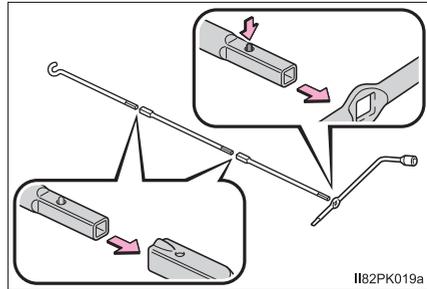
- ① ゆるむ
- ② 締まる



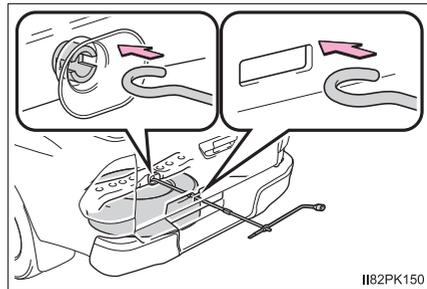
スペアタイヤの取り出し方

1 ジャッキハンドルを組み付ける

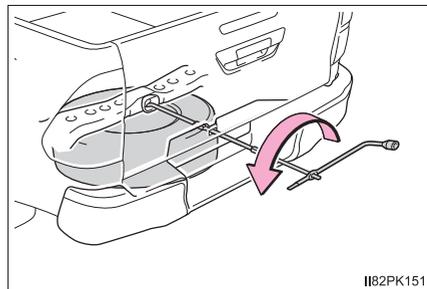
ホイールナットレンチ・ジャッキハンドル延長用バー・ジャッキハンドルバーを工具袋から取り出し、図のように組み付けます。



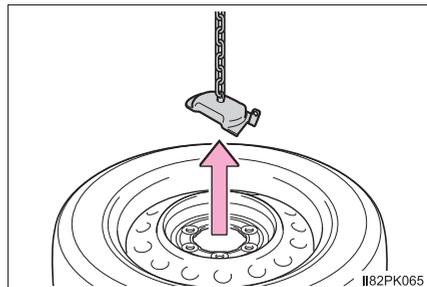
2 組み付けたジャッキハンドルを 図のように挿し込む



3 ジャッキハンドルをまわして、ス ペアタイヤが完全に地面に着く まで下げる

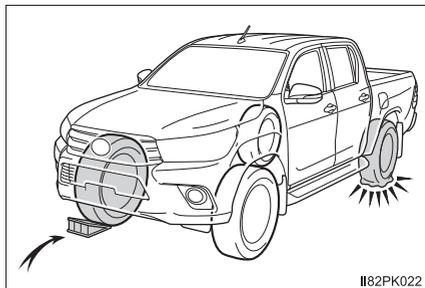


4 アンカープレートを取りはずし、 スペアタイヤを引き出す



パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする



II82PK022

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

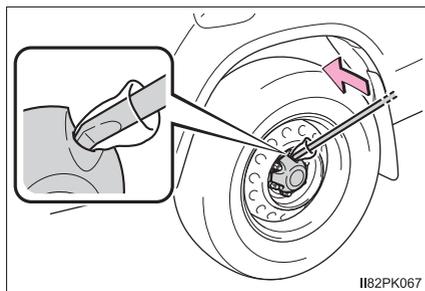
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 センターオーナメントをはずす

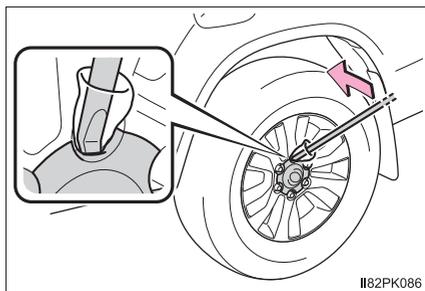
傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

▶ スチールホイール装着車

▶ アルミホイール装着車

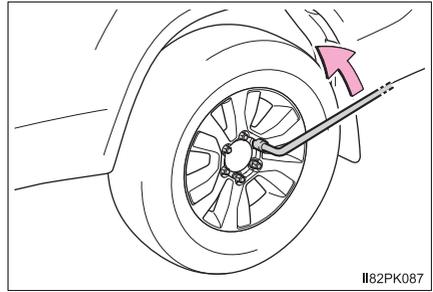


II82PK067



II82PK086

- 3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

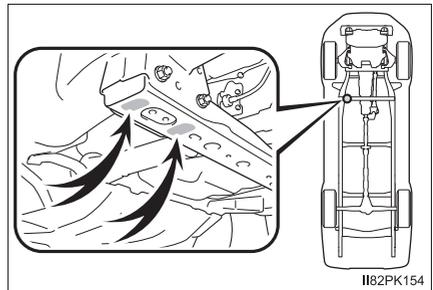


- 4 ジャッキハンドルを組み付ける（→ P. 337）

- 5 図に示すジャッキセット位置にジャッキをかける

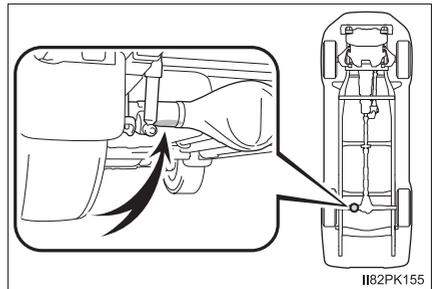
▶ フロント側

クロスメンバー下



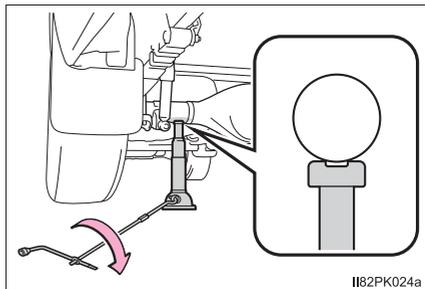
▶ リヤ側

リアアクスルハウジング下



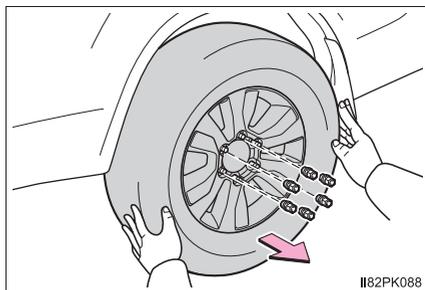
- 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

リヤ側をジャッキアップするときは、ジャッキ頭部の溝が図のようにアクセルハウジングにあたっていることを確認してください。



- 7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にして置きます。



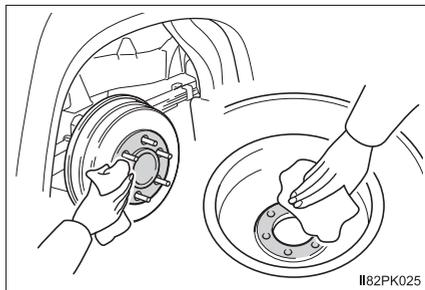
 **警告****■ タイヤ交換について**

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
 - ・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、
タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに 105 N・m (1071 kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ 走行中に脱落するおそれがあるため、著しく損傷したセンターオーナメントは取り付けない
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
(→ P. 284)

タイヤの取り付け

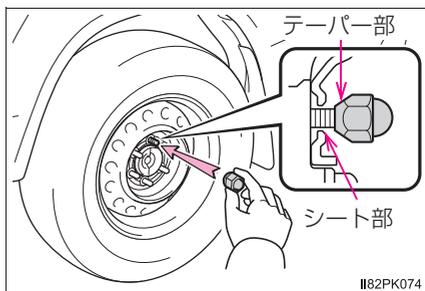
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

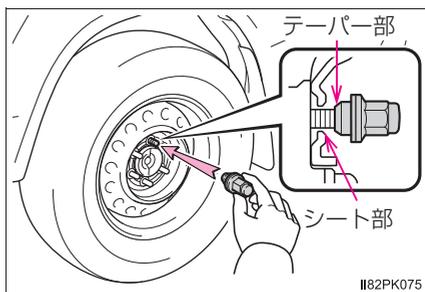


- 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

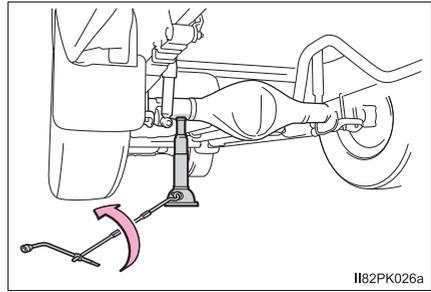
スチールホイールからスチールホイールにかえるときは、ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



アルミホイールからスチールホイールにかえるときは、ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



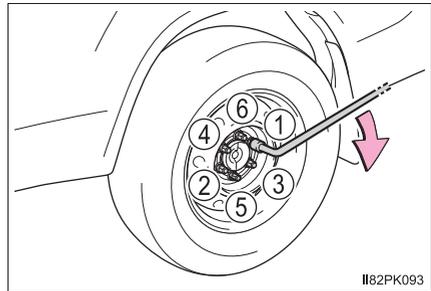
3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度 しっかり締め付ける

締め付けトルク：

105 N・m (1071 kgf・cm)

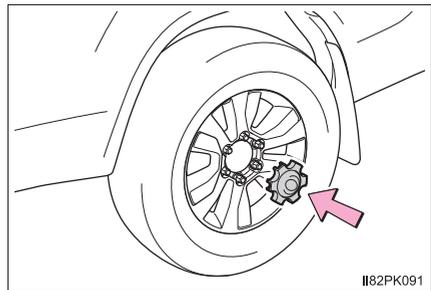
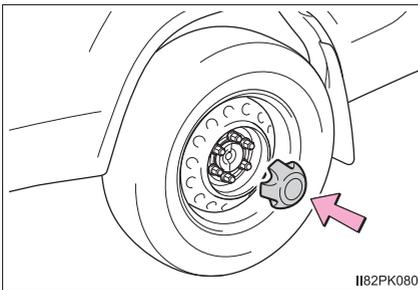


5 センターオーナメントを取り付ける

交換したタイヤに図のように取り付けます。

▶ スチールホイール装着車

▶ アルミホイール装着車



警告

■パンクしたタイヤを収納するときは

次の手順をお守りいただかないと、スペアタイヤキャリアの損傷やタイヤの落下により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具袋の収納

- 1 意匠面を上にしてタイヤを地面に置き、ホイールの穴にツメがかかるように、アンカープレートを取り付ける。その後、チェーンのたるみがなくなるまで、ジャッキハンドルをまわす

ホイールの穴にツメが確実にかかり、アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。

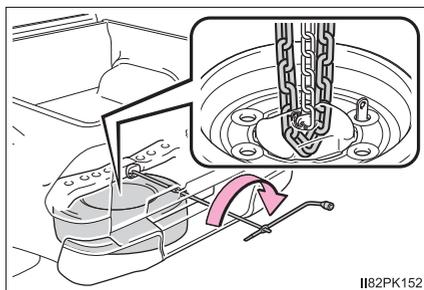
- ① アンカープレート
- ② ツメ



- 2 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる

衝突時や急ブレーキ時などのタイヤの飛び出しを防ぐため、タイヤを巻き上げるときは、周囲の部品が巻き込まれないよう、まっすぐに上げてください。

途中まで上げたあと、チェーンがタイヤの穴に確実に収納されていることを確認してください。



締め付けトルク：

37.0 N・m (377.3 kgf・cm)

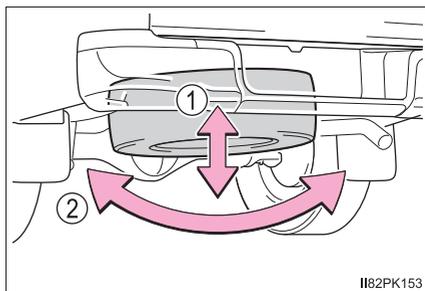
- 3 タイヤを巻き上げたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する

① タイヤを上下にゆする

② タイヤを回転方向にゆする

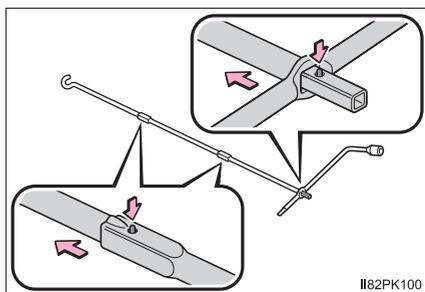
タイヤが周囲の部品に干渉していないことを目視で確認してください。

ゆるんだり、正しく固定できなかったりした場合は、手順②と手順③をくり返してください。



- 4 タイヤが下がったときや不安定なときは、手順③をくり返す

- 5 連結部にある突起を押しながら引いて、ホイールナットレンチ・ジャッキハンドル延長用バー・ジャッキハンドルバーを分解します。



- 6 すべての工具・ジャッキを収納する

警告

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ スペアタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。
固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

■ ジャッキハンドルバーを組み付けるときは

“カチッ” という音がするまで、ジャッキハンドルバー・ジャッキハンドル延長用バーの連結部を確実に差し込んでください。

確実に組み付けられていないと、使用時にはずれて塗装や車体などが損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 150, 153）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 150, 153）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 66）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 351）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 348）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 351)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能 (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

通常エンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで、エンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

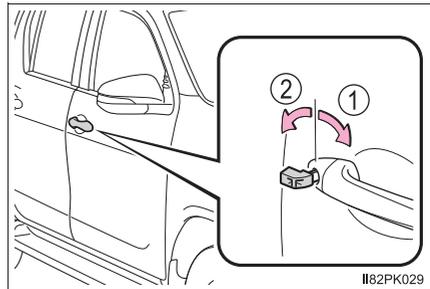
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 114）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 98）を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠



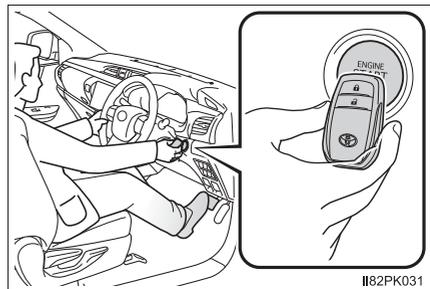
II82PK029

エンジン始動の方法

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 図のように、電子キーのスイッチを表に向けた状態で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリモードへ切りかわります。



II82PK031

- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込む
マルチインフォメーションディスプレイにエンジンの始動についてのメッセージが表示されます。（→P. 153）
- 4 エンジンスイッチを押す
処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

 知識

■ エンジンの停止のしかた

通常のエンジンの停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 291)

■ オートアラームについて

メカニカルキー★で施錠した場合、オートアラームが設定されません。

■ エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順³で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわりません。(→ P. 154)

■ 電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 368)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 112)

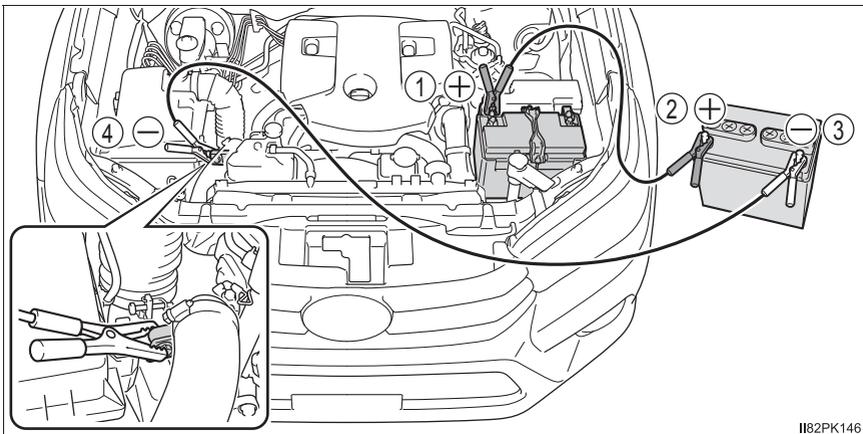
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける (→ P. 274)
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部 (図に示すような固定された部分) につなぐ



I182PK146

- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 4 スマートエントリー&スタートシステム装着車は、エンジンスイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する
- 5 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける
- 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーあがり時や取りはずし時は

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- パワーウインドウが正常に閉まらないときは、パワーウインドウの初期化を実施してください。(→ P. 134)

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■ バッテリーの交換について

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ (LN4)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (80Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (650A) 以上のバッテリーを使用してください。
 - ・ ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■ バッテリー端子をはずすときは**

必ず-端子を先にはずしてください。+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ バッテリーの交換について

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 78）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

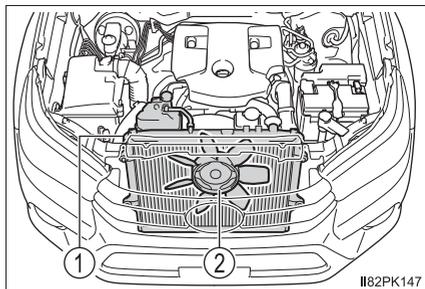
対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

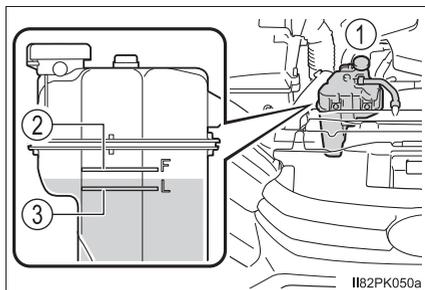
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



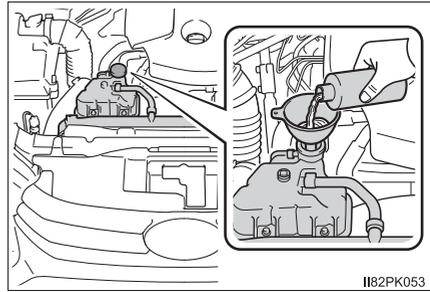
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの “F”（上限）と “L”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

 **警告****■ エンジンルームを点検するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 **注意****■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

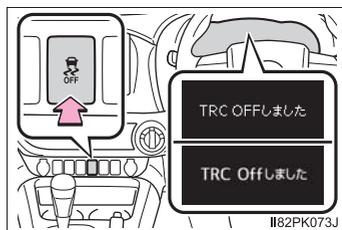
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 リヤデフロック★をONにする（→P. 215）
- 6 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

 を押して TRC / A-TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。
- スタックから脱出する際にオートマチックトランスミッションの油温に関する警告メッセージが表示されたときは、ただちにアクセルペダルから足を離して警告メッセージが表示されなくなるまで待ってください。トランスミッションが故障するおそれがあります。(→ P. 165)

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	362
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	368
--------------------------	-----

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	80

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)	
	オイルのみ 交換	オイルと オイルフィルター 交換
トヨタ純正キヤッスルディーゼルオイル DL-1 0W-30 —JASO DL-1, SAE 0W-30 トヨタ純正キヤッスルディーゼルオイル DL-1 5W-30 —JASO DL-1, SAE 5W-30	7.0	7.5

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

JASO 規格 DL-1 に合致したオイルをご使用ください。

なお、JASO規格合格油の缶にはJASO DL-1 マークが付いています。

JASO DL-1 マーク



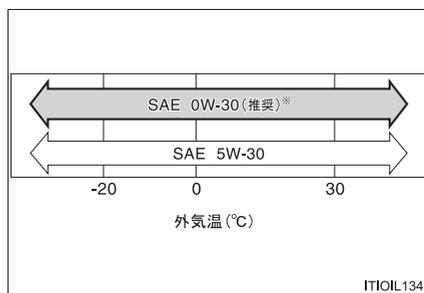
⚠ 注意

■ エンジンオイルの交換について

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイルは必ず約 20,000km ごと (ただし 12ヶ月をこえないこと)、オイルフィルターは必ず約 20,000km ごとに交換してください。定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-30 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-30 で説明します）：

- ・ 0W-30 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-30 の 30 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	9.6

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード WS	9.5

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

指定銘柄 (推奨粘度)	項目	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	フロント	1.60	
	リヤ	デフロック 非装着車	3.65
		デフロック 装着車	3.60

トランスファー

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LF (SAE 75W)	1.0

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正パワーステアリングフルード	0.8

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 [※]	90

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ [※] 数	7 ~ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	積載状態	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
265/65R17 112S	17×7 1/2J	空荷	200 (2.0)	200 (2.0)
		積荷	230 (2.3)	250 (2.5)

電球 (バルブ) ※¹

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドランプ ・ ハロゲンヘッドランプ装着車 (バルブタイプ: H4) ・ LED ヘッドランプ装着車 ハイビーム (バルブタイプ: HB3)	60 / 55 60
	車幅灯 (ハロゲンヘッドランプ装着車)	5
	ハロゲンフロントフォグランプ (バルブタイプ: H16) ★	19
	フロント方向指示灯 / 非常点滅灯 (アンバーバルブ) ※ ²	21
	リヤ方向指示灯 / 非常点滅灯 (アンバーバルブ) ※ ²	21
	制動灯 / 尾灯	21 / 5
	後退灯	21
	番号灯	5
	リヤフォグランプ	21
車内	インテリアランプ	8
	パーソナルランプ / インテリアランプ	8

※¹ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

※² アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GUN125	2GD-FTV (2.4L ディーゼル)	4WD (4輪駆動)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

▶ マルチインフォメーションディスプレイ（モノクロタイプ）

- 1 DISP ボタンを押して「設定」画面を表示し、DISP ボタンを押し続けてカスタマイズモード画面を表示する
- 2 DISP ボタンを押して変更する項目を選択し、DISP ボタンを押し続ける
- 3 DISP ボタンを押して設定したい項目を選択し、DISP ボタンを押し続ける

設定を終了する場合は、DISP ボタンを押して「終了」を選択し、DISP ボタンを押し続けます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ（カラータイプ）

- 1 メーター操作スイッチで  を選択し、 を押してカスタマイズモード画面を表示する
- 2 メーター操作スイッチで変更する項目を選択し、 を押す
- 3 メーター操作スイッチで設定したい項目を選択し、 を押す
前の画面にもどす、または設定を終了する場合は、 を押します。

車両カスタマイズ設定一覧

- ① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- ② トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 83, 86)

▶ マルチインフォメーションディスプレイ (モノクロタイプ)

機能の内容※ ¹	初期設定	変更後	①	②
言語	日本語	※ ²	○	—
単位	km/L	L/100km	○	—
エコドライブインジケータランプ	あり (自動点灯)	なし	○	—

▶ マルチインフォメーションディスプレイ (カラータイプ)

機能の内容※ ¹	初期設定	変更後	①	②
言語	日本語	※ ²	○	—
単位	km/L	L/100km	○	—
エコドライブインジケータランプ	あり (自動点灯)	なし	○	—
 スイッチ設定	ドライブ インフォ 1	お好みの 項目※ ³	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費 (バー表示)	※ ⁴	○	—
	リセット間 平均燃費			
ドライブインフォ 2	航続可能 距離	※ ⁴	○	—
	リセット間 平均車速			
アクセントカラー★	ライトブルー	ブルー	○	—
		オレンジ		
		イエロー		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能の内容※ ¹		初期設定	変更後	①	②
エコウォレット	比較燃費	10.0	※5	○	—
	燃料価格	150	※5	○	—
	通貨	 (単位なし)	 (円)	○	—

※¹ 機能についての詳しい説明は P. 83, 86 を参照してください

※² 本車両では日本語以外の言語に変更できません

※³ 登録できない項目もあります

※⁴ 初期設定以外の項目：瞬間燃費（バー表示）、瞬間燃費（数値表示）、リセット間平均燃費、始動後平均燃費、給油後平均燃費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランク

※⁵ メーター操作スイッチで数値を変更できます

■ ドアロック（→ P. 105）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車速感応オートロック★	あり	なし	—	○※
運転席ドア連動オートアンロック★	なし	あり	—	○※

※ 手動でも設定を変更できます。（→ P. 105）

■ スマートエントリー&スタートシステム★（→ P. 111）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	—	○
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 7	なし	—	○
		レベル 1～6		

■ ランプ自動点灯・消灯システム★（→ P. 168）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	-2～2	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ カスタマイズを行うとき**

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ カスタマイズを行うとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンが作動している状態で実施してください。

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	374
車から音が鳴ったときは (音さくいん).....	378
アルファベット順さくいん.....	380
五十音順さくいん.....	382

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）をなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）を作ることができます。
（→ P. 99）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：
キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 100）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 291）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
（→ P. 154）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：
電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 106,114）



リヤ席ドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 104）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 150）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 151）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 351）



エンジンがかからない

（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 153）
- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 153）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 112）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 156）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 349）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 351）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチの位置が “ ON ” になっていますか？
エンジンスイッチの位置が “ ON ” でブレーキを踏んでも解除できないとき (→ P. 164)
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：
エンジンスイッチは ON モードになっていますか？
エンジンスイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき (→ P. 164)



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。
(→ P. 150)
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：
盗難防止のため、自動的にロックされます。(→ P. 156)



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。(→ P. 133)



エンジンスイッチが自動的に OFF になった (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→ P. 155)

**警告音が鳴りだした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 378）をご確認ください。

**警告灯や警告メッセージが表示されたとき**

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 323、327 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 333）

**立ち往生した**

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 359）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	エンジンスイッチにキーが挿してある	P. 151
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 170
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した*	P. 68

* ドアを解錠、またはエンジンを始動すると、警報を解除することができます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 116
	シフトポジションがP以外になっている	P. 327
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 170
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した*	P. 68
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 116
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 113
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 116

* ドアを解錠、またはエンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 103
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 325
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 325
	後席のシートベルトを着用していない	P. 325
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 163
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 143
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 186
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）★の車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能が作動した	P. 196

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

4WD

(フォーホイールドライブ) 367

A/C

(エアコン) 236, 242

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 218, 323

AI-SHIFT

(アーティフィカルインテリジェンスシフト) 165

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 48, 56

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 196

LED

(ライトエミッティングダイオード) 309

PCS

(プリクラッシュセーフティシステム) 186

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 33, 323

TRC/A-TRC

(トラクションコントロール/
アクティブトラクションコントロール) 218

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 218

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリー あがりの処置).....	351
アームレスト	264
アウターミラー (ドアミラー).....	127
操作	127
格納のしかた	128
ミラーヒーター	237, 244
アクセサリースocket	262
アクセサリモード.....	150, 154
アクティブトラクション コントロール (A-TRC)	218
AdBlue®	276
AdBlue® 残量警告灯	325
補充	279
容量	279
アンチロックブレーキ システム (ABS).....	218
アンテナ スマートエントリー& スタートシステム.....	111
アラーム	68

い

イグニッションスイッチ (エンジンスイッチ)	150, 153
位置の切りかえ	150
エンジンのかけ方	150, 153
自動電源 OFF 機能.....	155
モードの切りかえ	154
位置交換 (タイヤローテーション)	282
イベントデータレコーダー (EDR)	8
イモビライザーシステム	66

イルミネーテッドエントリー

システム.....	251
インジケーター (表示灯).....	74
インナーミラー	126

う

ウインカー (方向指示灯).....	166
電球 (バルブ) の 交換.....	305, 307
方向指示レバー.....	166
ワット数	367
ウインドウ.....	132
ウォッシュャー	173
パワーウインドウ.....	132
フロントワイパー デアイサー.....	238, 244
リヤウインドウ デフォッガー.....	237, 244
ウインドウロックスイッチ	133
ウォーニングランプ (警告灯)	73, 323
ウォッシュャー	173
液の補充	281
スイッチ	173
タンク容量	366
冬の前の準備・点検.....	230
動けなくなったときは (スタック)	359
運転	138
雨の日の運転	139
運転を補助する装置.....	218
環境に配慮した運転.....	76
寒冷時の運転	230
正しい運転姿勢.....	26
手順	138
運転席シートベルト 非着用警告灯	325

え

エアコン	236, 242
オートエアコン	242
曇り取り (フロントガラス)	237, 244
パワーヒーター	238, 245
フィルターの清掃	288
マニュアルエアコン	236
エアバッグ	33
SRS エアバッグ警告灯	323
お子さまのための注意	34
改造・廃棄	37
作動条件	38
正しい姿勢	26
配置	33
エコドライブインジケーター	76
エンジン	
エンジンイモビライザー システム	66
エンジン回転計 (タコメーター)	79
エンジンがかからない (エンジンが始動 できない)	347
エンジン警告灯	323
エンジンスイッチ	150, 153
エンジンの始動方法	150, 153
エンジンを停止する前に	140
オーバーヒート	356
緊急時の停止方法	316
ボンネット	274
エンジンイモビライザーシステム (盗難防止システム)	66

エンジンオイル	363
冬の前の準備・点検	230
メンテナンスデータ	363
容量	363
エンジンスイッチ	150, 153
位置の切りかえ	150, 154
エンジンのかけ方	150, 153
自動電源 OFF 機能	155
モードの切りかえ	154
エンジンフード (ボンネット)	274
開け方	274

お

オイル (エンジンオイル)	363
オーディオ操作スイッチ	265
オートエアコン	242
オートドアロック・ アンロック機能	105
オートマチック ディスクネクティング ディファレンシャル (A.D.D.)	208
オートマチックトランス ミッション	159
シフトレバーがシフト できない	164
オートレベリングシステム (ヘッドランプ) 作動について	171
オーバーヒート	356
オープナー 給油扉	178
ボンネット	274

お子さまを乗せるとき	43
ウインドウロックスイッチ	133
エアバッグ	33
お子さまの安全のために	43
キーの電池	293
子供専用シート	44
シートベルトの着用	30
チャイルドシートの	
取り付け	44
チャイルドプロテクター	104
発炎筒の取り扱いに関する	
警告	315
バッテリーに関する警告	354
パワーウィンドウに関する	
警告	135
オドメーター	
機能	79
表示の切りかえ・	
リセットボタン	80

か

カーペット	
洗浄	272
フロアマットの取り付け方	24
外気温度表示	79
外装の電球 (バルブ)	
交換要領	298
ワット数	367
買い物フック	263
カスタマイズ機能	368
型式	367
カップホルダー	254
ガラスの曇り取り	
(リヤウインドウ	
デフォッガー)	237, 244
冠水路走行	147
寒冷時の運転	230

き

キー	96
エンジンがかからない	
ときは	347
キーナンバープレート	96
キーの構成	96
キーレスエントリー	97
キーをなくした	99
電池が切れた	291, 349
ワイヤレスリモコン	97
キーレスエントリー	
スマートエントリー&	
スタートシステム	111
ワイヤレスドアロック	97
きしみやひっかき音が聞こえる	
(ブレーキパッドウェア	
インジケーター)	143
給油	176
給油のしかた	176
メンテナンスデータ	362
緊急時シートベルト固定機構	30
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	347
オーバーヒートした	356
キーの電池が切れた	291, 349
キーをなくした	99
警告灯がついた	323
警告メッセージが	
表示された	327
けん引	318
故障したときは	312
車両を緊急停止する	316
スタックした	359
発炎筒	314
バッテリーがあがった	351
パンクした	333

く

空気圧 (タイヤ).....	366
クーラー	
オートエアコン.....	242
マニュアルエアコン.....	236
区間距離計	
(トリップメーター).....	79
機能.....	79
切りかえ	
リセットボタン.....	80, 83
曇り取り	
フロントガラス.....	237, 244
リヤウインドウ	
デフォッガー.....	237, 244
クラクション (ホーン).....	124
クリアランスランプ (車幅灯) ...	168
スイッチ.....	168
電球 (バルブ) の交換.....	304
ワット数.....	367
クリップ	
フロアマット.....	24
クルーズコントロール.....	204
グローブボックス.....	253

け

警告器 (ホーン).....	124
計器類 (メーター).....	78
警告灯.....	73, 323
照度調整.....	80
表示切りかえボタン.....	80
表示灯.....	74
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	83, 86
メーター.....	78
警告灯.....	73, 323
AdBlue [®] 残量.....	325
ABS.....	323
SRS エアバッグ.....	323
LDA.....	324
L4 作動表示灯.....	324
エンジン.....	323
シートベルト非着用.....	325
スリップ表示灯.....	324
燃料残量.....	325
パーキングブレーキ.....	325
PCS.....	324
プリテンショナー.....	323
ブレーキ.....	323
マスターウォーニング.....	325
リヤデフロック作動	
表示灯.....	324

警告ブザー

シートベルト非着用	325
パーキングブレーキ	
未解除走行時	325
ブレーキ	323
リバース	164
化粧ミラー	
(バニティミラー)	260
けん引	318
けん引のしかた	318
フック	320, 334

こ

交換

キーの電池	291
タイヤ	333
電球 (バルブ)	298
ヒューズ	294
工具 (ツール)	334
航続可能距離	84, 88
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	307
ワット数	367
コートフック	264
小物入れ	256
コンソールボックス	253
コンライト (ランプ自動点灯・ 消灯システム)	168

さ

サイド方向指示灯	166
電球 (バルブ) の交換	305
方向指示レバー	166
ワット数	367
サイドミラー (ドアミラー)	127
操作	127
ミラーヒーター	237, 244
サンバイザー	260

し

シート	118, 119
子供専用シート	44
正しい運転姿勢	26
調整	118
手入れ	271
ヘッドレスト	122
シートベルト	28
お子さまの着用	30
緊急時シートベルト	
固定機構	30
シートベルト非着用警告灯	325
高さ調節	29
正しく着用するには	28
着け方・はずし方	28
手入れ	272
妊娠中の方の着用	31
シートベルト非着用警告灯	325
シートベルトプリテンショナー	29
機能	29
プリテンショナー警告灯	323
室内灯 (インテリアランプ)	249

始動のしかた	150, 153
シフトポジション	160
シフトレバー	159
シフトロックシステム	
(解除ボタン)	164
操作	159
リバース警告ブザー	164
シフトレバーがシフト	
できないときは	164
シフトロックシステム	163
締め付けトルク (ホイール)	343
ジャッキ	
車載ジャッキ	334
ジャッキハンドル	334
車幅灯	168
電球 (バルブ) の交換	304
ランプスイッチ	168
ワット数	367
車両型式	367
車両仕様 (スペック)	362
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	316
手動光軸調整ダイヤル	169
瞬間燃費	84, 88
仕様 (車両仕様)	367
衝撃感知ドアロック解除	
システム	106
助手席シートベルト	
非着用警告灯	325

す

水温計	79
スイッチ	
イグニッション	150, 153
ウインドウロック	133
ウォッシャー	173
LDA	199
エンジンスイッチ	150, 153
オーディオ	265
クルーズコントロール	204
電話	265
ドアミラー	127
ドアロック	103
トーク (音声認識)	265
トランスファー	208
パーソナルランプ/ インテリアランプメイン	250
ハザードランプ	313
パワーウインドウ	132
パワーヒーター	238, 245
PCS	189
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	313
VSC OFF	219
フォグラмп	172
フロントワイパー	
デアイサー	238, 244
方向指示レバー	166
ホーン (警音器)	124
メーター表示切りかえ	80
ランプ	168
リヤウインドウ	
デフォグガー	237, 244
リヤデフロック	215
ワイパー	173

スターター

エンジンの始動 150, 153

スターターがまわらない 347

スタック 359

ステアリングホイール (ハンドル)

位置調整 124

スイッチ 265

ステアリングロック

解除できないとき 151, 156

ストップランプ (制動灯)

電球 (バルブ) の交換 307

ワット数 367

スノータイヤ (冬用タイヤ) 230

スピードメーター 79

スペアタイヤ 333

スペック (車両仕様) 362

スマートエントリー&

スタートシステム 111

アンテナの位置 111

エンジンの始動 153

カスタマイズ設定 368

緊急始動機能 348

警告ブザー 113

作動範囲 112

正常に働かないとき 349

節電機能 112

電波がおよぼす影響に

ついて 117

ドアの解錠・施錠 101

スモールランプ (車幅灯) 168

電球 (バルブ) の交換 304

ランプスイッチ 168

ワット数 367

せ

清掃 268, 271

アルミホイール 269

外装 268

シートベルト 272

内装 271

制動灯

電球 (バルブ) の交換 307

ワット数 367

積算距離計 (オドメーター)

機能 79

表示の切りかえ・

リセットボタン 80, 83

セキュリティインジケーター 66

センサー

ライトセンサー 170

レーダーセンサー 182

洗車 268

前照灯 (ヘッドランプ) 168

手動光軸調整ダイヤル 169

電球 (バルブ) の

交換 300, 301, 308

ライトセンサー 170

ランプ消し忘れ防止機能 170

ランプスイッチ 168

そ

速度計

(スピードメーター) 79

た

ターンシグナルランプ	
(方向指示灯).....	166
電球 (バルブ) の	
交換.....	305, 307
方向指示レバー.....	166
ワット数.....	367
タイヤ.....	282
空気圧.....	286, 366
交換.....	333
締め付けトルク.....	343
チェーン.....	230
点検.....	282
パンクしたときは.....	333
冬用タイヤ.....	230
ホイールサイズ.....	366
ローテーション	
(位置交換).....	282
タイヤが空まわりする	
(スタックした).....	359
タイヤチェーン.....	230
ダウンヒルアシスト	
コントロールシステム.....	224
タコメーター	
(エンジン回転計).....	79

ち

チェーン (タイヤチェーン).....	230
チャイルドシート.....	44
ISOFIX 対応	
チャイルドシート	
固定専用バーで固定.....	58
規格.....	46
固定方法.....	54, 62
シートベルトで固定.....	52
トップテザーアンカーに	
固定.....	63
チャイルドプロテクター.....	104
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ).....	167
操作.....	167
未解除走行時警告	
ブザー.....	325
メンテナンスデータ.....	366

つ

ツール (工具).....	334
---------------	-----

て

テールゲート.....	108
ディファレンシャル.....	365
手入れ.....	268, 271
アルミホイール.....	269
外装.....	268
シートベルト.....	272

テールランプ（尾灯）.....	168
電球（バルブ）の交換.....	307
ランプスイッチ.....	168
ワット数.....	367
デッキフック（荷物固定用 フック）.....	259
デフォッガー （リヤウインドウ デフォッガー）.....	237, 244
電球（バルブ） 交換要領（外装バルブ）.....	298
ワット数.....	367
点検基準値 （メンテナンスデータ）.....	362
電子キー.....	96
作動範囲.....	112
正常に働かないとき.....	349
節電モード.....	112
電池が切れた.....	349
電池交換.....	291
電池交換（キー）.....	291
電話スイッチ.....	265

と

ドア.....	101
オートドアロック・ アンロック機能.....	105
衝撃感知ドアロック 解除システム.....	106
スマートエントリー& スタートシステム.....	111
チャイルドプロテクター.....	104
ドアガラス.....	132
ドアロックスイッチ.....	103
ロックレバー.....	103
ワイヤレスリモコン.....	97

ドアミラー 格納のしかた.....	128
操作.....	127
ミラーヒーター.....	237, 244
盗難防止装置 エンジンイモビライザー システム.....	66
トークスイッチ.....	265
時計.....	261
ドライブスタート コントロール.....	140
トラクションコントロール （TRC）.....	218
トランスファースイッチ.....	208
トランスミッション オートマチック トランスミッション.....	159
メンテナンスデータ.....	365
トリップメーター 機能.....	79
切りかえ・リセットボタン.....	80

な

内装 収納装備.....	252
手入れ.....	271

に

荷物 積むときの注意.....	148
荷物固定用フック.....	259

ぬ

ぬかるみにはまった （スタック）.....	359
--------------------------	-----

ね

燃料.....	362
給油.....	176
種類.....	362
燃料残量警告灯.....	325
容量.....	362
燃料計.....	79

は

パーキングブレーキ.....	167
操作.....	167
冬季の注意.....	231
ブレーキ警告灯.....	325
未解除走行時 警告ブザー.....	325
メンテナンスデータ.....	366
パーソナルランプ.....	250
排気ガス.....	42
排出ガス浄化装置.....	227
ハイビーム（ヘッドランプ）.....	168
電球（バルブ）の 交換.....	300, 301
ランプスイッチ.....	168
ワット数.....	367
ハイマウントストップランプ 電球（バルブ）の交換.....	308
ハザードランプ（非常点滅灯）... スイッチ.....	313
電球（バルブ）の 交換.....	305, 307
ワット数.....	367

挟み込み防止機能

パワーウィンドウ.....	134
発炎筒.....	314
バックアップランプ（後退灯） 電球（バルブ）の交換.....	307
ワット数.....	367
バッテリー 交換するとき.....	353
バッテリーがあがった.....	351
バニティ（化粧用）ミラー.....	260
バルブ（電球） 交換要領（外装のバルブ）.....	298
ワット数.....	367
パワーウィンドウ.....	132
ウィンドウロックスイッチ... 初期化.....	133
操作.....	132
挟み込み防止機能.....	134
パワーステアリング パワーステアリング フルード.....	365
パンクした.....	333
番号灯（ライセンスプレート ランプ）.....	168
電球（バルブ）の交換.....	308
ランプスイッチ.....	168
ワット数.....	367
ハンドル （ステアリングホイール）.....	124
位置調整.....	124
スイッチ.....	265

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	218
ヒーター	
オートエアコン	242
パワーヒーター	238, 245
マニュアルエアコン	236
ミラーヒーター	237, 244
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	313
スイッチ	313
電球 (バルブ) の	
交換	305, 307
ワット数	367
尾灯 (テールランプ)	168
電球 (バルブ) の交換	307
ランプスイッチ	168
ワット数	367
ヒューズ	294
表示灯	74
ヒルスタートアシスト	
コントロール	218

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	351
フォグランプ	172
スイッチ	172
電球 (バルブ) の	
交換	302, 307
ワット数	367

ブザー

シートベルト非着用警告	325
パーキングブレーキ	
未解除走行時警告	325
半ドア警告	102
ブレーキ警告	323
リバース警告	164
フック	
買い物フック	263
コートフック	264
荷物固定用フック	259
フロアマット固定フック	24
フューエルメーター (燃料計)	79
フューエルリッド (給油口)	176
給油のしかた	176
冬の前の準備 (寒冷時の運転)	230
冬用タイヤ	230
プリクラッシュセーフティ	
システム (PCS)	186
機能	186
PCS (プリクラッシュ	
セーフティシステム)	
警告灯	324
ブレーキ	
パーキングブレーキ	167
ブレーキ警告灯	323
メンテナンスデータ	366
ブレーキアシスト	218
ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる	143
ブレーキフルード	366

フロアマット	24
フロントシート.....	118
正しい運転姿勢	26
調整	118
手入れ.....	271
ヘッドレスト	122
フロントフォグランプ.....	172
スイッチ	172
電球（バルブ）の交換.....	302
ワット数.....	367
フロント方向指示灯.....	166
電球（バルブ）の交換.....	305
方向指示レバー	166
ワット数.....	367
フロントワイパー	
デアイサー.....	238, 244

へ

平均燃費	84, 88
ヘッドランプ	168
手動光軸調整ダイヤル.....	169
電球（バルブ）の	
交換.....	300, 301, 308
ライトセンサー	170
ランプ消し忘れ防止機能.....	170
ランプスイッチ	168
ヘッドランプオートレベリング	
システム	171
ヘッドレスト	122

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）.....	333
メンテナンスデータ	366
ホイールナットレンチ.....	334
方向指示灯.....	166
電球（バルブ）の	
交換	305, 307
方向指示レバー.....	166
ワット数	367
ホーン（警音器）.....	124
保証	9
補助確認装置	130
ボトルホルダー	255
ボンネット.....	274

ま

マスターウォーニング.....	325
マニュアルエアコン	236
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	83, 86
警告メッセージ.....	327
ドライブインフォメーション	88
トリップ	
インフォメーション	84

み

ミラー	
インナーミラー.....	126
ドアミラー	127
バニティミラー.....	260
補助確認装置	130
ミラーヒーター.....	237, 244

め

メーター（計器類）	
警告灯.....	73, 323
照度調整.....	80
表示切りかえボタン.....	80
表示灯.....	74
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	83, 86
メーター.....	78
メーター照度調整スイッチ.....	80
メカニカルキー.....	98
メンテナンスデータ.....	362

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....	368
雪道ですべて動けない （スタックした）.....	359
油脂類.....	362

よ

4WD システム.....	208
---------------	-----

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	
電球（バルブ）の交換.....	308
ランプスイッチ.....	168
ワット数.....	367
ラジエーター	
オーバーヒート.....	356
メンテナンスデータ.....	365
ランプ	
インテリアランプ.....	250
室内灯.....	249
電球（バルブ）の交換.....	298
パーソナルランプ.....	250
非常点滅灯	
（ハザードランプ）.....	313
フロントフォグランプ.....	172
ヘッドランプ（前照灯）.....	168
方向指示灯（ターンシグナル ランプ/ウインカー）.....	166
ライトセンサー.....	170
ランプ消し忘れ防止機能.....	170
リヤフォグランプ.....	172
ワット数.....	367
ランプ消し忘れ防止機能.....	170

り

リヤアームレスト.....	264
リヤウインドウ デフォッガー	
スイッチ	237, 244
リヤシート	119
リヤステップバンパー	109
リヤデフロック.....	215
リヤフォグランプ.....	172
スイッチ.....	172
電球（バルブ）の交換.....	307
ワット数.....	367
リヤ方向指示灯.....	166
電球（バルブ）の交換.....	307
方向指示レバー	166
ワット数.....	367

る

ルームミラー （インナーミラー）.....	126
ルームランプ （インテリアランプ）.....	249

れ

レーンディパーチャー アラート（LDA）.....	196
冷却水.....	365
水温計.....	79
冬の前の準備	230
メンテナンスデータ	365

冷却装置（ラジエーター）.....	365
オーバーヒート.....	356
メンテナンスデータ	365
レバー	
シフト	159
方向指示	166
ボンネット解除.....	274
ロック（ドア）.....	103

ろ

ロック	
ウインドウロック	133
シフトロック	163
スマートエントリー& スタートシステム	111
チャイルドプロテクター	104
ドア	101
ワイヤレスリモコン	97

わ

ワイパー & ウォッシャー	173
ウォッシャー液の補充.....	281
フロントワイパー デアイサー.....	238, 244
ワイヤレスリモコン	97
作動の合図	102
操作	97
電池の交換	291
半ドア警告ブザー	102
ワックス.....	268
ワット数.....	367

ガソリンスタンドでの情報

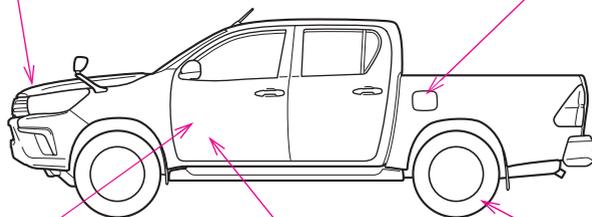
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 274

給油口

P. 178



JPPK082a

ボンネット解除レバー

P. 274

給油扉オープナー

P. 178

タイヤ空気圧

P. 366

燃料の容量 (参考値)	80L			
燃料の種類	超低硫黄軽油 (S10ppm 以下)			P. 176, 362
タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	タイヤサイズ	積載状態	前輪	後輪
	265/65R17 112S	空荷	200 (2.0)	200 (2.0)
積荷		230 (2.3)	250 (2.5)	
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 :			7.0L
	オイルとオイルフィルター交換時 :			7.5L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正キャッスルディーゼルオイル ・ DL-1 0W-30 (JASO DL-1, SAE 0W-30) ・ DL-1 5W-30 (JASO DL-1, SAE 5W-30)			

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 71243
01999-71243
01-2018年 3月16日
2017年 9月12日 初版
2018年 3月23日 3版
ハイラックス